

自己点検・評価報告書

—平成 24 年度—

文 化 学 園 大 学
文化学園大学短期大学部

『平成 24 年度自己点検・評価報告書』 作成にあたって

本学では、大学の質保証のための組織的な自己点検・評価活動として、年度毎に報告書を取りまとめており、本報告書が 7 回目の発行となりました。全学的な FD・SD 活動等とあわせて、自己点検・評価活動をまとめた本報告書をご活用いただくことは、本学の教育の質保証システムの構築ならびに発展のために大いに有効であると捉えております。

本学は平成 23 年 4 月に「文化学園大学」、「文化学園大学短期大学部」と校名を変更し、平成 24 年度からは男女共学を実施することで、新たなスタートをきりました。また文化学園大学は平成 24 年度に公益財団法人日本高等教育評価機構による 2 期目の大学機関別認証評価を受審した結果、「日本高等教育評価機構が定める大学評価基準に適合していると認定する」との認証評価結果をいただきました。その折に、組織的また継続的にまとめられた本学の自己点検・評価報告書は、自己点検・評価活動の重要な資料であるとして高い評価をいただきました。

大学が学生の成長にどれほど寄与しているかを組織的に検証し、PDCA サイクルに沿って教育の質の向上・改善をしていくために、今後も全学的に継続して自己点検・評価活動に取り組んでまいりたいと考えております。

本報告書の作成にあたり、ご理解、ご協力いただきました関係各位に深謝申し上げます。

平成 25 年 7 月 1 日

全学自己点検・評価委員会

本学の自己点検・評価報告書 一覧

1. 『文化女子大学の現状と課題 自己点検・評価報告書 平成 13 年度 (2001)』
2. 『文化女子大学自己評価報告書 平成 17 年度』
3. 『文化女子大学 文化女子大学短期大学部 自己点検・評価報告書—平成 18 年度—』
4. 『文化女子大学 文化女子大学短期大学部 自己点検・評価報告書—平成 19 年度—』
5. 『文化女子大学 文化女子大学短期大学部 自己点検・評価報告書—平成 20 年度—』
6. 『文化女子大学 文化女子大学短期大学部 自己点検・評価報告書—平成 21 年度—』
7. 『文化女子大学短期大学部 自己点検・評価報告書 平成 22 年度』
8. 『文化学園大学 文化学園大学短期大学部 自己点検・評価報告書—平成 22 年度—』
9. 『文化学園大学自己点検評価書 平成 24 年度』
10. 『文化学園大学 文化学園大学短期大学部 自己点検・評価報告書—平成 23 年度—』

目 次

『平成 24 年度自己点検・評価報告書』作成にあたって

協議・審議機関

文化学園大学・文化学園大学短期大学部 大学運営会議・将来構想委員会	8
全学自己点検・評価委員会	10
全学 FD 委員会	12

協議機関

服装学部協議会	16
造形学部協議会	18
学部共通科目協議会	20
現代文化学部協議会	22
文化学園大学短期大学部協議会	24

審議・決定機関

大学院研究科委員会	
生活環境学研究科委員会	28
国際文化研究科委員会	30
教授会	
文化学園大学・文化学園大学短期大学部合同教授会開催記録	32
文化学園大学服装学部・造形学部合同教授会及び短期大学部教授会開催記録	33
現代文化学部教授会開催記録	33
文化学園大学短期大学部教授会開催記録	34

審議機関

常置委員会	
教務委員会	36
学生支援委員会	38
研究委員会	40
入試対策委員会	42
就職委員会	44
特別委員会	
研究倫理委員会	46
研究費不正使用防止委員会	48
ハラスメント防止委員会	49
学部専門委員会	
衣料管理士課程専門委員会	50
建築・インテリア系資格専門委員会	52
文化・語学研修専門委員会	54
日本語教員養成課程専門委員会	56
児童英語教員養成課程専門委員会	57
紀要編集専門委員会「服装学・造形学研究」	58
紀要編集専門委員会「人文・社会科学研究」	60
課程専門委員会	
教職課程専門委員会	61
学芸員課程専門委員会	62
司書課程専門委員会	64
留学制度検討委員会	65

附属機関

文化学園大学図書館	68
文化学園服飾博物館	70
文化学園ファッションリソースセンター	71
文化学園国際交流センター	72
文化学園知財センター	74

共同研究拠点

文化ファッション研究機構	78
--------------	----

附属研究所

文化・衣環境学研究所	82
文化・住環境学研究所	84

事務局

全学 SD 委員会	88
-----------	----

学園本部

学園総務本部	90
学園管理本部施設部	91
学園経理本部	92
IT 委員会(情報システム室)	93

附：委員会委員一覧表	附 2
入学定員・収容定員・在籍学生数	附 4
学部・学科・コース編成	附 5
全学自己点検・評価委員会委員名簿	附 6

協議・審議機関

■検討組織名：文化学園大学・文化学園大学短期大学部 大学運営会議・将来構想委員会

報告者：濱田 勝宏

提出日：平成 25 年 4 月 1 日

本年度の課題 (平成 24 年度)	1. 東日本大震災に伴う学生支援については、引き続き検討を重ね、実施に移すこととする。 2. 平成 24 年度は男子学生（約 100 人）が入学するにあたり、各学部学科での対応に配慮し、課題の抽出と早期解決をはかる。 3. 学生募集の方向性を見定め、その方針に沿った募集活動を活発化させる。 4. 現代文化学部国際文化・観光学科、文化学園大学短期大学部の認知度を高めるとともに、教育課程の改善に努める。 5. 在学生の「キャリア支援」を強化し、休・退学者の減少をはかり、就職率の向上をめざすための方策を講じることとする。 6. 本学としての「寄付金」募集の活動を本格的に進めることとする。【共】
取組の結果と 点検・評価	1. 平成 23 年度に引き続き、平成 24 年度も「東日本大震災奨学金」を実施した。基本的には奨学金申請書により判断し、不公平感が起きないように、学生部を中心として判断基準を定めた。 2. 平成 24 年度は教員・事務職員合同の分科会を 2 回開催した。4 月のテーマは「男女共学化に係る今後の大学教育」9 月は「男女共学化の現状と今後の学生対応」として、いずれも男子学生を迎えて各学部学科における諸問題について協議、情報交換を行った。各々の会の報告書も作成し、報告書から問題点を抽出し各学部学科、担当部署へのフィードバックを行い、共学化 2 年目に向けてさらなる問題点の共有化に努めた。 3. 平成 24 年度は教員による高校訪問を本格化させ、全学的に行った。訪問した高校数も前年比 +145 校であった。質の高い高校訪問を目指し、訪問を行った教員は報告書を提出した。 4. 平成 24 年度から学科名を変更した現代文化学部国際文化・観光学科、平成 25 年度から生活造形学科の募集を停止し、新たなコースを設置した短期大学部服装学科の認知度を高めるべく広報活動を行ったが、平成 25 年度の入学志願状況は厳しい状況であった。平成 26 年度以降の学生募集に向けて、さらにコースの再編成、カリキュラムの再構築を検討する。 5. 各学部学科ともクラス担任・副担任と事務局との密な連絡に努め、休・退学者の減少に対応した。就職率の向上については就職委員会、就職相談室を中心に方策を検討した。 6. 8 月から卒業生を中心に寄付金募集を行った結果、平成 25 年 3 月末の時点で卒業生、在職教職員から 219 件の寄付があった。平成 25 年度以降も引き続き募集活動を行う。【共】
次年度への 課題 (平成 25 年度)	1. 文化学園大学創立 50 周年（平成 26 年）を控え、記念行事の企画とともに、本学のミッションを再点検することとする。【大】 2. 共学化 2 年目における学生の学修状況の把握に努め、引き続き問題点の抽出と対応策の検討を行う。【共】 3. 教員による高校訪問の報告書をもとに、訪問の質的充実と、受験生の増加を目指す。【共】 4. シラバスの点検による各学部のカリキュラムの検証を進め、カリキュラムポリシーに即したカリキュラム再編に資するものとする。【共】 5. 各学部学科のカリキュラム改編のうち、新設コースの認知度を高めるべく、学内外への広報活動に努める。【共】 6. 休・退学者の減少に向けた学修支援等のあり方をさらに検討する。【共】 7. 寄付金募集の活動をさらに強化し、その用途について具体的に検討することとする。【共】

■検討組織名：文化学園大学・文化学園大学短期大学部 大学運営会議・将来構想委員会

開催年月日	会議等の開催記録
平成 24 年 6 月 5 日	1. 「3 つのポリシー」について 2. 武漢紡織大学との提携について 3. 短期大学部の新体制について 4. 短期大学部機関別認証評価について 5. その他 日本私立大学団体連合会主催シンポジウムについて等
平成 24 年 10 月 2 日	1. 平成 25 年度学生募集について 2. 造形学部生活造形学科の名称変更について 3. 海外提携校の状況について 4. 武漢紡織大学との提携について 5. 2013 年度 IFFTI 総会開催について 6. 服飾文化共同研究拠点について 7. 研究戦略検討会について 8. 平成 25 年度入学式・オリエンテーションスケジュールについて 9. その他 平成 25 年度任期制助手の採用について等
平成 25 年 1 月 22 日	1. 現代文化学部学費改定について 2. 海外提携校について 3. 平成 25 年度入試状況について 4. 全学 FD 委員会報告 5. 2014 IFFTI 国際会議について
平成 25 年 3 月 22 日	1. 文化ファッション研究機構について 2. 2014 IFFTI 国際会議について 3. 労働契約法改正について 4. G 館の研究室・実習室等の移転について

■検討組織名：全学自己点検・評価委員会

報告者：佐藤 真知子

提出日：平成 25 年 3 月 31 日

本年度の課題 (平成 24 年度)	『文化学園大学 文化学園大学短期大学部 自己点検・評価報告書 平成 23 年度』のまとめ・公表【共】 2 期目の新認証評価システム確定後、「試行評価」から「認証評価」への変更作業等に対応【大】 『文化学園大学 文化学園大学短期大学部 自己点検・評価報告書 平成 24 年度』の原稿執筆依頼【共】
取組の結果と 点検・評価	『文化学園大学 文化学園大学短期大学部 自己点検・評価報告書 平成 23 年度』のまとめ・公表 各審議機関の協力により編集作業は順調であったが、受審した認証評価の結果を踏まえたものとするため、平成 24 年度は日本高等教育評価機構の「認定」との評価を 6 月に受けた後、例年より 1 カ月遅れの 7 月 1 日付で発行。学内及び関連部署に配付し、本学ホームページで公表した。【共】 2 期目の新認証評価システム確定後、「試行評価」から「認証評価」への変更作業等に対応及び「平成 24 年度大学機関別認証評価」受審結果の公開 4 月 6 日、新認証評価システムによるため一部加筆訂正し、『平成 24 年度 大学機関別認証評価 自己点検評価書』を提出した。 4 月 23 日、評価員による『平成24年度 大学機関別認証評価 文化学園大学 調査報告書（案）』が届いた。 5 月 8 日、上記(2)の調査報告書案に対して、若干の文言修正を求める意見申し立てを提出した。 6 月 12 日、「日本高等教育評価機構の定める大学評価基準に適合していると認定する。」という評価の判定結果が通知された。「基準 4. 自己点検・評価」については、第 1 回目の認証評価の折「評価結果」に付された「参考意見」などは全て改善に結び付けられている。自己点検・評価の活動は、恒常的な PDCA サイクルによるものであり、自己点検・評価が見事に実質化され有効に機能していると評価された。後日、認定証・認定マークが送付され、内容は同機構のホームページにて公表された。【大】 『文化学園大学 文化学園大学短期大学部 自己点検・評価報告書 平成 24 年度』の原稿執筆依頼 執筆依頼先、様式及び執筆要領、スケジュール等を検討した後、締め切りを平成25年 4 月 1 日とし、1 月の教授会にて執筆を依頼した。【共】 - シラバス見直し作業への参画 学生アンケートの結果を受けて、授業内容を精査し重複を避け、将来的にはカリキュラムのスリム化にも資するため、全学 FD 委員会を中心にして全学自己点検・評価委員会、教務委員会が合同でシラバスの見直しを行うことになった。10 月より 12 月にかけて服装学部と造形学部の総合教養及び専門科目の点検・見直しを行い、表記の修正に加え内容の改善に向けて提言をした。現代文化学部は独自でカリキュラムの見直しを進めていること、短期大学部はカリキュラムの大幅見直しの直後であることから、今回の作業は対象外とした。【大】
次年度への 課 題 (平成 25 年度)	『文化学園大学 文化学園大学短期大学部 自己点検・評価報告書 平成 24 年度』のまとめ・公表【共】 - 認証評価結果の検討と対応【大】 - 連携した自己点検・評価活動の推進【共】 『文化学園大学 文化学園大学短期大学部 自己点検・評価報告書 平成25年度』の作成【共】

■検討組織名：全学自己点検・評価委員会

開催年月日	会議等の開催記録
平成 24 年 4 月 24 日	『文化学園大学 文化学園大学短期大学部 自己点検・評価報告書 平成 23 年度』についての報告書原稿提出状況の報告 スケジュール、発行日の確認を行った。 - 日本高等教育評価機構による大学機関別評価について、進捗状況の報告 評価員から示された「調査報告書案」は、概ね納得できる評価案であり、若干の文言修正のみの指摘に留まった。
平成24年 10 月 30 日	- 日本高等教育評価機構による大学機関別認証評価の受審結果報告 6 月 12 日付で「適合している」と認定され、通知された。 『文化学園大学 文化学園大学短期大学部 自己点検・評価報告書 平成 23 年度』について報告 認証評価に対応して例年より 1 カ月遅れではあったが、滞りなく発行・配付・大学ホームページに掲載した。 『文化学園大学 文化学園大学短期大学部 自己点検・評価報告書 平成 24 年度』について執筆の依頼先及び依頼方法と日程の確認（平成 25 年 1 月 8 日教授会にて執筆依頼） - FD 活動の一環として実施された、シラバスの見直し作業の経緯と進捗報告
平成 25 年 2 月 19 日	『文化学園大学 文化学園大学短期大学部 自己点検・評価報告書 平成 24 年度』作成について - 本委員会の『文化学園大学 文化学園大学短期大学部 自己点検・評価報告書 平成24年度』記述内容の検討

■検討組織名：全学FD委員会

報告者：星野 茂樹

提出日：平成 25 年 4 月 1 日

本年度の課題 (平成 24 年度)	1. 本委員会メンバーの交代による新 FD チームの結成 2. 平成 23 年度実施の「学生によるカリキュラム・授業改善アンケート」の結果の活用 3. 平成 25 年度「全学 FD・SD 研修会」の企画 4. 各委員会との連携強化 5. 他大学の「FD 活動」に関する情報収集と交流の促進 【共】
取組の結果と 点検・評価	1. 本委員会新メンバーによるチーム構成でのスタートとなった。学生の質的变化が進んでいる中、平成 25 年度は、男女共学 2 年目という時期に入る事等に伴う今後の委員会の役割、活動方針等の確認の為にミーティングに時間を割き、チームとしてのコンセンサスを得た。 2. 平成 23 年度実施の「学生によるカリキュラム・授業改善アンケート」の結果の活用については結果報告書として全研究室に配信する等を行ってきたが、アンケート自体についての改善検討も行った。ただし、その活用の実施策については平成 25 年度への検討課題とした。 3. 平成 24 年度「全学 FD・SD 研修会」は 4 月 3 日に実施した。 当研修会における分科会（テーマ：男女共学化に関わる今後の大学教育―教員と職員の協力のあり方―）の報告書を配布した。またその内容を基に検討した結果、新たに全教職員による「秋の分科会」（テーマ：男女共学化の現状と今後の学生対応）を企画し、9 月 6 日に実施し、同報告書を作成、配布した。 平成 25 年度「全学 FD・SD 研修会」の企画については、開催方針と分科会のテーマ等を検討、3 部構成とし、①各学部教育方針の発表、②学生の質的变化、学業以外の問題に対応すべく、心理カウンセラーによる講演を計画した。③分科会に於いては「秋の分科会」の討議内容報告に基づきテーマを複数抽出し、具体的な改善策発掘を狙うものとし、教職員の教育力の強化につながる企画とした。①②の企画には、平成 23 年度同様、非常勤講師の参加をお願いした。 4. 各委員会との連携強化 全学自己点検・評価委員会、教務委員会、及び大学教務課との連携により、服装学部、造形学部の授業計画書（シラバス）の授業内容重複、記載方法等のチェックを行い平成25年度シラバス作成の改善に繋げた。 5. 他大学の「FD 活動」に関する情報収集と交流の促進 平成 25 年 2 月 23・24 日開催の「2012 年度第 18 回 FD フォーラム」（於：京都 大学コンソーシアム京都主催）に参加し、他大学発行の FD 関連レポートの収集及び交流を図った。その後、委員会において情報の共有化を行った。 【共】
次年度への課題 (平成 25 年度)	1. 平成 25 年度「全学 FD・SD 研修会」及び「秋の分科会」の実施 2. 平成 26 年度「全学 FD・SD 研修会」等の企画 3. 「学生によるカリキュラム・授業改善のアンケート」の今後の企画、設計、実施方法と結果活用についての企画検討 4. 学生支援委員会をはじめ、各委員会との連携 5. 他大学の「FD 活動」に関する情報収集 【共】

■検討組織名：全学FD委員会

開催年月日	会議等の開催記録
平成 24 年 5 月 29 日	1. 平成 24 年度「全学FD・SD 研修会」の実施内容の反省点 2. 平成 24 年度「全学FD・SD 研修会」分科会報告書の活用について 3. 全学FD 委員会の役割の確認 4. 学生による授業アンケートについて 5. 男女共学化 1 年目に伴う教員の対応について
平成 24 年 6 月 21 日	1. 平成 24 年 9 月実施予定の全学FD・SD「秋の分科会」について 2. 平成 24 年度「全学FD・SD 研修会」分科会報告書について 3. 平成 23 年度授業アンケートについて（改善案の検討）
平成 24 年 8 月 2 日	1. 平成 24 年 9 月実施予定の全学FD・SD「秋の分科会」について（役割分担の検討） 2. 平成 24 年度「全学FD・SD 研修会」分科会報告書について（改善案の検討） 3. 平成 23 年度授業アンケートについて（改善案の検討） 4. 平成 24 年度授業計画の内容確認作業について
平成 24 年 9 月 10 日	1. 平成 24 年度全学FD・SD「秋の分科会」の今後の対応と反省点について 2. 平成 24 年度授業計画の内容確認作業について 3. 平成 24 年度「全学FD・SD 研修会」分科会報告書の作成について 4. 平成 23 年度授業アンケートについて（改善案の検討） 5. 平成 25 年度「全学FD・SD 研修会」計画について
平成 24 年 10 月 17 日	1. 平成 24 年度全学FD・SD「秋の分科会」報告書について 2. 平成 24 年度授業計画（シラバス）の内容確認作業について 3. 平成 25 年度「全学FD・SD 研修会」計画について 4. 平成 24 年度授業アンケートの実施について
平成 24 年 11 月 7 日	1. 平成 24 年度全学FD・SD「秋の分科会」報告書について（問題点の検討） 2. 平成 24 年度授業計画（シラバス）の内容確認作業について 3. 平成 25 年度「全学FD・SD 研修会」計画について
平成 24 年 12 月 6 日	1. 平成 24 年度全学FD・SD「秋の分科会」報告書について（問題点の検討） 2. 平成 25 年度「全学FD・SD 研修会」計画について 3. 「2012 年度第 18 回 FD フォーラム」について
平成 25 年 1 月 9 日	1. 平成 24 年度全学FD・SD「秋の分科会」報告書について（問題点の検討） 2. 平成 25 年度「全学FD・SD 研修会」計画について
平成 25 年 2 月 12 日	1. 平成 25 年度全学FD・SD「秋の分科会」の実施について 2. 平成 25 年度「全学FD・SD 研修会」（4 月）について（実施内容の確認） 3. 平成 24 年度全学FD・SD「秋の分科会」報告書について（問題点の検討）
平成 25 年 3 月 1 日	1. 平成 25 年度「全学FD・SD 研修会」の準備・確認について 2. 平成 24 年度「全学FD・SD 研修会」「秋の分科会」の要望についての検討 3. 『文化学園大学 文化学園大学短期大学部 自己点検・評価報告書 平成 24 年度』の本委員会報告内容の確認

協 議 機 関

■検討組織名：服装学部協議会

報告者：池田 和子

提出日：平成 25 年 4 月 1 日

本年度の課題 (平成 24 年度)	1. 中途退学者の防止に向けて、学生調査を実施し、学生異動の指導用ガイドライン策定の周知徹底を通して教員の意識改革の推進を図る。【共】 2. キャリアデザイン教育については、継続して実施するとともに、その大系化を具体的に計画する。【大】 3. 共学化初年度として、入試方法やカリキュラム等の検証を行い、今後の共学のあり方を検討する。【共】 4. 教育 GP の補助金削減を受け、USR (University Social Responsibility) 推進室の 5 つの活動 (①企業活動②地域や社会③卒業生④在校生⑤保護者) の再検討等を行う。【大】 5. グローバリゼーションに対応すべく、本学の特徴について学内外の視点から点検し、再検討する。【共】 6. 教員構成の適正化を図るとともに、若手教員の養成計画を推し進める。【共】 7. 教室・設備に関しての適正化の見直し【共】
取組の結果と点検・評価	1. 異動を希望する学生の対応に関しては、ガイドラインを吟味し議論を重ねることで共通理解が浸透し上手く機能するまでに進化した。しかし、中途退学者の防止の効果は限定的であった。【共】 2. 「キャリアデザイン(展開編)ーコースセミナー」の学部共通の講演会として、5 月に小池百合子氏による「ファッションから環境を考える」を実施した。【大】 体系化のための検討としてカリキュラムの検討をはじめた。【共】 3. 共学化初年度の入試方法としては、推薦入試に初めて面接試験を導入した。 共学化対応のカリキュラム内容は科目別に実施しながら検証を行った。【共】 4. USR 推進室の 5 つの活動は、全体に縮小を余儀なくされたが、継続の重要性を優先し、5 つとも主要活動は実施することができた。【大】 5. 「服装学部海外インターンシップ検討委員会」を立ち上げ、海外提携校候補の 2 校 (香港・オーストラリア) を訪問、具体的締結の協議に入った。また、中国の武漢紡織大学と提携校締結を行い教員・学生相互の活発な交流を実施した。【大】 6. 教員構成は、新旧の交代と共に企業からの招聘を順調に進めることができた。若手教員の研究環境整備に向けて学部を超えた研究会が立ち上がった。【共】 7. テキスタイル教育環境の整備を目指した計画では、平成24年度私立大学教育研究活性化設備整備費補助金の採択により 1 年前倒しで「ホールガーメント機」4 台と「大型プリンター」1 台を導入することができた。【大】
次年度への課題 (平成 25 年度)	1. アパレル産業界の視点に立った服装学への見直しを行い、学部 6 コース及びカリキュラム全体の再構築に向けた検討を開始する。【大】 2. 学部キャリアデザイン教育については、継続して実施するとともに、その体系化を具体的に計画する。【大】 3. 環境教育、地域連携、企業連携を重視し、積極的に関連科目の推進充実を図る。【共】 4. 「2014 IFFTI 国際会議」の本学での開催にあたり服装学部による卒業研究展示、短期大学部専攻科による学長賞受賞作品展示等を実施する。【共】 5. USR 推進室の 5 つの活動 (①企業活動②地域や社会③卒業生④在校生⑤保護者) の更なる活性化及び充実に取り組む。【大】 6. 平成 27 年度実施の「武漢紡織大学からの編入学」と「グローバルファッションマネジメントコース」を円滑に行う準備を開始する。【大】 7. 平成 24 年度に導入した「ホールガーメント機」と「大型プリンター」の積極的活用と、指導教員の養成を行い、テキスタイル教育環境整備を進める。【大】

■検討組織名：服装学部協議会

開催年月日	会議等の開催記録
平成 24 年 4 月 2 日	1. 新年度の確認事項（入学生数、進学フェスタ日程、バザー委員会スタッフ、服装造形学科のファッションショー協力依頼、共同研究課題募集）2. 文化・衣環境学研究所 文部科学省戦略的研究基盤形成支援事業「高機能アパレル開発に向けた動態学的基礎研究」の研究発表会開催 3. 中国「武漢紡織大学」と提携校調印（平成24年 3 月 26 日調印式）4. 日本繊維製品消費科学会年次大会本学開催案内
平成 24 年 5 月 1 日	1. 「キャリアデザイン(展開編)ーコースセミナー」の計画立案 2. 文化学園大学杉並高校・高大連携講座「ファッションデザイン画」の実施計画立案 3. 服装造形学科ファッションショーの報告 4. 共学化初のフレッシュマンキャンプ協力依頼 5. 卒業研究学長賞展示報告
平成 24 年 6 月 19 日	1. 進学フェスタ報告・公開授業の予定確認 2. 「キャリアデザイン(導入編)ーフレッシュマンキャンプ」報告 3. カリキュラム変更案承認（平成 24 年 7 月 10 日教授会承認）4. 学内研究発表会の概要決定
平成 24 年 7 月 10 日	1. 進学フェスタ・サマーオープンカレッジ報告 2. 海外提携校短期研修報告 3. USR 推進室活動報告 4. 平成 24 年度文化祭バザー企画承認 5. 武漢紡織大学との学術交流報告 6. 転学及び学籍移動希望学生の動向報告
平成 24 年 9 月 6 日	1. A0 入試 1 期エントリー状況報告 2. 服装学部センター試験利用入試の申請 3. 学内研究発表会進行報告 4. USR 推進室活動報告（エコプロダクト展参加、小田急百貨店新宿本店 50 周年記念イベント参加、ウエディングプロジェクト等）5. 共学化について討議
平成24年 10 月 16 日	1. A0 入試 1 期合格者数報告 2. 新設科目「スタディスキルズ」承認 3. 文部科学省補助金「平成24年度私立大学教育研究活性化設備整備事業」の申請中間報告 4. USR 推進室の活動報告 5. 文部科学省戦力的人材養成プロジェクト「グローバルファッションリーダーの育成」の養成ゼミ開講報告
平成24年 11 月 13 日	1. 文化祭報告 2. 入試状況報告 入学事前教育プログラムの実施 3. USR 推進室の活動報告（Bunka 会、渋谷区地域連携小学校家庭科支援等）4. 平成24年度私立大学教育研究活性化設備整備事業が採択、ホールガーメントとプリンター機器を導入
平成24年 12 月 11 日	1. 平成 25 年度入学者数現状報告 2. 新設科目の内容討議 3. 平成 25 年度 3 年次コース決定調整中の報告 4. USR 推進室活動報告（クリスマスイルミネーション） 5. 海外インターンシップ検討委員会設置 6. 新宿東口「献血ルーム」に学生作品展示報告
平成 25 年 1 月 15 日	1. 平成 26 年度留学生入試実施要項討議 特に日本語試験導入の是非の討議 2. A0 入試 2 期の合格発表 3. 卒業研究発表会日程発表及び学長賞展示担当者決定 4. 文化・衣環境学研究所所報第 4 巻の原稿依頼 5. 平成24年度から開始した特任教員（現役ファッションデザイナー等）4 人の講義終了報告 6. USR 推進室からエコプロダクト展参加報告と企業対応 WG（ワーキンググループ）による服装学部 2 年生全員対象の「自己診断アンケート」結果報告
平成 25 年 2 月 19 日	1. 1 月までの入試の手続き者数結果報告 2. 卒業論文学長賞受賞者と展示担当教員者の決定報告 3. 平成25年度「キャリアデザイン(展開編)ーコースセミナー」及びコース別キャリアデザイン(展開編)の予算審議・承認 4. ニットのホールガーメント機と大型インクジェットプリンター搬入報告 5. 学外連携として「shibuya1000」と「川崎ラゾーナプロジェクト」中間報告 6. 文化・衣環境学研究所 文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業が 3 年目で計画通り進行中の報告
平成 25 年 3 月 5 日	1. 平成24年度入学手続き者数現状報告 2. USR 推進室による 5 つの WG の 1 年間の活動報告 3. 平成24年度「キャリアデザイン(展開編)ーコースセミナー」の学部共通のキャリアデザインプログラムの企画案報告 4. 平成25年度に向けての教室・研究室の移動状況報告 5. 平成26年度の留学生入試に日本語能力試験の実施を確定 6. 文化祭バザーのアンケート報告

■検討組織名：造形学部協議会

報告者：堀尾 眞紀子

提出日：平成 25 年 4 月 1 日

本年度の課題 (平成 24 年度)	1. 平成 25 年度入学生から造形学部生活造形学科では「映像クリエイションコース」、建築・インテリア学科では「住生活デザインコース」をそれぞれ立ち上げるため、双方とも具体的授業内容と設備等の検討と具現化を図る。【大】 2. 造形学部の特徴を活かした産学連携・地域連携型教育をさらに推進する。【大】 3. 共学化に伴う諸問題把握と改善策については継続的に検討し具現化する。【共】 4. 学生支援の必要性の高まりに対応し、キャリアデザイン教育の 4 年間の体系化を検討する。【大】 5. 「造形学部ホームページ」は大幅なリニューアルを実施する。社会、企業、卒業生との連携強化、及び学生募集活動への機能強化を含め、更なる内容充実と改善を推進する。【大】 6. 造形学部両学科の新コース立ち上げを牽引力として、学部の活性化及び学生募集につなげるため、新コースの広報を目的とした講演会等のイベントを積極的に実施する。【大】 7. 両学科間、及びコース間の使用スペースの調整と合理化を実施し、各学科、各コースの教育機能の更なる円滑な運営を促進する。【共】
取組の結果と 点検・評価	1. 造形学部生活造形学科の「映像クリエイションコース」、建築・インテリア学科の「住生活デザインコース」立ち上げにおいては検討 WG を組織、協議の結果、専門性に則った 4 年間の総合的カリキュラムの構築、教員及び教場の確保を行い、平成 25 年度入学生からの実施に向け体制を整えた。【大】 2. 「産学連携型教育」については小田急電鉄との連携によるフリーマガジン『オダディとキュームスメ』を発刊、小田急沿線に 10 万部配布した。「地域連携型教育」については「多摩産材を活用した家具・インテリア小物のデザイン」「長野県須坂市の古民家再生プロジェクト」「染めの小道」等の取組を成功させ、報告会・パネル展示を行い、学外への公表として成果をあげた。またこれらの取組を「平成 24 年度造形学部年間教育活動報告集」に掲載、多方面に配布した。【共】 3. 共学化に伴い、全学 FD 委員会及び 1 年生の担任・副担任から提起された諸問題を中心に、各学科会議及び学部協議会において充分検討し就職への意識向上を主軸に具体的改善策を講じた。【共】 4. キャリア形成教育科目については、学生の視点や外部企業のキャリア形成プログラム体験等の情報収集も含めた改善方策の検討を行った。また「クリエイティブキャリア論 A、同 B」については新たに専門教員の担当とし、キャリア教育の体系化につとめた。【共】 5. 「造形学部ホームページ」については従来の内容の大幅リニューアルを実施し、学生の制作プロセス公表を通して社会・企業への情報発信とし、機能上もパソコン上だけでなくスマートフォン対応とし、卒業生との連携をはかるとともに、学生募集活動の機能強化を図った。【大】 6. 造形学部両学科の活性化につなげるため、新コースの広報を目的とした講演会を 2 度にわたって開催、両会とも 300 人規模の高校生・保護者が集い、学生募集の機会ともなった。【大】 7. 各学科、各コースの教育機能の円滑な運営を促進するため実地調査、聞き取りに基づいた検討を十分に重ね、使用スペースの調整及び共有化などの合理化を実施した。【大】
次年度への 課 題 (平成 25 年度)	1. 造形学部で平成 25 年度入学生より発足する「映像クリエイションコース」、「住生活デザインコース」各コースの科目のシラバス点検と体系化を図ることで時代への対応と更なる教育内容の充実を目指し、造形学部活性化の牽引力とする。【大】 2. 造形学部の学科・コース・学年を超えた連携及び教育内容の活性化を推進するためにプレゼンフォーラムを実施する。平成 24 年度に続き明治大学主催「e-プレゼン・コンテスト」に参画、他大学との交流を図り成果を「造形学部年間教育活動報告集」で学内外に広く公表する。【大】 3. 造形学部の特徴を活かした産学連携・地域連携型教育をさらに推進する。【大】 4. 「造形学部ホームページ」の更なる内容充実と改善を推進し、学生の制作プロセス公表を通して社会、企業、卒業生への情報発信とし本学部教育内容の学内外への広報につなげる。【大】 5. 「キャリア形成教育科目」の更なる体系化を図り「キャリア支援講座」並びに「キャリアアップ資格特別講座」を実施、職業人意識、資格取得の意義を学ぶ機会とする。【共】

■検討組織名： 造形学部協議会

開催年月日	会議等の開催記録
平成 24 年 4 月 2 日	1. 平成 24 年度入学試験、造形学部結果報告と今後の方向について審議 2. 造形学部共通予算に基づく今年度の活動企画についての報告 3. 平成 24 年度広報、造形学部ホームページ、及び産学連携活動について現状を報告 4. 「キャリアデザイン(導入編)－フレッシュマンキャンパー」、 「同(展開編)－コースセミナー」の企画についての依頼
平成 24 年 5 月 1 日	1. 平成 24 年度進学フェスタ及び高校訪問について報告 2. 「キャリアデザイン(導入編)－フレッシュマンキャンパー」についての企画内容報告 3. 「キャリアデザイン(展開編)－コースセミナー」についての報告と依頼 4. インターンシップ募集について報告
平成 24 年 6 月 19 日	1. 学内研究発表会についての報告と依頼 2. 「キャリアデザイン(導入編)－フレッシュマンキャンパー」についての結果報告 3. 造形学部プレゼンフォーラムに関連し、明治大学主催「e-プレゼンコンテスト」について報告
平成 24 年 7 月 10 日	1. 平成 24 年度卒業研究展の実施方法について検討 2. 高等学校へ出張授業について依頼と現状を報告 3. 新宿区防犯対策の一環として、新宿警察署からの新宿百人町路地横壁画作成依頼について報告 4. 国際ファッション産学推進機構委員会の現状について報告 5. 造形学部ホームページのリニューアル計画について詳細報告
平成 24 年 9 月 6 日	1. 平成 24 年度卒業研究展オープニングセレモニーについて審議 2. 生活造形学科の学科名変更についての方針の報告と審議 3. 生活造形学科のカリキュラム変更について報告 4. 平成 24 年度卒業研究展での作品人気投票 (HOT20) について審議
平成 24 年 10 月 16 日	1. 平成 24 年度文化祭について各担当から進捗状況を報告 2. 造形学部の教室使用計画について報告 3. 造形学部広報及び新コース設置に関する担当者について報告と依頼 4. 平成 24 年度産学連携活動として実施した小田急フリーペーパー企画制作について結果を報告 5. 文化・住環境学研究所についての平成 24 年度活動方針を確認
平成 24 年 11 月 13 日	1. 平成 25 年度の授業「スタディスキルズ」について方針を報告 2. 平成 24 年卒業研究展、短期大学部生活造形学科創作実習展についての報告と依頼 3. 造形学部ホームページ(愛称:「トランク」)のアクセス状況と内容について報告 4. 平成 26 年度向け入学案内について計画を報告
平成 24 年 12 月 11 日	1. 平成 25 年度推薦入試、A02 期及び留学生 1 期入試について結果を報告 2. 「造形学部年間教育活動報告集」についての報告と依頼 3. 地域連携活動に関連した「shibuya1000」についての計画を報告
平成 25 年 1 月 11 日	1. 平成 25 年度編入学試験の応募状況について報告 2. 平成 24 年度卒業研究展・短期大学部生活造形学科創作実習展について設営計画の報告と依頼 3. 「キャリアデザイン(展開編)－コースセミナー」のアンケート結果についての報告と今後の内容について検討依頼
平成 25 年 2 月 19 日	1. 平成 25 年度一般入試 A 日程及びセンター試験利用入試 S 期・I 期の結果について報告 2. 卒業研究展・創作実習展の結果を報告 3. 文化学園内での教室移動についての状況報告と依頼 4. 8 月に実施した新宿百人町壁画についての平成 25 年度に向けての依頼について報告
平成 25 年 3 月 5 日	1. 平成 25 年度一般入試 B 日程、センター試験利用入試Ⅲ期、留学生 2 期入試結果について報告 2. 平成 25 年度学部共通予算についての報告と依頼 3. 平成 25 年度造形学部事業計画の報告と承認

■検討組織名：学部共通科目協議会

報告者：濱田 勝宏

提出日：平成 25 年 4 月 1 日

本年度の課題 (平成 24 年度)	1. 総合教養における「スタディスキルズ」に相当する科目の開設に向けて教育内容、授業形態の検討と各学部専門科目担当者への意識の共有化をはかる。また、開講する場合の実務上の諸問題、担当者、時間割上のコマ設定等の問題を洗い出し、検討する。【大】 2. 総合教養科目の内容の更なる多様化を図るために、現行、「A、B」で対応している科目の一本化（半期圧縮化）の可能性の検討と可能な範囲からの実現をはかる。【大】 3. 進学フェスタ、文化祭（特にグリル）、等への参画の方法について検討する。【共】 4. 新入生オリエンテーションに「外国語科目の履修について」の時間帯を確保し、その適切な運用について検討する。それによって英語のプレースメントテストの受験率の改善をはかる。【共】 5. 中国語履修に定員制を設け、同時に履修希望者数と現行のコマ数の妥当性を検討する。【共】 6. 短期大学部のカリキュラム変更に対応した本協議会の取組を検討する。【短】
取組の結果と 点検・評価	取組の結果 1. 服装学部、造形学部の総合教養科目の中に「スタディスキルズ」を新設することを、教務委員会へ審議申請した。＜11 月教授会にて承認＞ また、各学科と連絡、調整のための担当者を置き、専門科目担当者との意識の共有化を図った。同時に第 1 グループを中心に必修科目として開講することに伴う、実務上の諸問題の洗い出しと対応策の検討を行った。【大】 2. 服装学部、造形学部の総合教養科目で、同一科目名を「A、B」に分け 2 科目として開講している科目の原則一本化を図り、一部を除いて原則半期 1 科目を実現した。＜10 月教授会にて承認＞アンケート等によって開講を要請されてきた科目の新設の可能性を検討し、条件が整った科目の開講が実現した。＜10 月教授会にて承認＞【大】 3. 文化祭の大学グリルにおいて担当教員と副手がそれぞれ役割を担った。また、新たに高校訪問、小中学生のための夏期講座の参画について第 2 グループを中心に検討、実現した。【共】 4. 新入生オリエンテーションに「外国語科目の履修について」の時間帯を設け、3 言語になり 2 年次選択科目が大幅に増加した外国語科目の履修方法について新入生への徹底を図った。【共】 5. 中国語の選択者数の把握と、コマ数に対する適切な学生数の確保のため、定員制を設けた。抽選することを予想していたが、結果として定員をオーバーすることはなかった。【共】 6. 短期大学部のカリキュラム変更に対応した担当者の入れ替えを行った。また、短期大学部の総合教養科目の単位数を現行 8 単位から 6 単位に変更し、3 系列の枠を廃止した。＜10 月教授会にて承認＞【短】 点検・評価 平成 24 年度に課題として設定した事項は概ね達成された。 特に総合教養科目にかねてから要望の多かった新科目が増設され、より多様性を確保することができた。また、総合教養科目の 3 系列の外に新たに独立した「スタディスキルズ」を新設し、1 単位必修として平成 25 年度から新入生対象に開講の運びとなった。本学の初年次教育の充実化に向けて、服装学部、造形学部の各学科を超えて共通の科目を開設することができた。
次年度への 課題 (平成 25 年度)	1. 多方面の関係者が担当する「スタディスキルズ」をスムーズに確実に運営するために、担当科目を超えた関係者の検討の場を設定する。また、より充実した内容としてゆくために、アンケートの実施等の対策を検討する。結果として満足度の高い初年次教育の実現を目指す。【大】 2. 外国語科目の 2 年次選択科目の初年度を振り返り、各科目の学生数の想定をより現実に即したものとするための対策を検討する。【共】 3. 引き続き、英語のプレースメントテストの受験率の改善のため、方策を検討する。【共】 4. 進学フェスタ、文化祭（特にグリル）、高校訪問等への参画の方法について検討する。【共】 5. 資格関連科目の充実化の一環として卒業生とより緊密な連携を図るよう対策に取り組む。【共】

■検討組織名：学部共通科目協議会

開催年月日	会議等の開催記録
平成 24 年 4 月 2 日	1. 委員会報告 学生支援委員会 学生食堂への要望を厚生課へ提出 2. 小グループ報告 学部総合教養科目 2 単位化に関する調査結果、「スタディスキルズ」シラバス案 3. その他 小中学生対象の夏休み体験講座
平成 24 年 5 月 1 日	1. 委員会報告 入試対策委員会 高校訪問の時期を 5.6 月に変更 2. 小グループ報告 学部総合教養科目 2 単位化を前提に新設科目案を作成、新カリキュラムを 7 月に提出、「スタディスキルズ」は必修を前提に必要な最低限のスキル習得を目指す、新入生オリエンテーションの語学履修説明会、中国語選択希望者数 3. その他 紀要編集専門委員の選出
平成 24 年 6 月 19 日	1. 委員会報告 教務委員会 後期開講科目の追加登録 2. 小グループ報告 学部総合教養科目の 2 単位化に伴う新設科目の担当者、「スタディスキルズ」開講可能な方策の検討 平成 25 年度の語学履修のクラス分けと事前調査 3. その他 短期大学部のカリキュラム改定案と担当者、総合教養の単位数
平成 24 年 7 月 10 日	1. 委員会報告 教務委員会 後期開講科目の追加登録、入試対策委員会 高校訪問報告 2. 小グループ報告 学部総合教養科目 2 単位化に伴う科目名変更、新設科目シラバスの進捗状況 3. その他 学内研究発表会、自主参加型バザー「マルシェ・ルネ」、短期大学部の総合教養科目の系列を廃止する方向で教務委員会へ提出
平成 24 年 9 月 6 日	1. 委員会報告 教務委員会 科目名変更、「スタディスキルズ」の学科会議説明 2. 小グループ報告 2 年次語学選択に向けたアンケート原案 3. その他 授業用経費の 3 割削減の遂行
平成 24 年 10 月 16 日	1. 委員会報告 教務委員会 不正行為者の対応、後期科目追加登録、平成 25 年度授業日程 2. 小グループ報告 「スタディスキルズ」の授業内容案、2 年次語学選択のためのアンケート
平成 24 年 11 月 13 日	1. 委員会報告 教務委員会 学部総合教養科目（含「スタディスキルズ」）が教授会承認 追試手続き期間の変更 2. 小グループ報告 「スタディスキルズ」の時間割配分、学科別連絡担当者、2 年次外国語履修希望アンケートの集計結果 3. その他 英語のプレースメントテストの実施期間
平成 24 年 12 月 11 日	1. 委員会報告 教務委員会 コラボレーション科目のシラバス記入用紙への意見 2. 小グループ報告 「スタディスキルズ」の内容を各学科別に検討中、出席管理等を検討中 2 年次外国語科目選択希望アンケートによる開講コマ数の決定 3. その他 「スタディスキルズ」の図書館担当部分
平成 25 年 1 月 8 日	1. 小グループ報告 「スタディスキルズ」の出席取りの担当と 1 年次担任への周知 図書館スタッフとの事前打ち合わせ 2. その他 「スタディスキルズ」のアンケート、学部語学 2 年次選択化の初年度の動向
平成 25 年 2 月 19 日	1. 委員会報告 教務委員会 保護者への成績表の送付 2. 小グループ報告 「スタディスキルズ」のシラバス提出、出席管理に教員と副手で 3 人配置 本協議会担当部分（1, 4 回）の授業担当者
平成 25 年 3 月 5 日	1. 委員会報告 教務委員会 教場テストの問題点 2. 小グループ報告 「スタディスキルズ」に関する新入生と担任への配布資料 3. その他 平成 25 年度事業計画について、初年度教育の重要性について

■検討組織名：現代文化学部協議会

報告者：青柳 宏

提出日：平成 25 年 4 月 1 日

本年度の課題 (平成 24 年度)	1. 「現代文化学部改善検討会」において、ディプロマポリシーを明確にし、それに基づいたカリキュラム、基礎学力の向上、就職支援を含めた学生生活の充実方策など総合的支援のシステムを検討する。また、学生指導を行う上で必要な教員のための研究・教育環境の検討を行う。 2. 「国際文化・観光学科」は、必修化した英語・中国語について具体的な到達目標を設定し、語学力の向上を図る。また、平成 23 年度より刷新した「国際観光」・「新しいビジネス」分野の専門科目のさらなる充実を図る。 3. コミュニティー・オープンカレッジを組織的に運営し、カリキュラムを充実する。 4. キャリア形成教育科目の強化とインターンシップ及び学外研修等を充実させ、2 年生のインターンシップを一部で実施する。 5. 男子学生を学生会、委員会活動やクラブ活動へ積極的に参加させるための支援を行う。 6. 日本人学生による留学生のチューター活動を充実させる。 7. 小平キャンパスへ学校訪問出来校した高校生・保護者に対して、学科の教育内容をより理解しやすくするための常設の学科展示室の有効利用を図る。 8. 教員の研究発表や論文発表、さらに科研費等への応募を積極的に勧めていく。 【大】
取組の結果と 点検・評価	1. 「現代文化学部改善検討会」全17回の会議を通して、「7つの力」、「ディプロマポリシー」、「キャリア形成教育科目」を決定した。「日本語文章作成演習Ⅰ」「日本語文章作成演習Ⅱ」は平成25年度から1年生必修で実施する。平成25年度中に新カリキュラムを提出し、平成26年度から実施予定。 2. 「国際文化コース」「国際観光コース」の統廃合を含めて、科目のスリム化、コア科目の充実を検討した。 3. 平成 24 年度コミュニティ・オープンカレッジは12講座で募集したが、受講者は平成 23 年度の 1/3 に激減し、6 講座しか開講できなかった。平成25年度は休講とし、今後の運営について検討することとした。 4. 国際文化・観光学科の2年生4人が「インターンシップA」を受講した。3年生の「インターンシップB」も合わせると30人がインターンシップを体験した。 5. 平成 25 年度のけやき祭実行委員長に男子学生が選出された。 6. 男子の上級生がいないこともあり、男子留学生に対する日本人チューターの配置がうまくいかなかった。 7. 高校生・保護者の見学が多く、教員も適宜対応することができた。 8. 学内研究発表は6件と多かった。さらに、論文発表、科研費等への応募を勧めたい。 【大】
次年度への 課 題 (平成 25 年度)	1. 「現代文化学部改善検討会」を継続し、学生に大学で勉強する実感を持たせ、就職活動を含めた大学生活の充実、能力開発などの総合的支援を検討する。 2. ディプロマポリシーに基づいたカリキュラムを作成し、ディプロマポリシーを達成するために、学科の教員間の連携を密にし、学科として学生を育てる体制を作る。シラバスも学生の到達目標を明確にし、新しい評価方法を検討する。 3. インターンシップの新規受入企業の開拓、学生の就職先の企業訪問等を行い、就職先企業との繋がりを深めていき、就職に繋げていく。 4. 募集層の拡大と優秀な学生を確保することを目的とし、「国際文化・観光学科」と「応用健康心理学科」を対象に、平成 26 年度入学生から社会人入試と特待生入試を実施する。 5. 日本人学生による留学生のチューター活動を充実させる。 6. 教員の研究発表や論文発表、さらに科研費等への応募を積極的に勧めていく。 【大】

■検討組織名：現代文化学部協議会

開催年月日	会議等の開催記録
平成 24 年 4 月 6 日	1. 現代文化学部改善検討会経過報告 2. 授業の出席管理について 3. 出勤簿の設置場所について 4. 物品費の購入（授業用・研究用）について
平成 24 年 6 月 19 日	1. 現代文化学部改善検討会経過報告 2. 学生支援委員会報告 3. 泰日工業大学短期研修終了について
平成 24 年 7 月 10 日	1. 平成 26 年度社会人入試について 2. 留学生別科について 3. けやき祭アンケートについて
平成 24 年 9 月 6 日	1. 現代文化学部改善検討会経過報告 2. 平成 25 年度 A0 入試 1 期について 3. コミュニティー・オープンカレッジについて
平成24年 10 月 23 日	1. 現代文化学部改善検討会経過報告 2. けやき祭について 3. 出勤簿について
平成24年 11 月 20 日	1. 現代文化学部改善検討会経過報告 2. 平成 25 年度推薦入試について 3. 学内研究発表会について
平成24年 12 月 11 日	1. 現代文化学部改善検討会経過報告 2. 小田急電鉄（株）との産学連携について 3. 大学ホームページのリニューアルについて 4. 平成 25 年度留学生入試 1 期について 5. 後期定期試験について
平成 25 年 2 月 19 日	1. 現代文化学部改善検討会経過報告 2. 平成 26 年度社会人入試について 3. 平成 26 年度特待生入試について 4. 平成 25 年度留学生入試 2 期について 5. 平成 26 年度新入生初年度納入金について

■検討組織名：文化学園大学短期大学部協議会

報告者：濱田 勝宏

提出日：平成 25 年 4 月 1 日

本年度の課題 (平成 24 年度)	- 平成 25 年度に発足する新体制に向けて、内部的整備をはかり、加えて学生確保のための方策を新たに打ち出すこととする。 - 新体制による「3 つのポリシー」の明確化を急ぐこととする。 - 入学案内、ホームページ、各種イベント、地域連携教育等を通じて、新たな文化学園大学短期大学部の認知度を高めるよう努める。 【短】
取組の結果と 点検・評価	- 新服装学科の教育体制に関し、現短大部服装学科研究室と短大部生活造形研究室が協力して検討した。平成 25 年度生活造形学科は 2 年生が最後の学年となる。また専攻科は平成 26 年度をもって被服専攻が終了し、平成 27 年度から新専攻名となる予定である。 - 新服装学科は「ファッションオンリーワン短大」を目指して、計画された。 ファッションビジネスを柱に据えて、ファッションクリエイション・ファッションプロモーションを目的として「アドミッションポリシー」「カリキュラムポリシー」「ディプロマポリシー」を策定した。 - 新入学案内を作成するとともに、短期大学部のホームページの改変に努めた。公開授業やサマーオープンカレッジ等を通じて、新短期大学部構想の紹介や、授業内容の PR に努めた。 地域連携教育については、府中市美術館におけるワークショップ「ティーンズスタジオ」を主催し、認知度を高めることができた。 【短】
次年度への 課題 (平成 25 年度)	- 新短期大学部ワーキンググループを中心として - 新短期大学部服装学科の中長期計画の策定 - 新 3 コース・新専攻科の教育計画に関する PDCA の実行 - 新短期大学部に関する広報（パブリシティ）活動の活性化 - 現服装学科・生活造形学科を中心として - GP 型教育「学生チームによるブランドビジネスモデルの構築」授業の充実 - キャリア支援（就職支援）の強化 - 教員の FD 活動（研究・論文・発表等）の促進 【短】

■検討組織名：文化学園大学短期大学部協議会

開催年月日	会議等の開催記録
平成 24 年 4 月 2 日	1. 平成 24 年度の入学人数及び在籍者数 2. 平成 24 年度クラス担任・副担任 3. 平成 24 年度委員会の担当 4. 平成 25 年度新短期大学部構想 5. 東日本大震災復興支援プロジェクト 6. 委員会活動報告
平成 24 年 4 月 25 日	1. 平成24年度の入学人数及び2年生の状況 2. キャリアデザイン(導入編)ーフレッシュマンキャンパー の計画 3. 平成 24 年度委員会担当 4. 新短期大学部構想 5. 委員会活動報告
平成 24 年 5 月 24 日	1. キャリアデザイン(導入編)ーフレッシュマンキャンパーの報告 2. キャリアデザイン(展開編) ーコースセミナー計画 3. 新短期大学部構想 4. 学内行事・府中市美術館 5. 補講・校外授 業 6. 東日本大震災復興支援プロジェクト 7. 委員会活動報告
平成 24 年 6 月 21 日	1. 入試関係 2. D 館耐震工事 3. 新短期大学部構想 4. マルシェ・ルネ 5. 学内 研究発表会 6. 府中市美術館 7. 研究費管理 8. 補講・校外授業 9. 委員会活動報告
平成 24 年 7 月 19 日	1. 入試関係 2. 新短期大学部構想 3. 学内研究発表会 4. 府中市美術館 5. 文化祭 6. 夏期休暇を控えて 7. 生活造形学科創作実習展 8. AD 画廊展示 9. 委員会活動報告
平成 24 年 8 月 3 日	1. 入試関係 2. 新短期大学部構想 3. 文化学園大学服装造形学講座訂正 4. 学内研究発表会 5. 文化祭 6. 府中市美術館 7. 予算管理 8. 委員会活動報告
平成 24 年 9 月 7 日	1. 入試関係 2. 新短期大学部構想 3. 学内研究発表会 4. 球技祭・文化祭 5. 府中市美術館 6. 専攻科展示企画 7. USR 推進室報告 8. 復興支援プロジェクト 9. AD 画廊展示 10. 委員会活動報告
平成24年10月 11 日	1. 入試関係 2. キャリアデザイン(展開編)ーコースセミナー・文化祭・復興支援プロジェクト 3. 府中市美術館 4. 専攻科展示 5. 平成 24 年度卒業式 6. 新短期大学部構想 7. 委員会活動報告
平成24年10月 17 日	1. 主事挨拶 2. 入試関係 3. キャリアデザイン(展開編)ーコースセミナー 4. 文化祭 5. 生活造形学科創作実習展 6. 府中市美術館 7. 専攻科展示 8. 平成 24 年度卒業式・平成 25 年度入学式 9. 新短期大学部構想 10. 委員会活動報告
平成 24 年 11 月 7 日	1. 入試関係 2. キャリアデザイン(展開編)ーコースセミナー 3. 文化祭 4. 府中市美術 館 5. 専攻科展示 6. 平成 24 年度卒業式 7. 新短期大学部構想 8. 次年度の授業・ 研究用等備品の購入計画 9. 平成 25 年度時間割 10. 委員会活動報告
平成 24 年 12 月 6 日	1. 入試関係 2. キャリアデザイン(展開編)ーコースセミナー 3. 府中市美術館 4. 専攻科展示 5. 平成 24 年度卒業式 6. 新短期大学部計画 7. 委員会活動報告
平成24年12月 18 日	1. 入試関係 2. 府中市美術館 3. 専攻科展示 4. 生活造形学科創作実習展 5. 平成 24 年度卒業式 6. 新短期大学部計画 7. 平成 25 年度産学連携 8. 委員会活動報告
平成 25 年 1 月 10 日	1. 入試関係 2. 府中市美術館 3. GP 教育発表会 4. 専攻科展示 5. 平成 24 年度 卒業式 6. 平成 25 年度短期大学部事業計画 7. 委員会活動報告
平成 25 年 2 月 7 日	1. 入試関係 2. GP 教育発表会 3. 専攻科展示終了 4. 後期コラボレーション科目 5. 卒業不可・進級不可学生の対応 6. 平成 25 年度短期大学部事業計画 7. 委員会活動報告
平成 25 年 3 月 7 日	1. 入試関係 2. 平成 24 年度卒業式 3. 卒業不可・進級不可学生の対応 4. 平成 24 年度のふりかえり 5. 平成 25 年度短期大学部事業計画 6. 委員会活動報告

審 議 ・ 決 定 機 関

■検討組織名：大学院生活環境学研究科委員会

報告者：田村 照子

提出日：平成 25 年 4 月 1 日

本年度の課題 (平成 24 年度)	1. 年間予定事業の遂行による教育・研究の成果をあげることが基本である。平成24年度もオリエンテーション、大学院セミナー、文化祭、博士論文・修士論文発表会・作品展示会等の開催を軸とした、より質の高い事業を推進する。 2. 平成24年度はカリキュラムが大きく変更され、特に新規に「グローバルファッション専修」「アドバンストファッション専修」の2専修が発足する。「グローバルファッション専修」では、英国とチリからの学生を受け入れ、すべての授業を英語で行うため、教員の英語力の向上も必要である。また「アドバンストファッション専修」ではデザイナー4人を特任教員として採用し、新たな人材育成に取り組む。これら新カリキュラム実施の成果を十分にあげることが大きな課題である。 3. 本学が世界のファッション研究・教育のリーディング大学院として発展し世界に認知されることをめざし、文部科学省公募によるリーディングプログラムに応募することを課題としたい。そのためには院生への経済支援・教育環境の整備・研究支援の向上、さらには教員の研究・教育の質の向上こそが重要である。大学院 FD ワーキング・グループ による自己研鑽、国内・海外研修制度による教員研修の実施、教員の学会活動の活性化等が課題である。 【大】
取組の結果と 点検・評価	1. 平成24年度予定した大学院関連行事はいずれも盛会裏に終了。大学院セミナーは参加 73 人、4 人の博士、17 人の修士論文中間報告に対し活発かつ有意義な討議が行なわれた。オムニバス授業は「共通性と独自性」の総合テーマの下、特任教授を含め他大学・企業等からの幅広い陣容による授業がなされた。この他、文化祭への参加、修了パーティの企画実施等についても、院生が自主的に運営、院生相互のコミュニケーションを含め、教育・研究上の成果をあげる事ができた。 2. 委員会は月例で実施、さらにセミナー期間中の集中的ミーティングを通して多くの課題を解決した。大学院独自に発足させた大学院 FD ワーキング・グループ では学生のニーズ調査等活動を推進した。平成 24 年度発足の専修制度は軌道に乗り、新設のグローバルファッション専修には海外から 2 人の学生を受け入れ平成 25 年度は 4 人が決定している。アドバンストファッション専修への新入学生はなかったが平成 25 年度には 4 人の受け入れが決定しており、それぞれカリキュラムの充実を図るとともに、平成 25 年度に向けた改善策についても検討した。 3. 文部科学省公募博士課程教育リーディングプログラム申請のためのワーキング・グループ (WG) を発足させ、今後の大学院体制について議論するとともに申請書を策案し提出した。テーマは「グローバルファッションリーダー養成プログラム一次世代ファッション文化の創生に向けて一」。結果は残念ながら不採択となったが、WG での討議内容は研究科委員会に報告し、今後の展開について討議した。 4. 大学院生への経済支援は「根岸愛子特別奨学金規程」「文化学園大学大学院特別奨励金規程」等により、またティーチング・アシスタント (TA)、リサーチ・アシスタント (RA) 制度の活用により大きく改善した。 【大】
次年度への課題 (平成 25 年度)	1. 年間予定事業の遂行による教育・研究の成果をあげることが基本である。平成25年度もオリエンテーション、大学院セミナー、文化祭、博士論文・修士論文発表会・作品展示会等の開催を軸とした、より質の高い事業を推進する。 2. 平成 25 年度は新カリキュラム完成年度に当たる。特に新規設置されたグローバルファッション専修、アドバンストファッション専修の 2 専修については、各々 4 人の国内外からの学生受け入れが確定しているため、授業内容・設備の充実、英語で授業可能な教員の拡充、教員の英語力のさらなる向上等が課題である。また、修了年次生の論文指導についても十分な対応が課題である。 3. 平成 24 年度の文部科学省公募博士課程教育リーディングプログラムは不採択に終わったが、これを機に、本学が世界のファッション研究・教育のリーディング大学院として発展し、世界に認知されることを目指した次なるステップが課題である。院生への経済支援・教育環境の整備・研究支援の向上、さらには教員の研究・教育の質の向上こそが重要である。大学院 FD ワーキング・グループ による自己研鑽、国内・海外研修制度による教員研修の実施、教員の学会活動の活性化等を平成 25 年度の課題としたい。IFFTI や連携大学を通しての教員・学生の国際交流の推進も視野に入りたい。 【大】

■検討組織名：大学院生活環境学研究科委員会

開催年月日	会議等の開催記録
平成 24 年 4 月 11 日	1. 新構成員の承認 2. 平成 24 年度 TA 承認 3. 「生活環境学特別講義 A・B」をほぼ確定 4. 博士課程教育リディングプログラム（以下 LP）申請について検討、WG を確定 5. 履修取り消し一覧(大学院)書式の様式確認 【被服環境学専攻委員会】1. 平成24年度被服環境学専攻委員会構成員 2. 学位論文申請書類を承認
平成 24 年 5 月 9 日	1. 平成 24 年度特別研究指導教員承認 2. 大学院セミナー日程、参加教員・グローバルファッション（以下 GF）専修院生の参加について審議 3. 「生活環境学特別講義 A・B」の内容報告 4. 平成24年度科学研究費補助金審査結果報告 5. LP 申請概要の報告 6. GF 専修の経過報告 7. 大学院自習室の利用現状及び要望等の調査を検討 8. 学生異動に関する願出様式の変更 【被服環境学専攻委員会】1. 平成 24 年度博士論文指導教員について 2. 学位論文申請後の日程等について 3. 日本学術振興会特別研究員募集について
平成 24 年 6 月 13 日	1. 修了年次生論文テーマの確認、副指導教員承認 2. 大学院セミナー発表プログラム、司会・進行担当教員決定、アンケート検討 3. LP 申請経過報告 4. 被服学特別研究 研究計画書提出状況報告 5. 大学院自習室耐震補強工事連絡 6. 大学院パンフレットの改正、校正依頼 7. 入学試験科目の科目名検討 【被服環境学専攻委員会】1. 博士論文（論文受理審査、審査教員の決定、公聴会・口頭試問等日程の決定）2. 学生異動承認
平成 24 年 6 月 28 日	1. 大学院教育について審議 2. 大学院パンフレット英語併記承認 3. 武漢紡織大学生の入学について検討 4. 大学院 FD ワーキング・グループ アンケート及びヒアリング調査結果配付
平成 24 年 7 月 18 日	1. 大学院セミナーのGF専修報告と参加方法の検討 2. 平成25年度担当教員、休講科目の承認 3. 学生異動の承認 4. 大学院パンフレット、ホームページの英語表記を検討 GF専修担当教員パンフレット記載を承認 5. 修士論文提出状況報告 6. 被服学専攻入学試験科目（専門科目）名変更を審議 7. 文化祭展示内容と方法を承認 8. 大学院活動報告書への論文博士（乙）内容の要旨掲載を承認 9. 院生の入賞報告
平成 24 年 9 月 7 日	1. 担当教員変更、GF 専修、アドバンストファッションデザイン専修論文指導教員を検討 2. 被服学・生活環境学特別研究 研究計画書様式を承認 3. 大学院入試日程の確認 4. 入学試験科目（専門科目）出題責任者を確定 5. 大学院アンケート調査結果報告 【被服環境学専攻委員会】1. 博士論文（乙）最終審査（2 人） 2. 学生異動承認
平成24年10月 10 日	1. 平成25年度担当教員承認 2. GF 専修研究計画書様式の一部修正、研究計画書提出締切日、被服学特別研究提出締切日承認 修了制作提出作品のレベル添付論文のレベル、提出の義務付け等を検討 3. TA 変更等承認 4. 文化学園大学・武漢紡織大学ダブルイグリー（修士）に関する協定書(案)検討 5. 「建築士試験の大学院における実務経験に係る修得単位証明書」様式提出報告 6. 平成23年度活動報告書完成報告 7. 「英語」科目名変更を承認 8. 文化祭展示準備経過報告
平成24年11月 21 日	1. 平成 25 年度 担当教員承認 2. GF 専修研究計画書様式承認 3. 被服学特別研究 研究計画書提出以降修了までの過程検討 4. 特任教員の修了制作審査担当を確認 5. 文化学園大学・武漢紡織大学ダブルイグリー（修士）に関する協定書を承認 6. 文化祭展示報告 7. 平成 25 年度科学研究費補助金提出状況報告 8. 平成23年度活動報告書正誤表配布 9. 院生入賞報告 10. 根岸愛子特別奨学金及び文化学園大学大学院特別奨励金申請書の提出締切日検討 11. 平成24年度研究計画書提出状況報告 【被服環境学専攻委員会】1. 報文について
平成 25 年 1 月 9 日	1. 特任教員の承認 2. 担当教員の承認 3. 根岸愛子特別奨学金・大学院特別奨励金規程の改定承認 4. GF 専修研究計画書提出以降の過程を検討 5. 平成25年度生活環境学研究科委員会日程（案）承認 6. 生活環境学専攻修了制作展日程報告
平成 25 年 1 月 25 日	1. 修士論文審査教員を承認 2. 担当教員承認 3. 次年度の大学院プログラム担当を決定 4. 武漢紡織大学 4 月入学者選考試験について事務局報告 5. GF 専修院生からのヒアリング結果報告
平成 25 年 2 月 21 日	1. 平成 24 年度被服学専攻・生活環境学専攻修了判定(被服学専攻 16 人、生活環境学専攻 3 人)、卒業式の代表者決定 2. 修士論文発表会日程確定 3. 平成25年度「生活環境学特別講義 A・B」テーマ決定：伝統と革新 4. 学生異動承認
平成 25 年 2 月 28 日	1. カリキュラム及び担当教員承認 2. 平成 25 年度 GF 専修修了年次生指導教員決定 3. 平成 25 年度生からの指導教員決定及び研究計画書の提出時期検討 4. 生活環境学専攻の修了要件に関する申合せ事項承認 5. 「生活環境学特別講義 A・B」シラバス案報告 6. 本学大学院における日本学生支援機構第一種奨学金返還免除候補者学内選考規程承認 【被服環境学専攻委員会】1. 平成24年度博士論文提出者最終審査及び修了判定(甲 4 人乙 2 人)

■検討組織名：大学院国際文化研究科委員会

報告者：野口 京子

提出日：平成 25 年 4 月 1 日

本年度の課題 (平成 24 年度)	1. 国際文化研究科の充実のために、アドミッションポリシー・カリキュラムポリシー・ディプロマポリシーの確認、観光文化関連の科目の充実、学生募集のパンフレットとホームページの内容、就職支援も研究指導と並行して強化する。それらの担当を決めて具体化する。 2. 院生が研究しやすい体制をつくるために、教育体制として、院生の研究・自習室整備、院生の修士論文作成に必要な教育環境を整えるための教育資源の充実化をさらに進めていく。 3. 大学院研修会について、指導体制の強化を図るために、年 2 回の研修会を実施したが、さらに、関連分野の他の研究方法のあり方を学び、また、研究論文作成に当たり様々な視点からの指導を受けられるように、宿泊型専修合同研修会の企画を検討する。 4. 「平成 23 年度の国際文化研究科の方向性（I～X）」において審議された、各専修の複合分野創成を視野に入れた研究を進めるために、オムニバス形式の「国際文化研究特別講義」に共通テーマを設定する。その準備も兼ねて、各専修共通の「調査研究法」の科目を設定する。 5. 3 専修（国際文化・国際ファッション文化・健康心理学）横断的テーマを研究していくことにより社会のニーズに応える実践的な提案に繋げていく。複合分野のテーマを肯定的に受け入れていく。 6. 各専修の院生、教員同士のコミュニケーションを強化する。 【大】
取組の結果と点検・評価	1. 国際文化研究科の充実のために、アドミッション・カリキュラム・ディプロマポリシーの確認を行い、観光文化研究新設を含む学生募集のパンフレットと本学ホームページの内容を改定した。ディプロマポリシーを満たす院生輩出のため、就職支援も研究指導と並行して強化した。 2. 院生が研究しやすい体制をつくるために、院生の研究・自習室を整備し、院生の修士論文作成に必要な教育環境を整えた。さらに継続して教育資源の充実化を進めていく。 3. 大学院研修会について、指導体制の強化を図るために、年 2 回の研修会を実施した。院生は、関連分野の他の研究方法のあり方を学び、学際的な視点で指導を受け、研究論文作成に当たった。修士論文にその成果が表れた。 4. 各専修の複合分野創成を視野に入れた研究を進めるために、各専修共通に「健康心理学特論D（調査研究法）」履修を推進した。オムニバス形式の「国際文化研究特別講義」の共通テーマを検討し「民族のこころとファッション」とした。 5. 3 専修横断的テーマを研究していくことにより社会のニーズに応える実践的な提案に繋げていく。複合分野のテーマの選択に時間をかけて取り組んだ。 6. 研究、授業を通して、各専修の院生、教員同士のコミュニケーションが強化された。 【大】
次年度への課題 (平成 25 年度)	1. 通年 4 単位科目を半期 2 単位科目に移行し、専門分野別に半期完結の科目を置き、研究科名に合致した授業内容を持つようにカリキュラムを検討する。また、健康心理学専修は、学会専門資格、あるいは進行中の国家資格取得を視野に入れたカリキュラムを検討する。 2. 以下の教育・研究の成果を上げることが目的とし、「国際文化研究特別講義」（オムニバス形式）を充実させる。①複合分野の研究の創生・強化を図る。②他専修の大学院担当教員の研究内容や研究方法を知り、連携の可能性を模索し、3 専修の共通テーマを発展させる。③上記の実践により、院生のディスカッション力、コミュニケーション力を強化する。 3. 院生として必要な語学力習得と国際化のために、以下を推進し、語学環境を整える。 (1)教材に英文のジャーナル等を援用することにより、グローバルな視点を広げる。 (2)英文によるアブストラクト作成、英語のプレゼンテーション能力向上を図る。 4. 「民族のこころとファッション」を 3 専修研究共通テーマとし、科目の充実を図る。 5. 修士論文が、個人の学問的探求の成果、社会的ニーズへの対応や問題解決に資する提案となるように指導に取り組む。 【大】

■検討組織名：大学院国際文化研究科委員会

開催年月日	会議等の開催記録
平成 24 年 4 月 6 日	院生へのオリエンテーション 1. 平成 24 年度国際文化研究科委員会の教員及び各担当科目の紹介と確認 2. 国際文化研究科の教員と院生の交流と活性化、研究の向上のための研究体制の確認
平成 24 年 4 月 24 日	1. 平成 24 年度の大学院の方向について 指導と研究 2. 学生指導体制について研究科委員会役割分担を調整。将来計画・研究推進・カリキュラム検討・入試対策・行事・交流・TA について
平成 24 年 5 月 22 日	1. 平成 24 年度の大学院の方向について 2. 国際文化研究科特別講義について 3. 研修会 (M2) について 4. 大学院 1 期入試問題について
平成 24 年 6 月 12 日	1. 学生指導体制 修士論文指導主査、副査について 2. 大学院 1 期入試問題について 3. 小論文テーマ担当決定 4. 平成25年度用大学院パンフレット掲載の大学院カリキュラムについて 5. 研究科各委員会の今後の行事予定について 6. 研修会 (M2) [7 月 14 日]について
平成 24 年 7 月 17 日	1. 学生指導体制について 2. 大学院カリキュラムについて 3. 研究科各委員会の今後の行事予定について 4. 入案確認 5. 修士論文指導教員確定
平成 24 年 8 月 7 日	1. 研究科各委員会報告 2. 大学院 1 期入試問題について 平成 25 年大学院入学試験の外国語（日本語）を配布検討。大学院入試における日本語問題のあり方、内容について説明。後日、配点を削除した問題を教学課へ提出。（承認）
平成24年 10 月 16 日	1. 国際文化研究特別講義について 2. 研究科各委員会の今後の行事予定について 3. M1 研修会について 4. 文化学園大学と武漢紡織大学とのダブルディグリー（修士）に関する協定書について
平成24年 11 月 13 日	1. 国際文化研究特別講義について 2. 国際文化研究科カリキュラムについて 3. 研究科各委員会の今後の行事予定について
平成24年 12 月 18 日	1. 国際文化研究特別講義について 2. 国際文化研究科カリキュラムについて 3. 大学院入試 2 期について
平成 25 年 1 月 15 日	1. 国際文化研究特別講義について 2. 国際文化研究科カリキュラムについて 3. 大学院入試 2 期について 4. 研究科各委員会の今後の行事予定について
平成 25 年 2 月 15 日	1. 国際文化研究特別講義について 国際文化研究科カリキュラムについて 2. 大学院入試 2 期について 3. 研究科各委員会の今後の行事予定について 4. 特任教授について 5. 平成 25 年度の修士論文研究計画書提出スケジュールについて

■検討組織名：文化学園大学・文化学園大学短期大学部合同教授会開催記録

報告者：濱田 勝宏

提出日：平成 25 年 4 月 1 日

開催年月日	開催記録
平成 24 年 4 月 2 日	【報告事項】 1. 委員会報告 2. 平成 24 年度新入生数について 3. 平成 25 年度入試関係について 4. 平成 24 年度入学式・保護者懇談会・オリエンテーションについて 5. キャリア形成教育科目「キャリアデザイン(導入編)-フレッシュマンキャンプ-」打ち合わせについて 6. 附属高等学校の大学見学会について 7. 服装学部服装造形学科ファッションショーの開催について 8. 避難訓練について 9. 緊急通報装置について 10. 研究室・教室等の変更について 11. 平成 23 年度卒業判定会議における認定保留者について 12. 博物館展示について 【審議事項】 1. 学生異動について 2. 再入学願出者について 3. 研究生入学許可について 4. 科目等履修生入学許可について 5. 特任教員について
平成 24 年 5 月 1 日	【報告事項】 1. 委員会報告 2. 平成 25 年度入試関係について 【審議事項】 1. 学生異動について 2. 再入学願出者について
平成 24 年 6 月 19 日	【報告事項】 1. 委員会報告 2. 平成 25 年度入試関係について 3. キャリアデザイン(導入編)-フレッシュマンキャンプ-終了について 【審議事項】 1. 学生異動について 2. 留学願出者・留学終了者について
平成 24 年 7 月 10 日	【報告事項】 1. 委員会報告 2. 平成 25 年度入試関係について 3. 前期定期試験について 4. 教員の夏季休暇について 5. 平成 25 年度教員の国内外研修申請について 6. 科学研究費補助金について 【審議事項】 1. 学生異動について
平成 24 年 9 月 6 日	【報告事項】 1. 委員会報告 2. 平成 25 年度入試関係について 3. 第 34 回球技祭について 4. 学生会サミット（代議員大会）について 【審議事項】 1. 学生異動について 2. 転学科願出者について 3. 研究生入学許可について
平成24年12月 11 日	【報告事項】 1. 委員会報告 2. 平成 25 年度入試関係について 3. 造形学部卒業研究展、短大部生活造形学科創作実習展について 4. 年末年始休暇について 【審議事項】 1. 学生異動について
平成 25 年 1 月 8 日	【報告事項】 1. 委員会報告 2. 平成25年度入試関係について 3. 後期定期試験について 【審議事項】 1. 学生異動について 2. 特任教員について
平成 25 年 2 月 19 日	【報告事項】 1. 委員会報告 2. 平成 25 年度入試関係について 【審議事項】 1. 教員異動について [正教授会（第 8 条教授会）報告] 2. 平成 24 年度後期定期試験における不正行為者について 3. 学生異動について 4. 転学・転学部・転学科願出者について 5. 科目等履修生入学許可について
平成 25 年 3 月 5 日	【報告事項】 1. 委員会報告 2. 平成25年度 文化学園大学・文化学園大学短期大学部事業計画について 3. 平成 25 年度入試関係について 4. 平成 24 年度卒業式・平成 25 年度入学式について 5. 教員春季休暇について 6. 新年度のスケジュールについて 【審議事項】 1. 学生異動について 2. 転学科願出者について 3. 科目等履修生入学許可について 4. 学則変更について

■検討組織名：文化学園大学服装学部・造形学部合同教授会及び短期大学部教授会開催記録

報告者：濱田 勝宏

提出日：平成 25 年 4 月 1 日

開催年月日	開催記録
平成 24 年 6 月 19 日	【報告事項】 1. 委員会報告 2. 平成 25 年度入試関係について 3. キャリアデザイン（導入編）－フレッシュマンキャンプ終了について 【審議事項】 1. 学生異動について 2. 留学願出者・留学終了者について
平成 24 年 10 月 16 日	【報告事項】 1. 委員会報告 2. 平成 25 年度入試関係について 3. 平成 25 年度教員昇任審査・任期制教員の再任に関する申請について 4. 平成 25 年度任期制助手の採用について 5. 平成 25 年度副手の採用申請について 6. 平成 24 年度卒業式・平成 25 年度入学式日程について 7. 文化祭について 【審議事項】 1. 学生異動について 2. 平成 24 年 9 月卒業について
平成 24 年 11 月 13 日	【報告事項】 1. 委員会報告 2. 平成 25 年度入試関係について 3. 文化祭関係報告 【審議事項】 1. 学生異動について

■検討組織名：現代文化学部教授会開催記録

報告者：青柳 宏

提出日：平成 25 年 4 月 1 日

開催年月日	開催記録
平成 24 年 10 月 23 日	【報告事項】 1. 委員会報告 2. 平成 25 年度入試関係について 3. 平成 25 年度教員昇任審査・任期制教員の再任に関する申請について 4. 平成 25 年度任期制助手の採用について 5. 平成 24 年度卒業式・平成 25 年度入学式日程について 6. 文化祭について 【審議事項】 1. 学生異動について 2. 平成 23 年 9 月卒業について
平成 24 年 11 月 20 日	【報告事項】 1. 委員会報告 2. 平成 25 年度入試関係について 3. 文化祭関係について 4. けやき祭終了について 【審議事項】 1. 学生異動について

■検討組織名：文化学園大学短期大学部教授会開催記録

報告者：濱田 勝宏

提出日：平成 25 年 4 月 1 日

開催年月日	開催記録
平成 24 年 4 月 25 日	【報告事項】 1. 短期大学部将来構想ワーキンググループ 2. 各主任教授報告 【審議事項】 1. 学生異動について
平成 24 年 5 月 29 日	【報告事項】 1. 新カリキュラムの一部変更について 2. 平成 25 年度入試関係 3. キャリア形成教育科目（導入編）－フレッシュマンキャンパー報告 【審議事項】 1. 学生異動について
平成 24 年 7 月 24 日	【報告事項】 1. 委員会報告 2. 平成 25 年度入試関係 【審議事項】 1. 学生異動について
平成 24 年 12 月 18 日	【報告事項】 1. 委員会報告 2. 平成 25 年度入試関係について 3. 生活造形学科創作実習展・専攻科作品展示について
平成 25 年 2 月 26 日	【報告事項】 1. 短期大学部将来構想ワーキンググループ報告 2. 平成 25 年度入試関係について 3. 短期大学部専攻科被服専攻修了製作作品展示報告 4. 短期大学部生活造形学科創作実習展報告 【審議事項】 1. 学生異動について

審 議 機 関

■検討組織名：教務委員会

報告者：小柴 朋子

提出日：平成 25 年 4 月 1 日

本年度の課題 (平成 24 年度)	1. 「規程集」各項の見直しと改定及び新規規程案の検討 2. 共学化に相応したカリキュラムの充実 3. 「コラボレーション科目」の充実 4. 授業日程の調整と検討 5. 共学化に伴う学生の質の多様化から生じる諸問題の検討 6. 履修登録の時期、及び方法についての検討 【共】
取組の結果と 点検・評価	1. 「規程集」各項の見直しと改定、及び新規規程案の検討 「文化学園大学 FIT 特別留学プログラム実施要項」改定、「文化学園大学 NTU 特別留学プログラム実施要項」改定、「文化学園大学 AUCB 特別留学プログラム実施要項」改定、「文化学園大学・文化学園大学短期大学部 私費外国人留学生授業料減免に関する規程」改定、「単位履修に関する細則（第 21 条、第 11 条）」改定、「単位履修に関する細則（追再試手続き期間）同（不正行為に対する処罰に関する規定）」改定、「文化学園大学・文化学園大学短期大学部奨学金規程」改定、「同取扱い細則」見直し、「文化学園大学・文化学園大学短期大学部大規模災害被災者救援奨学金規程」改定、「同取扱い細則」見直し、「学則変更（文化学園大学学則第 5 章 職員組織 第 20 条）」改定、「教員の任用に関する規程細則」改定、「海外研修 A・B の研修費と渡航費についての申合せ事項」見直し。 【共】 2. 共学化に相応したカリキュラムの充実 総合教養科目カリキュラム改定、各学部カリキュラム改定。 【大】 短期大学部服装学科カリキュラム改定。 【短】 3. 「コラボレーション科目」の充実 平成 25 年度に行う科目内容、コラボレーション科目の実施日に関する検討を行い、コラボレーション期間中の開講に努めるよう申し合わせた。 【共】 4. 授業日程の調整と検討 平成 24 年度は東日本大震災の影響による節電休校期間を設定した。平成 25 年度は、同理由による節電休校は設けず、補講期間を 6 日間とすることを決定した。 【共】 5. 共学化に伴う学生の質の多様化から生じる諸問題の検討 各学科内で共学化に伴う学生の質の多様化から生じる諸問題について検討した。 【共】 6. 履修登録の時期、及び方法についての検討 後期履修登録についての諸問題を検討し、今後の継続審議とした。 【共】 7. その他 全学 FD 委員会と全学自己点検・評価委員会と合同で、シラバスの記載内容についてチェックを実施した。(服装学部・造形学部) 【大】
次年度への課題 (平成 25 年度)	1. 「規程集」各項の見直しと改定、及び新規規程案の検討 2. 授業日程の調整と検討 3. 学生の質の多様化から生じる諸問題の検討及びカリキュラムの見直し 4. 「コラボレーション科目」の充実 5. Web 履修登録実施に向けての諸問題の検討（後期履修登録についてを含む） 【共】

■検討組織名：教務委員会

開催年月日	会議等の開催記録
平成24年4月17日	1. 平成24年度教務委員会3役の選出 2. 平成24年度教務委員名簿(案)の確認 3. 平成23年度「自己点検・評価報告書」「会議等の開催記録」及び引き継ぎ事項 4. 委員会日程の調整
平成24年4月25日	1. 平成24年度第1回定例教務委員会報告 2. カリキュラム改定案の提出スケジュール (小平教務小委員会)
平成24年5月29日	1. 造形学部建築・インテリア学科カリキュラム改定(案) 2. 文化学園大学FIT特別留学プログラム実施要項(改定案) 3. 文化学園大学NTU特別留学プログラム実施要項(改定案) 4. 文化学園大学AUCB特別留学プログラム実施要項(改定案) 5. 後期科目の追加登録について (1～4 平成24年6月19日 定例文化学園大学・文化学園大学短期大学部合同教授会承認)
平成24年7月11日	1. 学部共通基礎教養科目カリキュラム改定(案) 2. 国際文化・観光学科カリキュラム改定(案) (小平教務小委員会)
平成24年7月24日	1. 服装学部服装造形学科・短期大学部服装学科・造形学部生活造形学科カリキュラム改定(案) 2. 現代文化学部カリキュラム改定(案) 3. 海外研修A・Bの研修費と渡航費に関する申合せ事項 (1 平成24年10月16日 定例服装学部・造形学部合同教授会及び短期大学部教授会承認) (2 平成24年10月23日 定例現代文化学部教授会承認)
平成24年8月6日	1. 総合教養科目カリキュラム改定(案) 2. 短期大学部服装学科・造形学部生活造形学科カリキュラム改定(案) 3. 文化学園大学・文化学園大学短期大学部私費外国人留学生授業料減免に関する規程(案) 4. カリキュラム改定案の研究室回覧作成に関する確認事項 5. シラバスの内容に関する点検 (2～3 平成24年10月16日 定例服装学部・造形学部合同教授会及び短期大学部教授会承認) (2～3 平成24年10月23日 定例現代文化学部教授会承認)
平成24年10月2日	1. 総合教養科目カリキュラム改定(案) 2. 単位履修に関する細則の改定 3. 平成25年度授業日程表(案)
平成24年10月23日	1. 総合教養科目カリキュラム改定(案)
平成24年10月30日	1. 総合教養科目カリキュラム改定(案) 2. 単位履修に関する細則の改定 3. 平成25年度授業日程表(案) (1～2 平成24年11月13日 定例服装学部・造形学部合同教授会及び短期大学部教授会承認) (1～2 平成24年11月20日 定例現代文化学部教授会承認)
平成24年11月27日	1. 平成25年度授業日程表(案) 2. 単位履修に関する細則(改定案) 3. 文化学園大学・文化学園大学短期大学部奨学金規程(改定案) 4. 文化学園大学・文化学園大学短期大学部奨学金規程取扱い細則(案) 5. 文化学園大学・文化学園大学短期大学部大規模災害被災者救援奨学金規程(改定案) 6. 文化学園大学・文化学園大学短期大学部大規模災害被災者救援奨学金規程取扱い細則(案) 7. 平成25年度のコラボレーション科目の授業計画書 (2～6 平成24年12月11日 定例文化学園大学・文化学園大学短期大学部合同教授会承認)
平成25年1月8日	1. 司書課程・平成25年度開講科目の英文名について (小平教務小委員会)
平成25年1月29日	1. 学則変更(文化学園大学学則 第5章 職員組織 第20条(改定案)) 2. 成績に関する保護者への開示について 3. 平成25年度追再試験の手続き期間 (1 平成25年2月19日 定例文化学園大学・文化学園大学短期大学部合同教授会承認)
平成25年2月26日	1. 成績に関する保護者への開示について 2. コラボレーション科目の実施日に関する確認事項 3. 後期開講科目の追加登録にまつわる検討
平成25年3月21日	1. 平成24年度「自己点検・評価報告書」「会議等の開催記録」の確認・点検

■検討組織名：学生支援委員会

報告者：スリット チャロンニボ ソーニッチ

提出日：平成 25 年 4 月 1 日

本年度の課題 (平成 24 年度)	1. 共学化に伴う学生支援のあり方 平成 24 年度の共学化に伴い、男子学生への対応のしかたなど、浮上する可能性のある諸問題、初年次生の話す力やコミュニケーション能力の向上開発、少人数担任制のあり方について引き続き検討。 2. 学生の質的变化に対するケアの問題 初年次生の具体的な支援活動及び継続的なメンタルヘルスケアについて、また全教員に共通意識を持ってもらうための方法や、それらセミナー開催などについて検討。 3. 学内巡回 学内におけるマナー（指定以外の場所や時間での喫煙、ごみの投げ捨て、エレベーター内の飲食、無断駐輪、廊下の座り込み、ロッカーの使用など）について指導や巡回の対処法を検討。 4. 各種行事内容の見直し 本学特有の各種行事内容をより充実したものにするための検討。 マナーウォークやドレスコードイベントの全学的取り組みの検討。 【共】
取組の結果と 点検・評価	1. 共学化に伴う学生支援のあり方 男子学生への特別な支援について、特に大きな問題点は浮上していない。ただしいくつか小さな問題は生じている。たとえば、新都心キャンパス上層階男子トイレ数不足は、夏休み中に増設を行った。また食堂での食事の量が少ない、勉強机が狭いなどは、今後検討して行く予定である。また少人数担任制のあり方についても未だ結論が出ず、引き続き全学で検討する予定。 2. 学生の質的变化に対するケアの問題 教員と学生が気楽に話し合える相談室の愛称募集を全学的に行い、認知度をあげるとともに、親しみやすい空間を提供。またメンタルケアセミナー開催などについて引き続き検討。 3. 学内巡回 徹底的な巡回と美化の呼びかけにより、例年以上に学内美化（ゴミ、吸殻、ロッカー使用）が行われた。今後とも継続的な学生のマナーと美化、不審者の対応に対する呼びかけを検討。 4. 各種行事内容の見直し 今年度はマナーウォーク協会とのコンタクトを取っておらず、今後どうするか課題とする。 ドレスコードイベントを全学的に行い大成功に終わったので継続的に行うことを検討。 【共】
次年度への 課 題 (平成 25 年度)	1. 共学化に伴う学生支援のあり方 ひきつづき男子学生が増加する中、その支援や対応のしかたなど、浮上する可能性のある諸問題、また初年次生の話す力やコミュニケーション能力の向上や啓発、少人数担任制のあり方について引き続き検討。 2. 学生の質的变化に対するケアの問題 初年次生の具体的な支援活動及び継続的なメンタルヘルスケアについて、それらセミナー開催などの検討。また各種学生相談のための質及び空間についての検討。 3. 学内巡回 学内におけるマナー（指定以外の場所や時間での喫煙、ごみの投げ捨て、エレベーター内の飲食、無断駐輪、廊下の座り込み、ロッカーの使用など）について指導や巡回、不審者の対処法などを検討。 4. 各種行事内容の見直し 本学特有の各種行事内容をより充実したものにするための検討。 マナーウォークやドレスコードイベントの全学的取り組みの検討。 【共】

■検討組織名：学生支援委員会

開催年月日	会議等の開催記録
平成 24 年 4 月 24 日	1. 委員会三役について 2. その他（国際交流センター運営委員について／ドレスコードについて／私費外国人留学生学習奨励費応募者面接について／文化学園大学・文化学園大学短期大学部奨学金について／学生会リーダーズトレーニングについて／避難訓練について／第 16 回学生生活調査について／総合学生生活委員会報告）
平成 24 年 5 月 29 日	1. 年間活動方針と行事予定 2. 文化学園大学・文化学園大学短期大学部奨学金について 3. 緑道・学内巡回指導について 4. 新入留学生懇談会について 5. 学生相談室報告 6. 総合学生生活委員会報告 7. その他（学生会リーダーズトレーニングについて／小平キャンパスのチューター活動について／けやき祭について）
平成 24 年 7 月 24 日	1. 第 16 回学生生活調査について 2. 緑道・学内巡回指導実施報告 3. 新入留学生懇談会結果報告 4. 私費外国人留学生授業料減免について 5. 健康診断結果について 6. 学生相談室報告 7. 総合学生生活委員会報告（府中国際学生会館について／男子トイレについて） 8. その他（スタディスキルズについて／新入生の成績優秀者への奨学金制度について／D 館階段の吹き抜けについて）
平成 24 年 9 月 27 日	1. 球技祭 2. 第 16 回学生生活調査について 3. 学内巡回指導について（文化祭期間中） 4. 学生相談室報告 5. 総合学生生活委員会報告 6. その他（C 館エントランス玄関の有効活用について／ふじ学生会館のリニューアルについて／ドレスコードについて）
平成24年10月 30 日	1. 第 16 回学生生活調査について 2. 学内巡回指導について 3. 留学生（上級生）懇談会について 4. 学生相談室報告 5. 総合学生生活委員会報告（学生食堂について／ドレスコードについて） 6. その他（文化学園大学・文化学園大学短期大学部奨学金規程改定案について／小平キャンパスのチューター活動について／被災地支援について）
平成24年11月 27 日	1. 第 16 回学生生活調査について 2. クラブリーダーズトレーニングについて 3. 学生相談室報告 4. 総合学生生活委員会報告 5. その他（小平キャンパスのチューター活動について／ドレスコードについて／緑道・学内巡回指導について）
平成 25 年 1 月 22 日	1. 第 16 回学生生活調査について 2. クラブリーダーズトレーニングについて 3. 緑道・学内巡回指導について 4. 留学生（上級生）懇談会結果報告 5. 学生相談室報告 6. 総合学生生活委員会報告 7. その他（私費外国人留学生学習奨励費応募者面接について／ドレスコードについて）
平成 25 年 2 月 25 日	1. 第 16 回学生生活調査について 2. クラブリーダーズトレーニング報告 3. 大学総合案内愛称募集について 4. 学生相談室報告 5. 総合学生生活委員会報告 6. その他（ドレスコードについて）
平成 25 年 3 月 21 日	1. 第 16 回学生生活調査について 2. 平成 25 年度年間活動方針と行事予定 3. 学生相談室報告 4. 総合学生生活委員会報告

■検討組織名：研究委員会

報告者：塚本 和子

提出日：平成 25 年 4 月 1 日

本年度の課題 (平成 24 年度)	1. 教員の研究成果の発表の場としての教員研究作品展の継続的かつ安定的な開催のための検討 (1)平成 24 年度の開催場所は大ホールギャラリーと決定、以降の開催場所確保と運営方法の検討。 (2)作品集（第 13 集）準備のためのスムーズな作品撮影の実施。 2. 研究室図書予算の分配方法と重点配分図書について検討 3. 本学「特別公開講座」の継続的かつ一層効果的な実施のための検討 (1)学園内の他機関との連携を視野に、参加者ニーズにより応えうる講演テーマ、講演者の検討 (2)文化学園服飾博物館（以下:服飾博物館）の見学の継続と参加者の満足が得られるような案内方法の工夫。 (3)本大学の他行事との広報活動との連携を開始する。実施継続と今後の方法についての検討。 (4)参加者数の増員と参加者層の拡大を目指しインターネットを含めた広告媒体、広報活動の検討。 【共】
取組の結果と 点検・評価	1. 「第 27 回教員研究作品展」を開催、学内外からの来場者に本校教員の研究成果を発表する機会を提供 (1)本学園内他行事と折衝し、開催場所は文化学園遠藤記念館大ホールギャラリー 1 会場で、3 日間と規模を縮小したが、平成 23 年度並みの 1,244 人の入場者を得た。リポトリ登録案内を継続、研究成果公表の一助となった。 (2)出品作品の写真撮影は、開催日と別日を設定したことでスムーズな撮影ができた。 2. 研究室図書予算及び重点配分図書予算と申請内容を検討し、公平性を持って配分を行った。重点配分図書予算では選定基準との整合性に鑑み図書館蔵書との重複を避け選定した。 3. 平成 24 年度秋期・春期「特別公開講座」を実施した。秋期（12 月）には岩立フォークテキスタイルミュージアム館長の岩立広子氏による「布をめぐる旅」、春期（2 月）には京都工芸繊維大学教授の並木誠士氏による「文様学入門」というテーマでの講演で、講座終了後に博物館見学という内容で実施した。参加人数は秋期 231 人、春期は 373 人だった。 (1)秋期・春期とも学外講師を招いたが、秋期の講演者は服飾博物館と親交があり、春期の講演者は文化ファッション研究機構の共同研究員である。服飾博物館の展示テーマに沿った講演であったこと、講師自身のもつ広報手段や知名度も生かされ、学外からの多くの新規来場者を得、満足度も高かった。 (2)服飾博物館の見学は学芸員との連絡・連携を密にし、一般観覧者と区別するための入館証を用意、担当者の打ち合わせなどを密に行った結果、混乱なくご観覧いただくことができた。 (3)文化祭・卒業研究展などで公開講座のチラシを配布し、それによる来場者を得た。また、講座終了後に同日開催イベントの紹介及び卒業イベントのチラシを配布するなど、他行事の広告・宣伝業務との連携を図ることにより、本大学の効果的な広報活動の一端を担った。 (4)学園内広報への掲載以外に、雑誌や新聞の掲載依頼先を増やし、複数のインターネット公開講座サイトへの掲載を継続、かつ SNS を利用した広報を実施した。その結果、来場者を増やすことができた。 【共】
次年度への 課 題 (平成 25 年度)	1. 教員の研究成果の発表の場としての教員研究作品展の継続的かつ安定的な開催のための検討 (1)平成 25 年度の場所と日程の検討、開催規模の維持に向けた出展作品数確保と広報活動の検討。 (2)作品集（第 13 集）作成と配布先及び配布方法についての検討。 2. 研究室図書重点配分図書費の申請対象図書の条件により有意義な配分についての検討 3. 公開講座の継続的かつ一層効果的な実施のための検討 (1)服飾博物館展示と文化ファッション研究機構所属研究員の活用を視野に入れた講演者の選定。 (2)安定的な参加者数と参加者満足が得られ、かつ本学の研究・教育状況を広く社会に提示するための講演テーマ、実施方法の検討。 (3)参加者の満足が得られるような服飾博物館見学時間の設定と入館から退館までの案内の工夫。 (4)一般参加者数の安定化と拡大のため、学内他行事と連携した広報活動の継続と掲載料無料の複数の広告媒体の新規開拓、及び本学園内参加者数増加を促す広報活動の検討。 【共】

■検討組織名：研究委員会

開催年月日	会議等の開催記録
平成24年5月29日	1. 研究小委員会・公開講座小委員会のメンバーと責任者の決定 2. 平成24年度研究室図書費の検討と教授会審議案の作成（平成24年6月19日教授会承認） 3. 平成24年度研究室図書費の購入申請〆切と図書係会開催日程・場所の検討 4. 平成24年度「特別公開講座」の講演者選定方針の決定 5. 学外共同研究申請（2件）の審議（平成24年6月19日教授会承認）
平成24年6月21日	1. 「第27回教員研究作品展」撮影写真返却スケジュールの検討 2. 平成24年度「秋期特別公開講座」講演者候補の選考及び開催日の検討と役割分担の決定
平成24年7月31日	1. 平成24年度研究室図書重点配分申請について申請基準の検討 2. 平成24年度「秋期特別公開講座」講演者の決定 3. 平成24年度「春期特別公開講座」開催日と講演者の検討
平成24年9月27日	1. 平成24年度研究室図書重点配分申請結果（案）の審議・承認 2. 第28回教員研究作品展開催日程の決定 3. 平成24年度「秋期特別公開講座」に向けた広報活動の検討と業務進捗状況の確認 4. 平成24年度「春期特別公開講座」開催日の決定 5. 学外共同研究申請（1件）の審議（平成24年10月16日教授会承認） 6. 平成25年度（第38回）学術研究振興資金（一般）（1件）の審議 （平成24年10月16日教授会承認）
平成24年10月30日	1. 第28回教員研究作品展の業務進捗状況の確認 2. 平成24年度「秋期特別公開講座」の業務進捗状況の確認 3. 平成24年度「春期特別公開講座」講演者の検討
平成24年11月27日	1. 教員研究作品展平成25年度予算の審議 2. 公開講座平成25年度予算の審議 3. 平成24年度「秋期特別公開講座」の業務進捗状況の確認 4. 平成24年度「春期特別公開講座」講演者の決定 5. 学外共同研究申請（1件）の審議（平成24年12月11日教授会承認）
平成24年12月19日	1. 「第28回教員研究作品展」役割分担の決定と業務内容の確認 2. 教員研究作品展の出展要項の検討と作成、及び広報活動の検討
平成25年1月16日	1. 平成24年度「秋期特別公開講座」の反省意見及び来場者アンケート内容の検討 2. 平成24年度「春期特別公開講座」の役割分担と当日スケジュール、広報活動などの検討
平成25年1月22日	1. 「第28回教員研究作品展」開催時間の決定と予備登録状況の報告及び最終登録スケジュールと出展資格の検討 2. 平成24年度「秋期特別公開講座」経費、反省点、アンケート集計結果の報告 3. 平成24年度「春期特別公開講座」当日スケジュール及び業務進捗状況の確認 4. 平成25年度「特別公開講座」講演者選定方針の検討
平成25年2月20日	1. 教員研究作品展出展者申込に関する問題の対応策の検討及び出展資格の決定 2. 平成24年度「春期特別公開講座」当日役割分担及び業務進捗状況の確認 3. 平成25年度「特別公開講座」講演者選定方針及び広告予算削減の検討 4. 『文化学園大学 文化学園大学短期大学部 自己点検・評価報告書 平成24年度』報告内容の検討

■検討組織名：入試対策委員会

報告者：高橋 正樹

提出日：平成 25 年 3 月 25 日

本年度の課題 (平成 24 年度)	- 平成 24 年度進学フェスタ・公開授業・サマーオープンカレッジ実施と結果の検討 - 教員による高校訪問の実施と結果の検討 - 小中学生のための夏休み体験講座の実施と結果の検討 - 入試のあり方への検討 - 新入生アンケートによる結果の検討 【共】
取組の結果と 点検・評価	- 平成 24 年度進学フェスタ・公開授業・サマーオープンカレッジ実施と結果の検討 進学フェスタ（オープンキャンパス）は、文化祭及び卒業研究展での特別進学フェスタを除き、両キャンパスで 12 回行われた。結果、来場者数は 4,303 人で前年度比 270 人の増加であった。理由として、平成 23 年度から教員による高校訪問を組織的に行ってきたことにより、進学フェスタ等について直接、高校教員及び高校生に案内ができたことの成果が表れたと考えられる。また大学ホームページによるフェスタ等の PR を更に迅速に行うよう心がけた結果と思われる。公開授業は、新都市キャンパスでは 7 月 14 日、小平キャンパスでは 7 月 21 日に行われた。結果、同日開催の進学フェスタ参加者数をみると両キャンパス合計で、前年度比－185 人であった。理由として、新都心キャンパスではフェスタの開催時間を昨年度より 1 時間遅らせたこと、小平キャンパスでは AO 入試のエントリーと同日でなかったためと考えられる。 サマーオープンカレッジは、8 月 5 日～8 月 8 日に両キャンパスにて行われた。結果、受講者数は延べ 978 人で前年比 91 人の増加であった。この理由として、講座日数を分散したため、同一生徒の複数受講が可能となり延べ人数が増加したと考えられる。しかしながら当日の無断欠席が平成 23 年度に引き続き多いため、現行の受講申込みのシステムを改善する必要がある。 - 教員による高校訪問の実施と結果の検討 平成 24 年度より全学的・組織的に実施することになった。その結果、一都三県を中心に 368 校へ 132 人の教員が訪問した。平成 23 年度の試行に比べプラス 124 校の増加であった。進学フェスタの参加者や入学志願者数に対し効果が認められたため、平成 25 年度も継続する。 - 小中学生のための夏休み体験講座の実施と結果の検討 中長期的な学生募集戦略として、平成 24 年度、小中学生をターゲットにした体験講座を 8 月 26 日に試行的に実施した。その結果、6 講座に対し 54 人の参加があった。定員を上回る申し込みのあった講座もあり、また参加者アンケートでは概ね好評であった。よって平成 25 年度から継続的に実施する。 - 入試のあり方への検討 指定校推薦の再検討を行った。結果、新規に指定校を増やすことを見送ること、入学者の質の向上を鑑み、一部の指定校に対して推薦に必要な評定平均値を変更することになった。平成 25 年度の指定校推薦入試の志願者数は前年度比－15 名となったが、引き続き平成 25 年度以降も、今回の変更の影響を見守ることとする。 - 新入生アンケートによる結果の検討 アンケートを分析した結果、男子学生は女子学生よりも「友人・先輩」などいわゆる「ロコミ」が進学のきっかけとなったことが多いこと等がわかった。平成 25 年度もアンケートを実施し、これらの傾向が一時的なものか、恒常的なものか確認する。 【共】
次年度への 課 題 (平成 25 年度)	- 平成 25 年度進学フェスタ・公開授業・サマーオープンカレッジ実施と結果の検討 - 教員による高校訪問の実施と結果の検討 - 小中学生のための夏休み体験講座の実施と結果の検討 - 入試のあり方への検討 - 新入生アンケートによる結果の検討 【共】

■検討組織名：入試対策委員会

開催年月日	会議等の開催記録
平成 24 年 4 月 17 日	1. 進学フェスタについて（新都心会場レイアウト及び 5 月 19 日の内容確認等） 2. 高校訪問について（訪問校リスト、説明用のパンフレット・ポスターの確認等） 3. 平成 25 年度指定校について 4. 小中学生のための夏休み体験講座（試行）について
平成 24 年 5 月 29 日	1. 高校訪問について 2. 平成 25 年度指定校について 3. 進学フェスタについて（6/2 の内容確認、講演会等） 4. 小中学生のための夏休み体験講座（試行）について 5. 平成 25 年度入学生「入学事前教育プログラム」の内容検討について
平成 24 年 7 月 24 日	1. A0 入試 1 期のエントリー状況について（報告） 2. 進学フェスタについて（7 月 14 日、7 月 21 日の報告） 3. 小中学生のための夏休み体験講座（試行）について（広報について報告） 4. サマーオープンカレッジ応募状況について（報告） 5. 平成 25 年度入学生「入学事前教育プログラム」の内容について（学科からの報告） 6. 新入生アンケートについて（4 月に実施した内容の結果報告）
平成 24 年 10 月 2 日	1. A0 入試 1 期の出願許可者の状況について（報告） 2. 進学フェスタについて（9 月 9 日、9 月 15 日の報告及び 4 月～9 月までの来場者数の検証） 3. 新入生アンケートについて（各学科の考察及び次年度への検討） 4. 高校訪問について（各学科の訪問結果を報告）
平成 24 年 10 月 30 日	1. 推薦入試と指定校推薦入試の志願者状況について（報告） 2. 平成 25 年度進学フェスタ・サマーオープンカレッジ・小中学生のための夏休み体験講座の日程について 3. 平成 25 年度進学フェスタのパネル作成について 4. 平成 25 年度高校訪問について（実施時期、マニュアルや説明用のパンフレット・ポスター等の改善について）
平成 24 年 12 月 4 日	1. 留学生入試 1 期の志願者状況について（報告） 2. A0 入試 2 期のエントリー及び出願可否状況について（報告） 3. 平成 25 年度進学フェスタの企画内容について 4. 平成 25 年度新入生アンケートの設問について検討
平成 25 年 1 月 22 日	1. 一般入試 A 日程の志願者状況について（報告） 2. センター試験利用入試 S 期の志願者状況について（報告） 3. 平成 25 年度進学フェスタの企画内容及びパネル作成について 4. 平成 25 年度小中学生のための夏休み体験講座の依頼書について 5. 平成 25 年度新入生アンケートの設問について検討 6. 平成 25 年度高校訪問について（説明用パンフレットに掲載する学科キャッチコピー及びマニュアルの改訂について）
平成 25 年 2 月 26 日	1. 過去 5 年間の入試状況について（報告） 2. 平成 25 年度進学フェスタの企画内容について（各学科から詳細説明） 3. 平成 25 年度高校訪問について（マニュアルの最終確認及び説明用パンフレットに掲載する学科キャッチコピーの決定） 4. 平成 25 年度入学生「入学事前教育プログラム」申込み結果について（報告）
平成 25 年 3 月 22 日	1. 平成 25 年度入試結果について（経過報告） 2. 平成 25 年度進学フェスタについて 3. 平成 25 年度高校訪問について（説明用パンフレットとポスターのデザインの最終確認） 4. 平成 24 年度「自己点検・評価報告書」等について（内容確認） 5. 次年度への申し送り事項について

■検討組織名：就職委員会

報告者：松田 祐之

提出日：平成 25 年 4 月 1 日

本年度の課題 (平成 24 年度)	1. インターンシップの学生関心度アップと企業開拓及び学外インターンシップ単位化の検討 学生がより積極的に参加する内容に改善。事前のグループワーク・事後反省会・公開報告会・企業担当者出席等の見直しを行う。さらにキャリアプランニングⅠ・Ⅱの企業開拓と学生の研究機会を広げる為、学外インターンシップも一定基準を満たせば単位化の道を検討する。【大】 2. キャリア支援について 意識調査アンケートを記名式に変更。3 年次のアンケート集計分析後に返却し学生の意識向上に役立てる。設問内容も再検討する。またキャリア形成教育科目の通年化・必修化を視野に入れた内容充実・成果確認等の推移を見守ることとする。【大】 3. 「短大生のための企業見学とタウンリサーチ」の充実と継続 見学企業の拡大と参加学生増への内容充実を検討し、特色あるプログラム展開を行う。【短】 4. 就職支援について 就職試験に向けた講座及びセミナー等のさらなる充実を図る。【共】
取組の結果と 点検・評価	1. インターンシップの学生関心度アップと企業開拓及び学外インターンシップ単位化の検討 インターンシップの学生関心度アップのため説明会への全員参加を徹底し、低学年からの意識付けを行い、さらに 1・2 年生の公開報告会参加を促した。服装学部は海外インターンシップを 1 人、造形学部は自己開拓公募制インターンシップを 5 人が行い単位を認定した。ただし、一部煩雑な手続で学生の動向把握が困難なことがあり、研修期間の見直しをはかることとした。現代文化学部は国際文化・観光学科で 2 年次導入を実施、同時に 3 月実施を検討した。【大】 2. キャリア支援について 意識調査アンケートを実施し、結果について就職講座時にフィードバックを行った。現代文化学部では平成 26 年度実施に向けキャリア形成教育科目全体の見直し作業が進行中。また、短期大学部は平成 25 年度より就職講座との連動を考えた見直しを行い、推移を見ることとした。【共】 3. 「短大生のための企業見学とタウンリサーチ」の充実と継続 新規企業の見学を行ったが例年より時間が短くなったため、より充実した内容を検討する。【短】 4. 就職支援について 例年 2 月に実施している合同企業説明会に加え、個別説明会も例年より多く実施。また、造形学部は開催時期を拡大し、12 月から実施した。学生に積極的な参加を促すことができた。【共】
次年度への 課 題 (平成 25 年度)	1. インターンシップの学生関心度アップと企業開拓及び学外インターンシップ単位化の検討 服装学部、造形学部では 2 年生に向けたインターンシップ履修に関する告知を徹底し、低学年からの意識向上を促す具体案を探る。また、3 年生の海外及び自己開拓インターンシップ実施については学生の動向把握を確実にするための基準を検討する。さらに、公開報告会・企業担当者出席等の見直しを行う。現代文化学部では海外インターンシップを検討中。【大】 2. キャリア支援について 担当教員と連携し、就職活動への積極的な取り組みを促す方策について検討する。さらに、男子学生の就職意識について情報収集につとめ、具体的な支援の検討を始める。【共】 3. 「短大生のための企業見学とタウンリサーチ」の充実と継続 企業の充実と参加学生増への内容及び実施時期を検討し特色あるプログラム展開を行う。【短】 4. 就職支援について 活動時期に合わせた就職講座内容についての確認と、夏季・春季休暇中に実施する筆記試験対策講座の出席率低下について、低学年からの必要性を検討する。【共】

■検討組織名：就職委員会

開催年月日	会議等の開催記録
平成 24 年 5 月 22 日	1. 平成 24 年度就職委員会活動計画について 2. 小委員会委員について 3. その他 学生就職状況、文部科学省・厚生労働省就職内定率報道発表
平成 24 年 6 月 12 日	1. 平成 24 年度就職委員会活動計画について 2. 各小委員会の活動報告について 服装学部／インターンシップ面接・研修生数・研修企業 造形学部／キャリア・就職支援、インターンシップ履修者数 短期大学部／専攻科インターンシップ研修生数、「キャリアデザイン（展開編）ーコースセミナーー」 3. その他 東京新卒応援ハローワーク、求人状況、就職情報サイト、進路状況配布
平成 24 年 7 月 17 日	1. 各小委員会の活動報告について 服装学部／インターンシップ履修者数 造形学部／インターンシップ公開報告会 現代文化学部／インターンシップ企業・研修生、キャリアプランニング、基礎学力対策講座、特別就職講座 短期大学部／就職講座出席指導 2. 就職状況及び学生の活動状況について 3. その他 東京新卒応援ハローワーク活用、海外インターンシップ
平成 24 年 9 月 25 日	1. 各小委員会の活動報告について 服装学部／インターンシップ履修者数 造形学部／インターンシップ研修先、「クリエイティブキャリア論」履修者・内容 現代文化学部／インターンシップ公開報告会、改善検討会諮問 短期大学部／コラボレーション科目、専攻科インターンシップ終了 2. 就職状況及び学生の活動状況について 3. その他 読売新聞「大学の實力」同系大学比較、「社会人基礎力チェック」結果報告書
平成24年10月 30 日	1. 各小委員会の活動報告について 服装学部・造形学部／インターンシップ公開報告会 現代文化学部／国際文化・観光学科 研修、コラボレーション科目 短期大学部／コラボレーション科目 2. 就職状況及び学生の活動状況について 3. その他 インターンシップ自己目標達成度、履修に関する説明書 3 学部統一
平成24年12月 10 日	1. 各小委員会の活動報告について 造形学部／学内企業説明会出席率 現代文化学部／進路面談 短期大学部／コラボレーション科目企業見学依頼 2. 就職状況及び学生の活動状況について 3. その他 学生のコミュニケーション力、個人面談実施方法
平成25年 2 月 5 日	1. 各小委員会の活動状況について 造形学部／インターンシップ告知・学外実施 現代文化学部／平成 25 年度就職講座スケジュール、キャリア形成教育科目 短期大学部／キャリア形成教育科目内容見直し 2. 就職状況及び学生の活動状況について 3. その他 平成 24 年度自己点検・評価報告書、国際インターンシップ、就職懇談会
平成 25 年 3 月 22 日	1. 各小委員会の活動報告について 服装学部／平成 25 年度インターンシップ 造形学部／平成 25 年度インターンシップ、自己点検評価 現代文化学部／就職講座、インターンシップ、就職関連授業 短期大学部／コラボレーション科目実施時期 2. 就職状況及び学生の活動状況について 3. その他 求人受理数、平成24年度就職講座学生出席状況、次年度状況、就職講座とキャリア系科目との連動

■検討組織名：研究倫理委員会

報告者：濱田 勝宏

提出日：平成 25 年 4 月 1 日

本年度の課題 (平成 24 年度)	1. 「文化学園大学研究倫理委員会審査基準に関する申し合わせ事項」(案)(含、「インフォームド・コンセントの書式例」)を運用する過程で生ずる課題を整理する。 2. 大学院生(特に、修士論文)の研究において、上記の運用が難しくなる局面が予想されるので、各専修の指導教員と学生に、より周知をはかることとする。 【共】
取組の結果と 点検・評価	1. 服装造形学科では授業の中で身体測定を行うため、インフォームド・コンセントを学科として習慣付ける必要がある。本委員会で作成した「インフォームド・コンセントの書式例」より、さらに実態に即したスタンダードなものを作成することとした。 2. 平成 24 年度の大学院生の研究の現状を委員会で報告することによって、課題となるような事項を抽出し、内容によって「研究倫理審査申請書」を提出することとした。 【大】
次年度への 課 題 (平成 25 年度)	1. 研究倫理の審査結果の通知書を作成する。 2. 他大学の規程等を収集し、高齢者を対象として実験を行う際の本学のガイドラインを作成する。 3. その他「研究倫理」上の問題として検討を要すると思われる事例を収集し、対応策を「内規」もしくは「申合せ」として明文化する。 【共】

■検討組織名：研究倫理委員会

開催年月日	会議等の開催記録
平成24年10月 31 日	1. 平成 24 年度 本学の共同研究・大学院生の研究の現状について 標記について現状の報告し、今後、本委員会の課題となる事項を抽出した。 2. その他 (1)研究倫理審査申請書について すでに書式例があるが、実際に記入しようとするとかなり煩雑であるため、さらに簡便なものを作成することとする。 → 後日作成し、各委員にはメールで配信し、承認を得た。 (2)インフォームド・コンセントの書式例について 学科によってインフォームド・コンセントの習慣を義務付けるため、本委員会で作成した書式より、さらに実態に即したものを作成することとする。
平成25年 2 月 7 日	1. 研究倫理の審査について 3 件の研究倫理の審査申請があり、3 件とも承認。承認した旨の通知書について今後検討することとした。また、申請の中に、すでに研究が開始されていたものがあったため、今後は教授会等を通じて研究開始前に本委員会へ審査申請を提出していただくよう先生方へ周知することとした。 2. 平成 24 年度 共同研究・大学院生の研究に関する確認 (1)大学院生が高齢者を被験者として実験を行った際の事例をあげ、今後の注意事項について確認した。 ・必ず指導教員立会いのもと、実験を行う ・特に高齢者を対象として実験を行う際は、負荷を考慮して必ず一定時間ごとに休憩をとる ・高齢者を対象として実験を行う際のガイドラインを作成する (2)平成 24 年度の研究活動の中に、本委員会の倫理審査が必要であったのではないかと、思われるものが散見される。今後は教授会等で何度も呼びかけを行い、教員、大学院生に事前に倫理申請をするよう、啓発に努めることとする。 3. 人体計測の倫理について 本学の教育・研究において、正確な人体計測を行うことは重要であるが、現在のところ、男子学生は別室で計測する、学生からの相談には個別に対応する等、対応しているため、大きな事案はない。またシラバス、授業開始前等で、教員から学生に人体計測を行うことを説明しているため、学生も了承のうえ受講している状況である。人体計測の同意については、学部の必修科目については事前に学生へ説明し、計測を拒否する学生には、申し出る機会を与えているので問題はないと考える。選択科目については説明を受けて履修届に記入した時点で了承していると考え。特に服装造形学科 3 年生以上は、計測することが学習するうえで重要事項となるが、今後は、性同一性障害等の事案もあると思われるので、さらに細心の注意をもって対応する必要がある。

■検討組織名：研究費不正使用防止委員会

報告者：濱田 勝宏

提出日：平成 25 年 4 月 1 日

本年度の課題 (平成 24 年度)	1. 「競争的資金（公的資金）」の導入が、多様化する方向にあることに鑑み、「適正な使用」に向けての方法を、さらに検討することが必要である。 2. 「教員研究費」に関する「年次計画書」、「年次報告書」の見直しをはかり、適正な使用を徹底すべく、方策を検討することとする。 【共】
取組の結果と 点検・評価	1. 「競争的資金（公的資金）」の「適正な使用」について、担当職員を各種研修会に派遣し、教員への説明会、文書の配布等を行った。 2. 研究成果、教員研究費の使用実績を、より明確に記載することが可能となるよう、書式を改定した。 【共】
次年度への 課題 (平成 25 年度)	1. 「競争的資金（公的資金）」の不正使用が報じられることに注目し、事前に担当官公庁等に確認し、不正防止に役立てるべく方策を検討する。 2. 「教員研究費」によって購入される各種教具や書籍等の管理のあり方について、再検討することとする。 【共】

開催年月日	会議等の開催記録
平成 25 年 2 月 5 日	1. 競争的資金、研究費等の適正な使用について 本学における競争的資金、研究費等については規程等も整備され、適正に使用されている。共同研究等に関わる費用について、教員の自由裁量の幅を認めてほしいとの意見があり、今後検討することとした。 2. 教員研究費に関する「年次計画書」「年次報告書」について 標記書類の書式を一部変更することとする。 書式案を委員へメール送信したところ、期日までにご意見等がなかったため、2 月 22 日付で、提案通り承認とした。 3. その他 ○検品システムの見直しについて 今後、外部資金による研究等が増えた際、検討する。 ○備品整備に携わる専門職員（技術士等）の設置について 外部から購入した備品の修理等については、専門のメーカーの技術士でないと対応しきれないのが現状である。 ○備品台帳の管理については、担当教授の責任が大きい。備品移動にも細心の注意が必要である。 ○将来的に、本学の備品を学外の方が使用する場合の規程の整備が必要ではないか。

■検討組織名：ハラスメント防止委員会

報告者：永野 順子

提出日：平成 25 年 4 月 1 日

本年度の課題 (平成 24 年度)	1. 全学 FD・SD 研修会において国際化、共学化に向けた意識啓蒙の機会をつくる。 2. 共学になることを見据えて、相談員に男性を増員する。 3. 共学になることを見据えて、「アンケート」内容の検討を行う。 4. 教職員全体に対し、引き続きハラスメント防止への意識啓蒙をはかる。【共】
取組の結果と 点検・評価	取組みの結果 1. 全学 FD・SD 研修会において、国際化を視野に入れた英文ガイドラインの作成報告を行い、共学化に対応した一層の配慮を要請した。 2. 防止委員と相談員の大幅な入れ替えを行った。その際、共学化を視野に入れて男性相談員を配置したが、男性の欠員を補充するにとどまり、男性相談員の増員とはならなかった。 3. 平成 25 年度実施のハラスメントに関する学生アンケートについて、従来のように 3 年毎の学生生活調査の中で行うか、委員会独自のアンケートを実施するかを検討し、学生負担とその後のデータ処理を勘案して、従来の方法を踏襲しながら、設問の内容を改変し、項目を増やすことで対応することとなった。 4. 教職員全体に対し、ハラスメント防止への意識啓蒙をはかるために、「2011 年～2012 年上半期 大学関係ハラスメント事例と処分」と題する文書を各研究室に配布した。 教職員に対しハラスメント防止の意識啓蒙へ一層の協力を求めた。 5. 平成 24 年度に本委員会が受けたハラスメント事案は 0 件であった。 点検評価 平成 24 年度に課題として設定した事項のほとんどを達成することが出来た。 また、文部科学省の「大学における教育内容等の改革状況調査」の調査項目のすべてがすでに設置されているか実施されており、本学のハラスメント対策が一定程度整備されたことを確認することができた。【共】
次年度への 課 題 (平成 25 年度)	1. 学生生活調査におけるハラスメントのアンケート結果の内容を精査し、対応の検討を行う。 2. FD 活動の一環として、過去のハラスメント事例の対応の事項を情報開示するよう短大部服装学科会議から要請されており、どの程度の開示が妥当であるかを検討する。 3. 教職員全体に対し、引き続きハラスメント防止への意識啓蒙をはかる。【共】

開催年月日	会議等の開催記録
平成 24 年 7 月 24 日	1. 「2011 年～2012 年上半期 大学関係ハラスメント事例と処分」の研究室配布について 2. ハラスメント相談員研修について 3. 平成 24 年度委員会活動について
平成 24 年 9 月 6 日	相談員研修会 「ハラスメント相談の心得」 野口先生 「規定、マニュアル、ガイドラインの確認」 委員長
平成 25 年 1 月 15 日	1. 文部科学省の「大学における教育内容等の改革状況調査」に対する回答について 2. 平成25年度実施のハラスメントに関する学生アンケートの実施方法について費用、対象・実施日等の自由度、データの精度、データ処理等の面から検討
平成 25 年 1 月 30 日	メール審議 1. 学生支援委員会へ学生生活調査の設問の増設と内容の改変に関する申し入れについて 2. 「学生生活調査」の進捗状況について
平成 25 年 2 月 1 日	メール審議 「学生生活調査」の全文ファイルによる内容の最終チェック

■検討組織名：衣料管理士課程専門委員会

報告者：大熊 志津江

提出日：平成 25 年 4 月 1 日

本年度の課題 (平成 24 年度)	1. 定員について 課程履修希望者が定員を超えた時の対応策の検討を行う。 2. テキスタイルアドバイザー（以下：TA）実習について (1) 1 級課程履修者の増加による TA 実習先の企業開拓を行う。 (2) 事前教育と事後教育の実施方法・内容についての検討を行う。 3. 「衣料管理士認定基準」の改正について 日本衣料管理協会が開講を推奨する選択科目について、引き続き検討を行う必要がある。さらに、選択科目を増加し、19 単位以上選択出来るように新設科目の開講を検討する。 【大】
取組の結果と 点検・評価	1. 定員について 課程履修希望者が定員を超えた場合は、衣料管理士課程関連科目の単位取得及び GPA により履修希望者を決定している。(1 級は 4 年次、2 級は 3 年次の履修届提出時までに決定) 平成 24 年度、4・3 年生の課程履修希望者は、定員内に納まり定員の検討の必要はなかった。 2. TA 実習について (1) 1 級課程履修希望者の増加により実習先の企業開拓として、文化学園の文化事業局とファッションリソースセンターに交渉を行い、今年度は文化事業局に実習受け入れの了解を得た。結果、実習先 16 件で無事実習を終了する事が出来た。しかし、実習先が 1 件（神奈川県産業技術センター）減ったため平成 25 年度に向け、更に実習先の企業開拓が必要となった。 (2) 平成 23 年度は事前教育を 3 週に亘り実施したが、平成 24 年度は、1 日の集中授業で実施することで、教育効果の向上を得た。また、事後教育は「TA 実習報告会」を例年通り実施した。 3. 「衣料管理士認定基準」の改正について 日本衣料管理協会より指定科目の新基準が適用されたため、平成 24 年度入学生より、カリキュラムの大幅な見直しが必要となった。1 級課程の協会指定取得単位数は、必修科目 24 単位に選択科目 19～29 単位（協会指定の開講推奨科目 8 科目 13 単位含む）を加えた 43 単位以上である。本学では現在、協会指定開講推奨科目のうち 3 科目は、対応する科目がない。また、選択科目が 22 単位分と少ないため資格指定科目を増やす必要がある。 平成 24 年度は、開講推奨科目の「ファッションビジネス論」2 単位（平成 27 年度 4 年次より）を新設した。また、「繊維加工学」2 単位と対応させるため、「テキスタイルケア論及び実験」を内容に沿った科目名「テキスタイル加工論及び実験」3 単位（平成 26 年度 3 年次より）に変更し、講義と実験を合わせて行うこととした。更に、協会指定科目「工芸染色実習」1 単位と対応させるため、「テキスタイル染色加工論及び実習」を「テキスタイル染色実習」2 単位（平成 26 年度 3 年次より）とし、実習を中心とした内容に変更した。 (平成 24 年 10 月 16 日教授会承認) 【大】
次年度への 課題 (平成 25 年度)	1. 定員について 平成 24 年度入学生より 1 級課程のみとなるため、希望者増を想定し定員について検討する。 2. TA 実習について 現行、実習先によっては 7～8 人お願いしている所もあり、履修希望者の増加により、更なる企業開拓を行う必要がある。 3. カリキュラムについて (1) 開講推奨科目の対応と選択科目の増設についての検討を行う。 (2) 平成 25 年度から「アパレル設計・生産論」と「アパレル生産実習Ⅰ」が開講されるが、担当者や教室が限られているため、1 級課程履修希望者の増加に伴い検討が必要になる。【大】

■検討組織名：衣料管理士課程専門委員会

開催年月日	会議等の開催記録
平成 24 年 5 月 17 日	1. 役割分担、スケジュールの確認 2. 実習関連の報告 3. カリキュラムの検討
平成 24 年 6 月 5 日	1. カリキュラムの検討 2. 事前教育の内容確認
平成 24 年 6 月 14 日	1. カリキュラムの検討 (平成 24 年 10 月 16 日教授会承認) 2. 大学正会員申請について 3. 実習関係の報告
平成 24 年 7 月 12 日	1. 実習先の挨拶担当の決定 2. 事前教育・事後報告会について 3. 後期授業案の確認
平成 24 年 10 月 4 日	1. 実習先挨拶の報告 2. 大学正会員申請結果の報告
平成 24 年 12 月 20 日	1. 平成 25 年度履修要項の確認

開催年月日	学生指導等の記録
平成 24 年 4 月 5 日	衣料管理士資格に関するガイダンス (服造 1, 2 年生対象)
平成 24 年 7 月 4 日	テキスタイルアドバイザー実習 事前教育 13:00~18:00 ・テキスタイルアドバイザー実習とは ・講演「ファッションビジネスにおける TA の役割」 講演者：(一社)日本衣料管理協会 副会長 若宮 英司氏 ・講演「企業とは何か、求める人材とは何か、ニックは何を目指すか」 講演者：(株)ニック 代表取締役社長 西川 芳雄氏 ・実習にあたっての心得 ・実習先と実習内容の説明
平成 24 年 7 月 30 日 ～9 月 14 日	TA 実習期間 (うち 5 日間実習) 16 実習先、1 級 4, 3 年生 41 名が実習 期間中、実習先へ挨拶
平成 24 年 9 月 27 日	実習事後報告会 14:00~17:00 (1 級取得希望者 4, 3 年生)
平成 24 年 10 月 4 日 平成 24 年 10 月 11 日 平成 24 年 10 月 18 日 平成 24 年 10 月 25 日 平成 24 年 11 月 8 日 平成 24 年 11 月 15 日 平成 24 年 11 月 22 日 平成 24 年 11 月 29 日 平成 24 年 12 月 6 日 平成 24 年 12 月 13 日 平成 24 年 12 月 20 日 平成 25 年 1 月 10 日	資格認定試験の対策授業 (1, 2 級 4 年生対象) ① オリエンテーション ② 「論文」試験の要点解説 ③ 「論文」個別指導 (1 級)、「論文」模擬試験 (2 級) ④ 「論文」個別指導 ⑤ 「消費科学Ⅰ」外部講師による試験関連講義 (1 級) 「消費科学Ⅱ」委員による試験関連講義 (2 級) ⑥ 「消費科学Ⅰ」「消費科学Ⅱ」模擬試験 ⑦ 「消費科学Ⅰ」「消費科学Ⅱ」個別指導 ⑧ 「消費科学Ⅰ」「消費科学Ⅱ」個別指導 ⑨ 「論文」本試験 ⑩ 「消費科学Ⅰ」「消費科学Ⅱ」個別指導 ⑪ 「消費科学Ⅰ」「消費科学Ⅱ」本試験 ⑫ 衣料管理士資格取得に関する手続き等の説明
平成 24 年 12 月 5 日 平成 24 年 12 月 19 日 平成 25 年 1 月 9 日 平成 25 年 1 月 11 日	「衣料の使用実態調査」の説明会 (2 級 3 年生対象) 「衣料の使用実態調査」の説明会 (1 級 3 年生対象) 「衣料の使用実態調査」の回収、点検 (2 級 3 年生対象) 「衣料の使用実態調査」の回収、点検 (1 級 3 年生対象)
平成 25 年 2 月 28 日	3 月実習生 (3 年生 2 名) の事前教育 (実習期間：平成 25 年 3 月 11 日～15 日)

■検討組織名：建築・インテリア系資格専門委員会

報告者：谷口 久美子

提出日：平成 25 年 4 月 1 日

本年度の課題 (平成 24 年度)	1. 平成 25 年度の建築・インテリア学科新カリキュラムでの「建築士受験資格」の確認申請 2. 大学院修士課程の「建築士試験の大学院における実務経験」の確認申請 3. キャリアアップ資格講座の運営方法及び内容の見直し 4. 卒業生・在学生の受験及び資格取得調査の方法の見直しと PDCA サイクルの構築 5. 海外の建築・インテリア系資格の調査及び留学生への広報・指導のあり方の検討 【大】
取組の結果と 点検・評価	1. 平成25年度の建築・インテリア学科の新カリキュラムでの「建築士受験資格」の確認申請 平成 25 年度入学生から建築・インテリア学科のコース編成及びカリキュラムが変更されるため、建築士試験指定科目の確認申請の手続きについて資格団体に確認し、変更申請として申請することになった。平成 24 年度入学生についてもカリキュラムに軽微な変更があったため、それぞれ申請書類を財団法人建築技術教育普及センターに提出した。その結果、平成 24 年 12 月 26 日付で認定され、平成 25 年 1 月 8 日の教授会にて報告した。 2. 大学院修士課程の「建築士試験の大学院における実務経験」の確認申請 大学院修士課程の確認申請（更新申請）は変更のない限り隔年申請でよいことが確認され、平成 24 年度の申請は不要となったが、新制度での初回修了生について実務経験の「修得単位証明書」の提出を求められた。平成 24 年 10 月 5 日に提出し、その後軽微な修正を求められ、対応した。 3. キャリアアップ資格講座の運営方法及び内容の見直し 平成 21 年度から実施していた「卒業生・在学生のためのキャリアアップ資格講座」について、「大学教育・学生支援推進事業」支援期間の終了にともない実施方法を見直すこととなり、今年度は受講者数が最も多いインテリアコーディネーター講座のみ学部共通経費により実施し、その他 3 講座（インテリアプランナー、マンションリフォームマネジャー、キッチンスペシャリスト）については担当教員の可能な範囲で個別対応することとなった。またこれまでも課外授業として実施していた福祉住環境コーディネーター講座は例年通り実施、商業施設士については受講料学生負担で実施した。開講した講座の受講者については成果があったため、今年度開講できなかった講座について、次年度以降はコラボレーション授業などのかたちで実施することとなった。 4. 卒業生・在学生の受験及び資格取得調査の方法の見直しと PDCA サイクルの構築 建築・インテリア学科では、毎年、卒業年次生については 3 月卒業時に、在生についてはオリエンテーション時に建築・インテリア系資格の受験及び資格取得状況について調査しているが、建築士資格については卒業後に受験できる資格であるため、これまで受験及び資格取得状況については十分に把握できていなかった。そこで今年度は外部団体の協力を得て過去 9 年間の卒業生について資格取得状況について調査し、学科会議において報告した。調査データの活用などについては、次年度の継続課題とする。 5. 二級建築士カリキュラム認定の定時報告 建築士法改正前の最終学年にあたる平成 20 年度入学生が卒業したため二級建築士カリキュラム認定の定時報告を東京都庁へ提出した。 6. 海外の建築・インテリア系資格の調査及び留学生への広報・指導のあり方の検討 今年度は課題が多く十分に検討できなかったため、次年度の課題とする。 【大】
次年度への課題 (平成 25 年度)	1. 卒業生・在学生の受験及び資格取得調査の継続と PDCA サイクルの構築 2. 卒業生・在学生の資格取得支援対応策（キャリアアップ資格講座）の継続 3. 海外の建築・インテリア系資格の調査及び留学生への広報・指導のあり方の検討 【大】

■検討組織名：建築・インテリア系資格専門委員会

開催年月日	会議等の開催記録
平成 24 年 4 月 13 日	1. 平成 24 年度のキャリアアップ資格講座について 2. 平成 24 年度の建築士関連の申請作業について 3. 委員改選と送り送り事項 4. その他
平成 24 年 5 月 9 日	教務課との打ち合わせ (1) 建築士受験資格認定に関わる変更申請について
平成 24 年 6 月 5 日	1. 建築士カリキュラム変更申請について (1) 進行状況、今後のスケジュール、教務課からの指摘内容について 2. 商業施設士受験対策講座について 3. 建築士課程履修者の確認状況について 4. その他 (1) 資格取得アンケートについて
平成24年 10 月 12 日	1. 平成 24 年度のキャリア支援に関する講座の現状報告 2. 平成 25 年度のキャリア支援講座の実施方法について（委員会案の検討） 3. 二級建築士アカデミック講座について（現状報告及び来年度の実施について） 4. 卒業生の二級建築士資格取得状況について 5. その他
平成 24 年10月12日	教務課との打ち合わせ (1) 審査結果とその対応について検討した。 (2) 対応については、建築・インテリア学科会議にて報告した。

本年度の課題 (平成 24 年度)	1. 文化・語学研修旅行 (1)プログラム A (アメリカ文化研修) は、参加学生の研修に対する意識の低下によりホストファミリーや引率教員の負担が多くなっている。研修の期間短縮や内容を再検討する必要がある。 (2)プログラム C (ヨーロッパ文化研修) の 2 コース体制維持の妥当性とコース内容のさらなる検討が必要である。 (3)プログラム E (日本文化研修) に関しては新都心キャンパスと小平キャンパスの合同研修という形の可能性について検討する必要がある。 (4)全プログラムに共通して、通常授業の出席状況や研修の説明会等への参加状況等、平素の取り組み態度を加味した研修の参加条件を規程化していく必要がある。 (5)プログラム D は現在開講されていないが、今後内容を含め検討していく。 2. 海外留学 (1)平成 23 年度希望者がいなかったシモンズ大学への留学を促す。 【大】
取組の結果と 点検・評価	1. 文化・語学研修旅行 (1)プログラム A (アメリカ文化研修) は、学生数 19 人 (小平キャンパス 6 人、新都心キャンパス 13 人) で実施した。学生の受講態度は非常によく、ホストファミリーの変更もなかった。新しい試みで『料理レッスン』がプログラムに加わり、さらに充実した内容となった。 (2)プログラム C (ヨーロッパ文化研修) は今年度も 1 コース (ロンドン・パリコース) のみで実施した。経済的理由等で取り消しが続出したため、最終的な参加学生数は 15 人であった。 (3)プログラム E (日本文化研修) は小平キャンパスのみで学生 11 人を確保し、神戸・京都・奈良での研修を実施した。 (4)全プログラムの位置付けや規程化については継続検討とした。 (5)プログラム D については継続検討とした。プログラム F (北海道研修) は学生 2 人で実施した。 2. 海外留学 (1)学生への積極的な働きかけの結果、シモンズ大学へ 2 人の留学希望者があった。学内での選考手続を経て、シモンズ大学に対し 2 人の留学を推薦し、先方の受入れ承諾を待つ状況である。 【大】
次年度への 課題 (平成 25 年度)	1. 文化・語学研修旅行 (1)プログラム A (アメリカ文化研修) は、学生の異文化体験、英語力強化の効果が高いため、多くの学生の参加を積極的に促すとともに、さらに魅力ある内容の検討と、ホストファミリーや引率教員にかかる負担の軽減に留意した研修期間や研修内容などを継続検討する必要がある。 (2)プログラム C (ヨーロッパ文化研修) については、人数の確保とともに、引き続きコース編成、内容等について検討する必要がある。 (3)プログラム E (日本文化研修)、プログラム F (北海道研修) の 2 つの国内文化研修については、多くの学生の参加が得られるよう、積極的な広報・勧誘を行い、内容の充実等を進めていく。 (4)プログラム D (アジア文化研修) について、今後内容を含め引き続き検討していく。 (5)全プログラムに共通して、通常授業の出席状況や研修の説明会等への参加状況等、平素の取り組み態度を加味した研修の参加条件の規程化の検討が必要である。 2. 海外留学 (1)引き続き積極的な働きかけを行い、継続的にシモンズ大学への留学生を確保する必要がある。 【大】

■検討組織名：文化・語学研修専門委員会

開催年月日	会議等の開催記録
平成 24 年 6 月 16 日	1. 留学中の取得単位認定 アメリカ・ベルビューカレッジへ留学した現代文化学部国際文化学科国際文化コース 4年生1人の留学中の取得単位のうち、14単位を卒業要件に必要な単位として認定。 (平成24年6月19日 合同教授会承認)
平成 24 年 9 月 9 日	1. プログラム C (ヨーロッパ文化研修) 同意事項の確認 (1)同意書の記載内容確認。学生氏名欄への捺印の追加 2. プログラム C (ヨーロッパ文化研修) 説明会日程 (1)日程、履修者数、引率等について確認 3. プログラム A (アメリカ文化研修) 終了報告 (1)現地状況、9月11日出迎え、帰国対応などを確認 4. FIT 留学について確認 (1)4人の学生が8月末から留学
平成 25 年 2 月 5 日	1. シモンズ大学交換留学の状況 (1)2人の推薦 2. プログラム E (日本文化研修) (1)日程及び引率の確認

■検討組織名：日本語教員養成課程専門委員会

報告者：齊藤 眞理子

提出日：平成 25 年 4 月 1 日

本年度の課題 (平成 24 年度)	1. 平成 24 年度日本語教育実習を履修する学生の配分について 教育実習については、受講生における以下の状況、平成 24 年度の留学生別科の状況などを鑑み、4 年次履修生 6 人に対する有効な教育実習の方向を検討する。 (1) 4 年次生は留学生 1 人を含む学生 6 人である。 (2) 6 人のうち 4 人が国際ファッション文化学科の学生であり、卒業イベントの準備などで活躍している学生たちであるので、時間調整の必要がある。 (3) 留学生別科は平成24年度開講しないことになった。タイ泰日工業大学の学生の短期研修が 5 月 15 日～6 月 13 日の約 1 カ月小平キャンパスで行われることになったので、どのように活用するか検討する。 2. 本課程の履修方法を徹底する。 【大】
取組の結果と点検・評価	1. 日本語教育実習を履修する学生の配分の検討 タイ泰日工業大学の短期研修においてコースデザインでの参画、文化交流授業における企画とその実行を中心とする実習を行うこととした。 (1) 留学生 1 人は他の学生たちの授業実習の協力はしたが、実習自体は行わず、本人の希望もあり、本人が卒業した日本語学校での実習を、日本人学生の希望者 1 人とともに行った。両人とも教壇実習も行い、とても学びが大きかったとの報告を受けた。 (2) 学生の空き時間を極力利用し、5 回の交流授業実習を行い、さらに、可能な範囲で実習生相互に授業協力をを行った。教員による授業を見学する際は、空き時間に見学に入るように調整した。 (3) タイの学生たちは日本人学生との交流を望んでおり、学生による交流授業は大変うまく進み、タイの学生たちからの評価も高かった。交流授業以外にも、けやき祭・体験授業（書道・茶道・着付けなど）にも都合のつく実習生が参加し、交流が進んだ。 2. 履修方法については、オリエンテーションでの説明のみではなく、各専門授業でも学生たちに直接確認するようにした。 【大】
次年度への課題 (平成 25 年度)	1. 平成 25 年度日本語教育実習を履修する学生の配分について 平成 25 年度については、受講生における以下の状況、留学生別科・タイ泰日工業大学短期研修の状況などを鑑み、4 年次生 4 人に対する有効な教育実習の方向を検討したい。 (1) 例年同様 4 年次生（留学生 1 人を含む 4 人）の実習先の検討が必要である。 (2) 4 人のうち 3 人が国際ファッション文化学科の学生であり、卒業イベントの準備などで時間調整が必要となる。 (3) 1 人が 3 年後期より F I T に留学しており、帰国は 6 月ごろである。 (4) 平成 25 年度のタイ泰日工業大学短期研修は 5 月 7 日～6 月 2 日の予定である。1 人がこの時期に参画できないので、新たな実習場所の検討が必要である。 【大】

開催年月日	会議等の開催記録
平成 24 年 4 月 中旬～下旬	1. 各委員に口頭にて今年度の状況を説明の上、教育実習担当者から以下の項目について確認し、承認を得た。 (1) 教育実習生の配分について (2) 教育実習の一環として泰日工業大学短期研修の授業を利用することについて (平成 24 年 5 月 1 日合同教授会(遠隔会議)にて承認)
平成 24 年 6 月 12 日	1. 委員会にて、泰日工業大学短期研修における教育実習の日程表をご担当の先生に配布することを確認した。
平成 24 年 9 月 4 日	1. 委員会にて、4 年次生 6 人のうち、5 人は上記短期研修において実習を修了したこと、留学生 1 人と再度の実習を希望した学生 1 人が 8 月 27 日から 31 日まで日本語学校での実習を行い、無事修了したことを確認した。
平成 25 年 2 月 1 日	1. メール連絡により、平成 24 年度修了生について確認し、承認を得た。

■検討組織名：児童英語教員養成課程専門委員会

報告者：久保田 文

提出日：平成 25 年 4 月 1 日

本年度の課題 (平成 24 年度)	1. 本課程の最終履修者となる 4 年生 1 人に、江戸川区立船堀小学校でのすくすくスクールにおける児童英語教室を担当させることで、実習の場を設ける。 2. 平成 23 年度のけやき祭児童英語教室において、児童の座る椅子にそれぞれ個性的な飾りつけを施し、教室全体の装飾をよりアーティスティックな雰囲気にしたところ、児童が大変喜んで参加していたので、今回も視覚的に楽しめる場を演出する。 【大】
取組の結果と 点検・評価	1. プラニング通りに、江戸川区立船堀小学校でのすくすくスクールにおける児童英語教室を履修者に担当させることが出来た。 2. けやき祭児童英語教室の装飾については、学生と教員達の協力によって大変魅力あるものに仕上がりに、来場者達の反応もよかった。 【大】
次年度への 課 題 (平成 25 年度)	文部科学省の方針として、児童英語は小学校で担任教員が教えることと決まり、小学校教員免許を取得できない本学学生に関しては、児童英語教員養成課程の必要性がみとめられなくなった。このため、課程履修者の募集は、すでに休止している。平成 24 年度、最終履修者の卒業をもって、委員会活動も休止する。なお、江戸川区立船堀小学校のこれまでの協力に感謝し、本学教員が英語ボランティア活動を続ける予定である。 【大】

開催年月日	会議等の開催記録
平成 24 年 4 月 13 日	本委員会委員並びに、児童英語関連科目を担当する非常勤講師が集まり、平成 24 年度の体制について話し合った。
平成 24 年 5 月 14 日	本委員会委員とけやき祭児童英語教室担当チーフで会議を開き、各セッションの方針や教室のレイアウト等を決めた。
平成 24 年 5 月 26 日	小平キャンパスコミュニティオープンカレッジの本学教授による児童英語講座を、課程履修者が見学し、次回からティーチング・アシスタント（以下「TA」）を務めるための打ち合わせをした。
平成 24 年 6 月 1 日	本委員会メンバーと課程履修者でけやき祭児童英語教室の会場装飾を仕上げ、学生に最後の模擬授業をさせた。
平成 24 年 6 月 2 日	小平キャンパスで開催されたけやき祭において、児童英語教室を設けた。
平成 24 年 6 月 9 日 6 月 16 日	小平キャンパスコミュニティオープンカレッジの本学教授による児童英語講座で、課程履修者が TA を務めた。
平成 24 年 7 月 2 日	本委員会と課程履修者で、けやき祭児童英語教室の反省会をもった。
平成 24 年 9 月 7 日	本委員会と課程履修者で、コミュニティオープンカレッジにおける児童英語講座の反省会をもった。
平成 24 年 10 月 22 日	小平市立第四小学校の 2 年生に課程履修者が英語絵本の読み聞かせ等を行った件について、正副委員長と課程履修者で反省会をもった。
平成 24 年 11 月 30 日	江戸川区立船堀小学校におけるすくすくスクールで、課程履修者が児童英語教室を担当した件について、正副委員長並びに非常勤講師と課程履修者で集まり、反省会をもった。
平成 25 年 2 月 28 日	委員会を開き、課程履修者の資格取得について審査を行った。
平成 25 年 3 月 22 日	委員会を開き、本委員会の活動休止を正式に決定し、江戸川区立船堀小学校における英語活動については、本学講師が今後も関わることを決めた。

■検討組織名：紀要編集専門委員会「服装学・造形学研究」

報告者：糸林 誉史

提出日：平成 25 年 4 月 1 日

本年度の課題 (平成 24 年度)	1. 査読制度の円滑な運用について 投稿者及び査読者から寄せられた査読制度への意見を委員会において十分に検討して、査読制度の円滑化とともに査読項目の充実を図り、査読制度の運用のあり方をさらに改善していく必要がある。 2. 編集スケジュールについて 編集スケジュールについても査読者の審査期間を十分にとったものへと見直しをすすめ、また投稿者の修正内容について査読者へのフィードバックを行うため、原稿の修正期間についても見直す必要がある。 3. 制作・表現系統の投稿論文について 「査読要項」のなかで示した 5 項目のガイドラインについては、人文学、服装学などの研究論文を想定したため、造形学における制作・表現系統の投稿論文への対応が十分とは言えなかった。このことを踏まえて、ガイドラインの項目の見直しを必要がある。【共】
取組の結果と 点検・評価	1. (1) 紀要「服装学・造形学研究」第43集より、「研究論文」に対する査読制度を導入した。第44集では、査読者向けの「査読要項」のなかで示した 5 項目のガイドラインに加えて、「新規性」を追加して 6 項目とした。投稿論文数の推移は、昨年 15 件、今年度 14 件と、査読制度導入前と比較してほぼ倍の件数と高水準を保っており、査読制度が定着してきたといえる。 (2) 平成 25 年 2 月に投稿者及び査読者について、自由回答で査読制度への意見を求めた。多く見られた意見に査読者を複数とすることへの提案があった。 2. 編集スケジュールを大幅に見直し、査読者の審査期間を十分に確保するとともに、「回答書」をもとに修正する期間も確保して、結果として投稿者及び査読者とも余裕のあるスケジュールとなった。 3. 制作・表現系統の投稿論文については、5 項目のガイドラインに「新規性」を加え、領域としての特徴を生かしたガイドラインとすることができた。【共】
次年度への 課題 (平成 25 年度)	1. 査読制度の質的向上 投稿者及び査読者から寄せられた査読制度への意見を委員会で十分に検討し、特に複数の提案のあった査読者を学内より 1 人から複数へとすることで、査読制度の円滑化とともに質的向上を図り、査読制度を更に定着していく必要がある。 2. 回答書などの扱い 「回答書」などの査読における投稿者と査読者とのやりとりの書式や方法などの見直しをすすめ、投稿者と査読者間のフィードバックがより円滑になる方式を更に検討する必要がある。 3. 制作・表現系統の投稿論文について 「査読要項」のなかでガイドラインを見直していくことにより、「実践研究」などへも対応した「査読要項」の見直しを必要がある。【共】

■検討組織名：紀要編集専門委員会「服装学・造形学研究」

開催年月日	会議等の開催記録
平成 24 年 5 月 23 日	1. 紀要第 44 集 編集スケジュールの確認 2. 登録方法の変更についての検討
平成 24 年 6 月 19 日	1. 編集スケジュールの修正・確認 2. 登録案内書類・配信方法の確認 3. 査読ガイドラインの検討
平成 24 年 7 月 17 日	1. 登録者数の確定・追加登録の検討 2. 原稿提出要領等の検討 3. 査読ガイドラインの検討 4. 査読者候補の選定・担当委員割り振り
平成 24 年 9 月 20 日	1. 登録者・査読者の確認 2. 編集スケジュール変更・査読依頼要領についての検討 3. 査読ガイドライン・助言者制度についての検討
平成 24 年 9 月 25 日	1. 研究論文原稿の受取り 2. 査読者への原稿渡し・結果受取りの要領確認 3. 配付数調査の実施要領確認
平成 24 年 10 月 16 日	1. 査読結果の確認 2. 投稿者への査読結果通知要領・回答書作成要領の確認 3. 配付数調査結果及び印刷部数の確認
平成 24 年 11 月 13 日	1. 研究論文修正原稿・回答書・研究ノート原稿の受取り 2. 査読者への修正原稿渡し・結果受取りの要領確認 3. ネイティブチェックの実施方法確認 4. 印刷業者入札
平成 24 年 11 月 27 日	1. 研究論文の修正後結果の確認 2. 査読者への結果通知要領の確認 3. ネイティブチェックの実施方法についての確認 4. 印刷業者入札結果の確認
平成 24 年 12 月 4 日	1. 印刷業者への入稿 2. 初校の受取り・配付方法の確認 3. 電子化及びインターネット等公開許諾書の配付・回収方法の確認
平成 25 年 1 月 15 日	1. 印刷業者への初校戻し 2. 再校の受取り・配付方法の確認 3. 執筆者・査読者向けアンケートの実施についての確認 4. 次年度に向けた検討
平成 25 年 2 月 5 日	1. 印刷業者への再校戻し 2. 三校・納品についての確認 3. 次年度に向けた検討
平成 25 年 3 月 6 日	1. 紀要第 44 集の納品・配付作業 2. 次年度申し送り事項、「自己点検・評価報告書」に向けた検討

■検討組織名：紀要編集専門委員会「人文・社会科学研究」

報告者：中沢 志保

提出日：平成 25 年 4 月 1 日

本年度の課題 (平成 24 年度)	1. 紀要のさらなる質的向上のための工夫が必要である。 2. 編集作業のスケジュールにおいて、修正すべき点を確認する必要がある。特に最終校正（紀要委員による三校）から校了に至る時期の調整を検討すべきである。 【共】
取組の結果と 点検・評価	1. 紀要のさらなる質的向上に関して (1) 査読者の選定に関しては、論文の専門領域に近い査読者と協力者（1 人）を得ることができた。協力者は、委員会と適切かつ十分な連絡を取りながら、綿密な査読作業に従事した。その結果、紀要論文の質的向上に一定の効果が認められた。 (2) 査読方法に関しては、第一査読者の報告を聞いたあと、本委員会がさらなる査読が必要であると判断した場合は、第二査読者を選定することになっている。今回の編集過程において、これに該当するケースが一件あり、2 人の査読者からの報告を得ることができた。その結果、該当論文に関して複数の評価報告を得ることができ本委員会が客観的な判断を下す際に役立った。 2. 編集作業のスケジュールに関して 今年度の編集作業において、最終校正から校了に至るまでのスケジュールに関しては、昨年度と比べて改善がみられた。 【共】
次年度への 課題 (平成 25 年度)	1. 紀要のさらなる質的向上のための工夫が引き続き必要である。大学の紀要は、その大学の研究水準が明確に映し出されるので、その質的向上は常に求められるべきものであろう。 2. 編集委員の役割分担に関して改善が必要である。特定の委員に過剰な事務作業が集中しがちな状況が認められた。編集作業の全過程を見直し、支障のない範囲で効果的な役割分担の検討が求められる。 【共】

開催年月日	会議等の開催記録
平成 24 年 7 月 18 日	1. 予備登録の集計と検討 2. 「原稿の提出について」（執筆要領）の作成
平成 24 年 10 月 10 日	1. 投稿論文の確認 2. 第一査読者の選定
平成 24 年 10 月 23 日	1. 第一査読の結果報告 2. 第二査読者の選定
平成 24 年 11 月 4 日	1. 第二査読の結果報告 2. 第二査読の該当論文の執筆者への要請について審議→委員長から文面にて通知
平成 24 年 11 月 21 日	1. 掲載論文の最終決定 2. 「校正の手順」の作成 3. 印刷業者の検討
平成 25 年 1 月 9 日	1. 執筆者より戻された初校のチェック
平成 25 年 1 月 23 日	1. 執筆者より戻された再校のチェック
平成 25 年 2 月 13 日	1. 三校（最終校正）を編集委員でチェック 2. 印刷業者に三校を引き渡す（校了） 3. 印刷部数、抜粋部数、送付先、納品日の確認
平成 25 年 3 月 6 日	1. 「人文・社会科学研究」第 21 集に関する反省会

■検討組織名：教職課程専門委員会

報告者：木村 典子

提出日：平成 25 年 3 月 31 日

本年度の課題 (平成 24 年度)	1. 学生の質的变化に伴う指導方法の検討。 2. 教育実習履修審査、教育実習単位認定審査など、選抜、評価に関する検討。 3. 新入学生に対する教職課程履修を喚起させる方策、及び教員を目指す意識を向上させるための方策の検討。 4. 新設科目「教職実践演習」の準備。教職課程履修カルテと教職課程履修ノートの活用。 【大】
取組の結果と 点検・評価	1. 基礎学力、専門学力、教職志望度に学生間に違いがあるため、個別指導の必要性が年々高まっている。教員間の情報共有を行い、入学時から卒業まで継続的に学生の動向を観察し、適宜指導する必要がある。教職課程履修カルテと教職課程履修ノートの活用が望まれる。継続して行っている教職に関する専門科目担当者懇談会は、問題点を共有・検討する組織として機能している。 2. 教育実習履修審査対象科目と履修科目全部の単位を換算する基準値が異なり、わかりにくかったため、大学が採用している GPA 換算に準じて教育実習履修審査対象科目の成績を計算することにした。教育実習履修審査対象科目だけでなく履修科目全体も確認できるようになった。 3. 教職課程の履修意志が曖昧、教職への魅力の低減、進路変更等の理由で、学年が上がるにつれて履修者が減少していく現状への対策が引き続き必要である。 4. 平成 22 年度入学生に対しては平成 25 年度新設科目「教職実践演習」に向けて、教職に関する専門科目担当教員は個別学生の教職課程履修カルテを記入し、学生は教職課程履修ノートを記入して学習状況の自己評価、履修意志の自己確認を行っている。 【大】
次年度への 課題 (平成 25 年度)	1. 学生の質的变化に伴う指導方法の検討。継続課題。 2. 教職課程辞退者を減少させるための検討。 3. 教育実習履修者審査に関する検討。継続課題。 4. 平成 25 年度新設科目「教職実践演習」の課題。目的、内容等の確認、及び教職課程履修カルテと教職課程履修ノートの活用等、平成 25 年度の実施に伴う反省と平成 26 年度に向けての検討。 【大】

開催年月日	会議等の開催記録
平成 24 年 4 月 2 日	1. 平成 24 年度三役の選出 2. 平成 23 年度教育実習報告書の確認
平成 24 年 5 月 8 日	1. 平成 24 年度教職課程履修者数 2. 教育実習履修審査に関する検討小委員会の報告 3. 平成 25 年度教育実習履修審査 4. 平成 24 年度教育実習日程 5. 平成 24 年度介護等体験事前指導
平成 24 年 11 月 27 日	1. 平成 24 年度「教育実習」単位認定審査 2. 平成 24 年度介護等体験中間報告 3. 平成 25 年度教育実習集中事前教育日程
平成 25 年 2 月 26 日	1. 平成 24 年度教育実習報告及び反省 2. 平成 25 年度教育実習関連報告 3. 平成 24 年度介護等体験報告及び反省 4. 『文化学園大学 文化学園大学短期大学部 自己点検・評価報告書 平成 24 年度』の記述内容の検討

■検討組織名：学芸員課程専門委員会

報告者：佐藤 正明

提出日：平成 25 年 4 月 1 日

本年度の課題 (平成 24 年度)	1. 博物館実習における「学内実習」と、「館園実習」との有機的な構成の検討と見直しの継続。 2. 博物館法の省令改正に伴い、博物館学芸員養成科目の変更により再考される時間割と、他の専門科目との時間割の適正な関係の検討。 3. 現代的要請を捉え広く社会に向けて開かれた博物館活動についての事例の調査と検討を進める。 【大】
取組の結果と 点検・評価	1. 博物館実習における「学内実習」と「館園実習」との有機的な構成について、継続して見直しと検討を行なった。その結果、特に「館園実習」については、実習を行なう学生に対して「学内実習」を念頭に置きながら、博物館業務の全体像を平等に同一体験させることの調整がとりにくい傾向にあることがわかった。特に展示企画に関する実習については、学習効果を高めることができる実習時期の設定と、実習内容全般に平等にかかわっていけるように、さらに検討していくこととした。 2. 学芸員課程の科目と単位数が増えたことにより、従来の時間割の中にどのように配置していくべきかについて検討してきた。一週間のコマ数は限られているが、今後、通常授業コマの中に組み入れていく方向で意見がまとまった。同時に授業の内容や授業形態により、最適な授業の形を求めていくことが課題となった。 3. 情報発信をしていく博物館として、博物館が行なったワークショップなどへの一部実習生の参加を試みた。実演を伴う対外的な博物館活動については、参加者からは好評であり、具体的な博物館活動が求められていることを実感する結果となった。これについては継続検討していきたい。 【大】
次年度への 課題 (平成 25 年度)	1. 博物館実習における「学内実習」と、「館園実習」との有機的な構成の検討と見直しの継続。 2. 平成 24 年度以降の新課程による授業について、その学習効果の検証と最適な授業の形の検討。 【大】

■検討組織名：学芸員課程専門委員会

開催年月日	会議等の開催記録
平成 24 年 8 月 3 日	1. 平成 25 年度からの総合教養科目の見直しに伴い、学芸員課程の必修選択科目に指定されている 3 年次科目「文化人類学 A」と「文化人類学 B」について、「文化人類学」として一本化されることを検討した。 2. 従来の学芸員課程の指定科目としての「文化人類学 A」と「文化人類学 B」は削除され、「文化人類学」に置き換わるため、新たに「文化人類学」を学芸員課程の指定科目とすることとした。指定科目群の科目数に十分に余裕のある造形学部については科目指定削除のままとし、新たな指定は、服装学部のみとした。理由は、旧課程残存期間 2 年間の経過措置であり、全体のカリキュラム変更に伴う最小限必要な修正にとどめておくという考えによる。 3. 学芸員新課程は平成 24 年 4 月から実施されているため、この旧課程の選択科目の科目指定については、原則平成 26 年度までの措置となる。今回の改定に関わらない現代文化学部については、変更はないことを検討・確認した。
平成 24 年 9 月 12 日	1. 博物館課程の科目の一部変更に関してその後、委員から意見を集約した結果、特に問題はないとの回答を得たので、次回教授会での審議成立の場合は、課程の科目変更につき承認されたものとするを委員会で承認した。
平成 25 年 1 月 22 日	1. 省令変更により、平成24年に開始された学芸員課程の新しい履修科目が、平成25年度から実際の運用に入るため、2年次の科目として設定された「博物館概論」、「生涯学習概論」、「博物館教育論」が、平成24年度生の最初の履修科目となる。単位もそれぞれ2単位となり、以前の科目の倍となっている。これらの新科目は、旧科目と共通のところもあるが、いわゆる旧カリキュラムと新カリキュラムの移行期間については、それぞれ独立した科目として扱うことを、大学としての方針としていくことを提案した。 2. 履修方法について、2単位に変更となった科目については、移行期の混乱と授業内容の混乱を避けるため、それぞれ独立した科目として新カリキュラムは平成24年度生以降に、旧カリキュラムは平成23年度生までの時間割に従来通り反映させていくことを委員会としてまとめた。
平成 25 年 1 月 28 日	1. カリキュラム移行期（平成25年度と平成26年度）においては、旧と新の両方の科目を配置していくことで委員会は合意し、教務に伝えていくことを決定した。
平成 25 年 2 月 15 日	1. 自己点検・評価報告書の作成にあたり、今年度の報告内容と、次年度の課題について委員に諮り、報告内容について了承された。

■検討組織名：司書課程専門委員会

報告者：宍戸 寛

提出日：平成 25 年 3 月 30 日

本年度の課題 (平成 24 年度)	1. 平成24年度の新入生から適用する新カリキュラムに計画的に移行するとともに、授業内容がより魅力あるものとなるよう取り組む。 2. 司書課程履修者が増えるよう、学生が履修しやすくなるように工夫し取り組む。 3. 在学生のみならず、卒業生も含め図書館への就職希望者を支援し、相談に応じる。 【大】
取組の結果と 点検・評価	1. 新カリキュラム（1 年目）への計画的な移行 旧カリキュラムでは司書課程の履修開始は 2 年生からだったが、本年度開始の新カリキュラムは 1 年生(後期)から最初の科目の受講が始まり、順調にスタートした。 2. 司書課程履修者の増への取組み 従来からの課題である、新都心キャンパス学生が司書課程と同時に学芸員課程を受講している場合の対応として、引き続き補講を行った。平成 24 年度は新たに、3 年生から司書課程の履修を始めた学生への対応としての補講も行うこととし、可能な限り対応した。 3. 就職希望者への支援 4 年生の受講生に司書職員の採用情報を提供した。 【大】
次年度への 課 題 (平成 25 年度)	1. 平成 24 年度新入生から適用している新カリキュラム（2 年目）に計画的に移行するとともに、授業内容がより魅力あるものとなるよう取り組む。 2. 司書課程履修者が増えるよう、小平キャンパス・新都心キャンパスのどちらの学生でも履修しやすくなるように、工夫して取り組む。 3. 在学生のみならず、卒業生も含め図書館への就職希望者を支援し、相談に応じる。 【大】

開催年月日	会議等の開催記録
平成 24 年 4 月 2 日	1. 司書課程 ガイダンスの内容・方法・配布資料の確認 (4 月 5 日～7 日新都心・小平両キャンパス)
平成 24 年 6 月 23 日	1. 平成 24 年度授業開始後の感想、課題を協議 2. 平成 25 年度以降の開講計画と教員体制について
平成24年 10 月 4 日	1. 資料特論・図書館特論の補講について
平成24年11月 14 日	1. 司書課程新科目名の英訳について 2. 平成 25 年度の担当教員と時間割について
平成24年 12 月 12 日	1. 時間割案の検討と確認について 2. シラバスの執筆について
平成 25 年 1 月 9 日	1. 平成 24 年度自己点検・評価報告書について 2. 平成 25 年度司書課程の開講計画について
平成 25 年 3 月 5 日	1. 平成 24 年度自己点検・評価報告書について

■検討組織名：留学制度検討委員会

報告者：濱田 勝宏

提出日：平成 25 年 4 月 1 日

本年度の課題 (平成 24 年度)	1. 海外提携校が増加する一方で、「ファッション」関連領域のみならず、「造形・デザイン」分野への留学（含、交換留学）も可能になりつつあるので、学生への留学に関する情報提供を綿密に行う方策が必要である。 2. 留学希望者の留学許可の判定と、留学中の授業料の取扱い、留学前準備と留学中のケア、留学終了後の成果報告等、一連の対応を、より精査することとする。特に、留学制度推進のための寄付金制度を本格的に稼働させる。 3. 海外提携校と本学との間での「短期研修」（派遣・受入れ）については、一定の基本原則を明文化する必要がある。 【共】
取組の結果と点検・評価	1. ボーンマス美術大学（AUCB）、鲁迅美術学院等への留学（含、交換留学）について具体的に検討を進め、AUCB への留学制度をスタートさせることとした。 2. 留学希望者の一連の対応について、本委員会、国際交流センター、学生相談室との連携で一定の仕組みを作り上げることができた。また、寄付金制度をスタートさせた。 3. 「短期研修」については、東日本大震災による授業日程に経過措置があり、明文化は次年度以降に持ち越すこととした。 【共】
次年度への課題 (平成 25 年度)	1. 文化学園大学（含、大学院、短期大学部）と連携を密にしている大学への留学の推進、一方で、留学生の受け入れをさらに活発化させるべく検討する。 2. 留学希望者の相談活動、留学前後の各種ケアをより精密なものにするよう検討を加える。 3. 武漢紡織大学を含めて、学生・教員の短期研修の受け入れのあり方について、各大学と再度協議し、基本原則をより明確にすることとする。 【共】

開催年月日	会議等の開催記録
平成24年12月 18 日	1. FIT（アメリカ ニューヨーク州立ファッション工科大学）・AUCB 留学者最終判定について志望者 10 人のうち 6 人（FIT 2 人、AUCB 4 人）を合格とした。 2. 2012 年 12 月特別留学プログラム現状報告 現時点における 2013～2014 までの海外提携校の留学プログラムについて、各校の受入れ人数、授業料等に関する現状報告 3. その他 (1)AUCB 留学について 生活造形学科の学生が留学することとなったので、生活造形学科専任教員のうち 1 人を留学中の履修科目等のアドバイス担当として指名することとした。 (2)AUCB の語学単位認定について 同校の語学授業時間が多いため、「留学認定単位」として認定することとした。 (3)AUCB から本学への留学希望について 今後検討する必要がある。 (4)海外提携校短期研修について ある程度まとまった段階で受入れの是非をはかることとする。

附 属 機 関

本年度の課題 (平成 24 年度)	1. 電子書籍 (e-book) の導入による時代に即した資料提供 2. 利用者の多目的なニーズに応えるためのグループ学習室の開設 (新都心館) 3. 設備整備による環境の向上 (新都心館スキャナーコーナーの拡充、閲覧室の椅子張替えなど) 4. 図書館間相互協力複写料金の図書館一部負担の実施 【共】
取組の結果と 点検・評価	1. 電子書籍 (e-book) の導入による時代に即した資料提供 和書 10 点、洋書 11 点を購入、著作権フリーの洋書約 3500 点を含めて提供を開始した。ホームページや OPAC から利用することが可能で、初年度は 414 件のアクセスがあった。 2. 利用者の多目的なニーズに応えるためのグループ学習室の開設 (新都心館) (1) 館内を改修しグループ学習室を整備した。平成25年度から利用に供する。 (2) 上記改修工事に関連して稀観本室を移設、整備し保存環境も改善された。教職員対象に貴重書の展示と室内の見学会を2日間行い、約70人が来場した。 3. 設備整備による環境の向上 (新都心館スキャナーコーナーの拡充、閲覧室の椅子張替えなど) (1) スキャナーは A3 を 1 台追加し、既存の A4 を A3 に変更して利用の多い A3 を 3 台に増やした。 (2) 閲覧室の椅子はソファ以外のすべての張替えが終了した。 (3) 磨耗が激しいカウンター周辺のカーペット交換を行った。 4. 図書館間相互協力複写料金の図書館一部負担の実施 依頼相手館によって料金が異なる複写料金の差額を図書館が負担することによって、館内コピーと同額で利用者が資料を入手できるようにした。 5. その他 (1) 文化学園リポジトリにこれまで図書館で刊行した稀観本・雑誌の解題を含め約670件を登録し公開した。 (2) 閲覧希望の多かった18～19世紀の洋雑誌2タイトル約1万画像のデジタル化を進めた。現在はDVDでの利用が可能で、アーカイブサーバ更新後インターネットで公開する。 (3) OPAC のトップページに利用者の興味を引くと思われるテーマで所蔵資料を紹介する「公開テーマ」を表示した。また、購入している雑誌の Web 版を容易に閲覧できるように、OPAC の検索結果にリンクをはった。 (4) 文化祭の展示として「きものづくし～和古書から見るきもの世界～」と題し、雛形本や和裁教授書・絵巻物を展示し、和古書の装丁見本も紹介した。約 400 人が入場した。 (5) 4 月の「全学 FD・SD 研修会」に参加した。9 月には館員 10 人が分科会 (秋の分科会) に初めて参加し、大学教職員との情報の共有化に努めた。 (6) 平成 23 年度の 図書館概要・業務報告を冊子にまとめ各部署に配布した。 (7) 利用の多い資料の中から状態の良くない資料を選び、積極的に買い替えを進めた。 (8) 館員が参加した研修の館内報告会を行い図書館界の動向や新しい情報を共有した。 【共】
次年度への 課題 (平成 25 年度)	1. ホームページの改訂 (英語版ページを追加し、スマートフォン・タブレット端末に対応) 2. 多様な学習支援サービスのひとつとしてのグループ学習室の提供開始 (新都心館)。 3. 新入生対象の必修科目「スタディスキルズ」への協力 (新都心館)。 4. 設備環境の整備 (就職・資格関連コーナーの設置—新都心館、パソコン用電源の整備—小平館) 5. オンライン文献データベースの充実 【共】

■検討組織名：文化学園大学図書館

開催年月日	図書館委員会
平成 24 年 7 月 25 日	1. 平成 23 年度業務報告 2. 平成 24 年度業務計画・資料費予算 3. 意見交換 ほか
平成 24 年 12 月 4 日	1. 平成 24 年度上半期業務報告 2. 平成 25 年度業務計画案・予算案 3. 平成 25 年度図書館開館日程案の審議（平成 25 年 2 月 19 日教授会承認） 4. 意見交換 5. 稀観本室見学 ほか
平成 25 年 3 月 6 日	1. 平成 24 年度下半期図書館業務概況 2. 図書館運営に関する意見交換ほか

開催年月日	部会（館員全体会議）
平成 24 年 4 月 2 日	1. 平成 24 年度組織・委員会編成 2. 各課業務分担 3. その他の業務分担 ほか
平成 24 年 5 月 31 日	1. 各課報告 2. 電子書籍登録 3. 文化祭展示 4. 貴重書室改装進捗状況 5. 研修報告 ほか
平成 24 年 6 月 29 日	1. 各課報告 2. 除籍作業 3. 文化祭展示 4. 貴重書室改装進捗状況 5. 研修報告 ほか
平成 24 年 9 月 28 日	1. 個人寄贈資料の整理 2. 外部書庫作業報告 3. 貴重書室改装進捗状況と今後のスケジュール 4. 旧貴重書データベースの媒体変換 5. 研修報告 ほか
平成 24 年 11 月 30 日	1. 平成 25 年度業務計画・予算・図書館開館日程案 2. 蔵書点検報告 3. 貴重書室改装報告、書庫事務室及び事務室改装計画 4. 研修報告 ほか
平成 25 年 1 月 31 日	1. 各課報告 2. 平成 25 年度開館日程案 3. 事務室レイアウト案 4. 研修報告 ほか

開催年月日	運営会議（管理職会議）
平成 24 年 4 月 17 日	1. 各課業務報告 2. OPAC の「公開テーマ」表示 3. 電子書籍の受入 ほか
平成 24 年 5 月 15 日	1. 文化学園リポジトリ進捗状況 2. 寄贈資料の受入 ほか
平成 24 年 6 月 12 日	1. 参考書架スペースの縮小計画 2. 海外 ILL の料金 3. 文化学園リポジトリの運用 ほか
平成 24 年 7 月 10 日	1. 貴重書室改装に伴う資料移動計画 2. 第 1 回図書館委員会 ほか
平成 24 年 9 月 11 日	1. 新貴重書室・H 館書庫増設 2. 図書館概要・業務報告の学内公開 3. 文化ファッション研究機構予算について
平成 24 年 10 月 16 日	1. 小平資料の除籍 2. 電子ジャーナル契約見直し 3. 平成 25 年度予算案 4. 著作権法改正 5. JIS の登録ほか
平成 24 年 11 月 13 日	1. 平成 25 年度業務計画・予算案 2. 書庫事務室及び事務室改装計画 ほか
平成 24 年 11 月 20 日	1. 平成 25 年度業務計画・予算案 ほか
平成 24 年 11 月 27 日	1. 文化学園リポジトリ規程 2. 貴重書デジタルアーカイブ進捗状況 3. 「スタディスキルズ」 4. 平成 25 年度予算案・図書館開館日程案 ほか
平成 24 年 11 月 29 日	1. 第 2 回図書館委員会 2. 平成 25 年度予算案
平成 24 年 12 月 4 日	1. 文化学園リポジトリの進捗状況 2. 第 2 回図書館委員会 3. 稀観本室公開 4. 平成 25 年度予算案 ほか
平成 24 年 12 月 11 日	1. 平成 25 年度業務計画・予算案 2. 稀観本室公開
平成 24 年 12 月 25 日	1. 平成 25 年度業務計画・予算案 2. 人事体制 ほか
平成 25 年 1 月 22 日	1. 図書館開館日程案 2. 除籍 3. 「スタディスキルズ」 4. 平成 24 年度予算消化状況 5. 文化学園リポジトリ進捗状況 6. 人事体制 ほか
平成 25 年 2 月 12 日	1. 事務室改装 2. 平成 25 年度業務分担 3. 「装苑」アーカイブの利用 4. 図書館規程の変更
平成 25 年 3 月 5 日	1. 平成 25 年度予算 2. 第 3 回図書館委員会 3. 文化学園リポジトリ規程 ほか
平成 25 年 3 月 22 日	1. 平成 25 年度組織編成 ほか

■検討組織名：文化学園服飾博物館

報告者：佐藤 正明

提出日：平成 25 年 4 月 1 日

本年度の課題 (平成 24 年度)	1. 展示：服飾博物館における年 4 回の企画展示、及び館外展示を行う。 2. 資料収集：企画展示に必要な資料や、歴史的・地域的な見地から不足していると思われる服飾資料の収集。 3. 所蔵資料のデータベース化の推進、運用。 4. 所蔵資料の写真撮影：既存資料の未撮影分と新収資料についての撮影。 5. 所蔵資料の整理・保存：所蔵資料の収蔵状態を整備し、よりよい保存を行う。 6. 印刷物の作成：『文化学園服飾博物館だより』、展示目録等の作成。 7. ホームページの更新。 8. 博物館の本学学生利用の促進とともに、更なる外部利用者の増加をはかる。 【共】
取組の結果と 点検・評価	1. 服飾博物館における年 4 回の企画展示の他、韓国の国立古宮博物館への貸出展示や、中央区郷土天文館への資料貸出と、世田谷の静嘉堂文庫美術館において礼服の展示協力を行ない博物館の活動範囲を広げることができた。 2. 「アフリカの染織」展など、展示企画に合わせて不足している資料の収集を行なった。また歴史的な見地から江戸時代の小袖（紫縮緬地文字ちらし文様）など手に入り難くなっている日本の資料の購入も行ない資料の充足を図ることができた。 3. 所蔵資料のデータベース化の促進に関連し、システムそのものの検討を行い、さらに使いやすく様々なデータが記録でき、誰もが情報を共有できるシステム導入の方向性を確実にし、平成 25 年度導入に向け、予算面での試算までの検討を終了したことにより導入が待たれる。 4. 新収蔵資料の写真撮影を実施し、写真データの整備を進めることができた。 5. 所蔵資料の一部の見直し整理を実施した。燻蒸も行い資料の保全を確実にした。 6. 『文化学園服飾博物館だより』を作成した。 7. 随時最新情報の更新を行なっているが、導入後 8 年というシステムの不都合を是正すべく、新たなホームページの構築を検討し、次年度に向けての新システム導入に結論を出した。 8. 博物館における体験・参加形展示の実践や、渋谷区観光協会との提携、ギャラリートークの開催、新たなミュージアムグッズの提供等、来館者が楽しめる展示形態を実践し、利用者に新しい博物館体験を提供できた。 【共】
次年度への 課題 (平成 25 年度)	1. 資料収集：企画展示に必要な資料や、歴史的・地域的な見地から不足していると思われる服飾資料の収集。 2. 所蔵資料のデータベース化の推進と新システムの導入。 3. ホームページのリニューアル。 4. 所蔵資料の写真撮影：既存資料の未撮影分と新収資料についての撮影。 5. 所蔵資料の整理・保存：所蔵資料の収蔵状態を整備し、よりよい保存を行う。 6. 文化学園創立 90 周年など、周年行事にふさわしい充実した展示の実施。 7. 博物館の本学学生利用の促進とともに、更なる外部利用者の増加を図る。 8. 授業への利用、教員の研究資料等、収蔵資料の展示以外の活用を図る。 【共】

開催年月日	会議等の開催記録
平成24年 4 月12日～6 月 2 日	「ヨーロッパ・モード」展 （学内は 4 月 5 日より開催） 会場：服飾博物館
平成24年 7 月 6 日～9 月21日	「アフリカの染織」展 会場：服飾博物館
平成 24 年 9 月 11 日	博物館運営・専門委員会 (A044a) 平成 23 年度報告、平成 24 年度計画、意見交換
平成24年10月13日～11月25日	中央区郷土天文館への資料貸出展示 「ふたつの銀座復興、文明開化とモダン文化」 会場：中央区郷土天文館
平成24年 9 月22日～11 月 25 日	世田谷の静嘉堂文庫美術館において礼服の展示協力 「岩崎彌之助のまなざし—古典籍と明治の美術—」 展
平成24年10月17日～12月 22 日	「織りの服、染めの服」展 会場：服飾博物館
平成24年12月 11 日～ 平成25年 1 月 27 日	「徳恵翁主」展（資料貸出） 会場：韓国国立古宮博物館
平成25年 1 月 25 日～3 月 14 日	「きものの文様」展 会場：服飾博物館

■検討組織名：文化学園ファッションリソースセンター

報告者：関間 正雄

提出日：平成 25 年 4 月 1 日

本年度の課題 (平成 24 年度)	1. 学校教育支援体制の継続、強化の継続。 2. 産学交流の推進の継続。 3. 外部情報公開と交流促進の継続。 4. 学内 Web 公開を目的としたコレクション画像データベースの更新・拡充 5. 研究機能付帯化の検討 6. 人材確保と養成 7. テキスタイル資料室：データベースの拡充。 映像資料室：ワールドコレクション画像ソフト等の整備。 【共】
取組の結果と 点検・評価	1. テキスタイル資料室：織物産地を中心として素材収集、公開及びレファレンス。テキスタイルデザインソフト 4Dbox の学生向け無料講習会開催（年 2 回）。 (1)映像資料室：ワールドコレクション画像データベース用データの収集。教材用映像資料の収集、公開及びレファレンス。 (2)コスチューム資料室：コスチュームギャラリーでの資料展示（年 2 回）。学内作品、デザイナー作品の収集、公開及びレファレンス。 (3)企画室：ファッションリソースセンターだより発刊（年 2 回）。学生企画展示（年 3 回） 2. 産学交流その他の実施。 織物産地との共同事業による現地体験学習・ワークショップ開催（年 4 回、延べ 248 人参加）。デザイナー作品等企画展（年 6 回、延べ 13,542 人見学）。産地見学（年 1 回、20 人参加）コンテスト開催。トークショー開催。 3. 外部情報公開の一環として「文化学園ファッションリソースクラブ」継続。有料化の下、一般利用者の会員制導入を図る。外部イベントへの資料提供及び展示協力。 4. 映像資料室：アーカイブコレクション情報を追加。テキスタイル資料室：布地データ追加。 5. 調整・検討中。 6. 3 資料室を 1 資料室に統合し人材確保と養成を合理化した。 7. 映像資料室：アーカイブコレクション情報を追加。テキスタイル資料室：布地データ追加。【共】
次年度への 課 題 (平成 25 年度)	1. 学校教育支援体制の継続、強化の継続。 2. 産学交流の推進の継続。 3. 外部情報公開と交流促進の継続。 4. 学内 Web 公開を目的としたコレクション画像データベースの更新・拡充 5. 資料室データベースの 1 本化に向けての調整。 6. データベースハード、ソフト整備に関わる補助・助成金の検討。 【共】

■検討組織名：文化学園国際交流センター

報告者：柿島 由雄

提出日：平成 25 年 4 月 1 日

本年度の課題 (平成 24 年度)	1. 各学校担当者との意見交換により学校と学生のニーズを把握し、支援に活かす。 2. 海外提携校との長期・短期の留学プログラムの内容充実（受入れ、派遣とも）。 3. 海外提携校とのジョイントディグリー、ダブルディグリー（連携大学との相互認定により一定期間に両大学の学位を取得できる制度）の実現可能性を探る。 4. 国際コンテスト応募や海外留学を支援するセミナー、ワークショップ等の開催。 5. 学内のグローバル環境の充実（業務に英語を必要とする教職員対象の英語講座を開催。学生を対象にした「英語カフェ」も継続する）。 6. 「文化学園スチューデント・アンバサダー（学生親善大使）」の活動促進。 7. 留学生センターにおいては、留学生同士あるいは留学生と日本人がより活発に交流できる行事や、留学生の日本文化理解を助けるための体験行事などを提供する。 【共】
取組の結果と 点検・評価	1. 各校の担当者との意見交換の機会である国際交流センター運営委員会を年 3 回開催し、交流センターの役割を再確認。行事や告知方法に関する新たな意見に基づき活動を展開した。【共】 2. 英・AUCB との特別留学プログラムが始動した。これは英語力が不足している学生にも留学の機会を広げる制度で、学部ごとに説明会を実施し学生への周知に努めた。【大】 3. 韓国の大学とのダブルディグリーの可能性について協議したが、多角的調査の結果、両国教育制度の違いにより双方の利益を満たすものではなかったことから実現には至らなかった。【共】 4. 海外コンテストのファイナリスト経験者によるセミナーや、外部教育機関の担当者による海外留学説明会を 3 回実施。より多くの学生に海外への挑戦を意識させることにつながった。【共】 5. 本年度からスタートした大学院のグローバルファッション専修に関わる教員を中心に、業務に英語を必要とする教職員対象の英語講座を 38 回実施した。また、学生を対象にした「英語カフェ」も 13 回開催し、学内のグローバル環境の充実に努めた。【共】 6. スチューデント・アンバサダーの本年度継続者は 19 人。主に短期研修で来日する海外の学生たちへの渋谷、原宿等街の案内役として 9 回の交流活動を行った。【共】 7. 留学生と日本人学生が日本語で話して交流を深めるイベント「日本語カフェ」を平成 24 年度新たに 2 回開催。スポーツを通じた交流イベント「バドミントン大会」も実施した。いずれも多くの学生が参加し言葉の壁を越えた交流ができた。【共】
次年度への 課題 (平成 25 年度)	1. 各校の担当者や教員との意見交換の機会を設け、各学校や学生のニーズを的確に把握した上で、海外教育機関と本学との交流等の教育支援活動へとつなげる。また、センターの活動や行事の周知に努め、希望する学生にはセンターのイベント情報やニュースをメール配信する。 2. 平成 26 年 1 月末に本学で開催される第 16 回 IFFTI 年次総会の準備と運営が円滑に進むように、実行委員会のサポートを行う。 3. 海外提携校との長期・短期の留学プログラムの内容を、受入れ・派遣ともに充実させる。 4. 海外留学や国際コンテストへの応募を支援し、関連のセミナーやワークショップを企画する。 5. 学内におけるグローバル環境の充実に図る。業務に英語を必要とする教職員対象の英語講座を継続して開講。学生を対象にした英語カフェ、英語セミナー等も継続する。 6. 現在 19 人が登録しているスチューデント・アンバサダーを再募集し、人数を増やして活動の幅を広げることで、学生の国際的視野の拡大を図る。 7. 留学生同士、あるいは留学生と日本人が交流できる行事や、留学生の日本文化理解を助けるための体験行事などを提供する。 8. 留学生の受け入れ増大のために、韓国における広報活動の見直しを行うほか、ブラジルやアセアン諸国の教育機関との共同人材育成プログラムを検討する。 【共】

■検討組織名：文化学園国際交流センター／国際交流センター運営委員会

開催年月日	会議等の開催記録
平成 24 年 5 月 31 日	第 1 回国際交流センター運営委員会 1. 国際交流センターの役割確認 2. 平成 24 年度の活動目標について 3. 運営に関する意見交換 4. 平成 24 年度の行事について
平成 24 年 9 月 10 日	第 2 回国際交流センター運営委員会 1. 平成 24 年度前半の活動報告 2. 平成 24 年度後半の行事確認 3. 国際交流センターの行事に関する意見交換
平成 25 年 3 月 15 日	第 3 回国際交流センター運営委員会 1. 平成 24 年度の活動報告 2. 平成 24 年度の活動の振り返り 3. 平成 25 年度に向けて、今後の予定 4. 各学校の海外広報活動に関する意見交換

■検討組織名：文化学園知財センター

報告者：原 敏夫

提出日：平成 25 年 4 月 1 日

本年度の課題 (平成 24 年度)	1. 知的財産の権利化の推進 (1) 申請のあった特許、意匠、実用新案の権利化を進める。 2. 知的財産に関する啓発活動 (1) 教職員及び学生を対象に知的財産に関する理解しやすい講演会や講義などの教育活動を行う。 (2) 年次報告書の作成・ホームページ更新を行う。 3. 知的財産の更新及び保護管理 (1) 学園所有の特許権、意匠権、実用新案、商標権の更新及び保護管理を行う。 4. 他大学との意見交換、情報交流を図る。 【共】
取組の結果と 点検・評価	1. 知的財産の権利化の推進について (1) 文化・服装形態機能研究所の伊藤由美子教授が出願した「体型測定方法及び体型測定システム（特願 2011-066893）の出願審査請求を行った。【共】 2. 知的財産に関する情報の普及、啓発に関する活動について (1) 平成 24 年 11 月 22 日に第 6 回知財センター講演会「デジタルコンテンツの著作物の取扱いについて」（一色国際特許業務法人 弁理士 板垣 忠文 氏）を開催し、学園各校の教職員や学生への啓発・普及活動を行った。【共】 また、知的財産に関する教育活動としてとして、大学造形学部学生を対象に（生活造形学科、90 分 1 コマ）、「クリエイティブキャリア論 B」として知的財産の基礎に関する講義を行い、学生の評価も好評であった（平成 24 年 12 月 13 日）。【大】 (2) 知財に関する概説、平成 23 年度の実績報告についてまとめたパンフレット（A4 版 1 枚）を 1000 部作成し、学園内各部署に配布し、知財センターの活動に関する職員の理解を深めた。また、ホームページを大幅に更新した。【共】 (3) 平成 23 年度版産業財産権標準テキスト「総合編」他を各研究室（大学・短大・文化ファッション大学院大学・文化服装学院）に配布した。【共】 3. 知的財産の更新及び保護管理について (1) 「洋裁用製図定規」の意匠権、「衣服の製作方法」の特許権、商標権「エッチカーブ」「ディーカーブ」「メイキング」等の更新を行った。【共】 4. 他大学との意見交換、情報交流について 知的財産権研究を目的とする勉強会「美術・デザイン系大学ネットワーク」（幹事校：女子美術大学）への加入を検討し、情報交換を行った。【共】
次年度への 課題 (平成 25 年度)	1. 知的財産の権利化の推進 (1) 申請のあった特許、意匠、実用新案の権利化を進める。 2. 知的財産に関する啓蒙活動 (1) 教職員及び学生を対象に、知的財産に関する理解しやすい講演会や講義などの教育活動を行う。 (2) 年次報告書の作成・ホームページ更新を行う。 3. 知的財産の更新及び保護管理 (1) 学園所有の特許権、意匠権、実用新案、商標権の更新及び保護管理を行う。 4. 他大学との意見交換、情報交流を図る。 【共】

■検討組織名：文化学園知財センター

開催年月日	会議等の開催記録
平成 24 年 5 月 24 日	知財センター小委員会 1. 運営委員会開催時期及び議事の検討
平成 24 年 5 月 28 日	知財センター運営委員会 1. 平成 23 年度業務実績 (1) 特許出願 (2) 権利化活動実績 (3) 知財センター主催第 5 回講演会の開催 (4) 知財センターパンフレット 2010 の配布 2. 平成 23 年度自己点検 (1) 平成 23 年度の課題 (2) 取組の結果と点検・評価 (3) 平成 24 年度の課題 3. 平成 24 年度予算・事業計画 (1) 知的財産の権利化 (2) 第 6 回知財センター講演会の開催 (3) 知財センターパンフレット 2011 の配布 (4) 知的財産の更新及び保護管理 (5) 他大学との意見交換・情報交流
平成 24 年 8 月 22 日	知財センター小委員会 1. 講演会開催時期と講演者の検討
平成 24 年 9 月 4 日	知財センター小委員会 1. パンフレット作成に関する検討
平成 24 年 11 月 7 日	知財センター小委員会 1. 講演会の会場確認、講演会の準備内容の確認
平成24年 11 月 19 日	知財センター小委員会 1. 講演会当日のスケジュール、講演内容の確認
平成24年 11 月 22 日	第 6 回知財センター講演会 「デジタルコンテンツの著作物の取扱いについて」 (一色国際特許業務法人 弁理士 板垣 忠文 氏)

共同研究拠点

■検討組織名：文化ファッション研究機構

報告者：森川 陽

提出日：平成 25 年 3 月 31 日

本年度の課題 (平成 24 年度)	1. 「服飾文化共同研究拠点」事業の推進 2. 服飾文化研究の裾野を広げるための企画 3. 整備期間完了後の事業計画の策定 【共】
取組の結果と 点検・評価	1. 「服飾文化共同研究拠点」事業の推進 (1) (共同研究事業の推進及びまとめ) 平成 22 年度採択の 9 件と平成 23 年度採択の 2 件の共同研究課題と、平成 23 年度採択の 4 件の若手研究者支援事業を推進し、上述した 15 件の共同研究の成果を「服飾文化共同研究最終報告書」にまとめた。また、平成 23 年度終了課題である共同研究 14 件に関して、各共同研究グループが独自の最終報告書を作成し、それらを CD に集約した。 (2) (共同研究集会の推進) 共同研究者延べ人数 182 人により、共同研究室の積極的な利用が推進され、共同研究集会が多数開催された。 (3) (服飾文化データベースの構築) 平成 23 年度に構築した服飾文化情報検索サイト FCCL (フククル) の充実に努め、研究者データベースとの接続、博物館所蔵品データベースとの接続を実施し、服飾文化情報に関して研究者、文献・資料、実物の服飾資料の橋渡しが行えるように整備した。また、染織文化の伝統を継承することが困難な現況に関して、古典技法継承者のコミュニティ復興、伝統の継承及び発展を志向して染織古典技法継承者検索システムを構築した。加えて、フランスの貴重雑誌“Journal des Dames et Modes” “La Mode” の電子化を行った。 (4) (服飾文化関連のシンポジウム等の開催) 平成 25 年 1 月 28 日に、衣裳作家桜井久美氏を講師に迎え、服飾文化特別講演会「舞台衣裳を考案する魅力」を開催した。また、平成 25 年 3 月 2 日に「服飾文化共同研究の研究成果発表会及び総括シンポジウム」を開催し、平成 24 年度が最終年度となる共同研究課題 15 件の成果発表と、丸山伸彦武蔵大学教授による基調講演、5 年間の拠点整備事業の意義についてディスカッションする総括シンポジウムを開催した。 2. 服飾文化共同研究の裾野を広げるための企画 (1) (服飾文化の若手研究者の活動支援事業の企画) 学内の若手教員育成のために、若手教員研究奨励金による支援事業を実施し、文化学園大学 (2 件)、文化ファッション大学院大学 (2 件)、文化服装学院 (1 件) の若手教員の研究課題を採択した。本事業に関して、平成24年 5 月23日と平成24年11月28日に研究成果発表会を開催した。 (2) (文化祭の企画展示) 文化祭期間に、若手教員研究奨励金によって無印良品と共同開発して製品化に成功したベビーウェアや、合成貝紫による服飾制作品の展示、日本刺繍のワークショップを行った。併せて、全 44 件の共同研究課題の概要を示したパネル展示を行った。 3. 整備期間完了後の事業計画の策定 平成20年度から平成24年度の服飾文化共同研究拠点の整備事業完了後の事業計画に関して、継続して共同研究拠点の認定を受けること、5 年間で形成した延べ 182 人の共同研究員を中核とした研究者コミュニティにより、研究集会の定期的な開催を行うこと、成果を服飾文化研究論文として発表すること等策定した。 【共】
次年度への課題 (平成 25 年度)	1. 「服飾文化共同利用・共同研究拠点」の認定の継続 2. 共同利用を中心とした研究事業の推進 【共】

■検討組織名：文化ファッション研究機構

開催年月日	会議等の開催記録
平成 24 年 4 月 11 日	第 1 回文化ファッション研究機構小委員会 1. 平成 24 年度の事業と平成 25 年度以降の事業の方向性について
平成 24 年 5 月 15 日	第 1 回文化ファッション研究機構運営委員会 1. 平成 23 年度 事業報告（案） 2. 平成 24 年度 事業計画（案） 3. 平成 24 年度 予算（案） 4. 運営委員の任期について 5. 整備事業終了後の運営について
平成 24 年 6 月 1 日	第 2 回文化ファッション研究機構小委員会 1. 共同研究開発（新生児用肌着） 2. 共同研究立上げ（貝紫染織共同研究） 3. 若手教員研究奨励金について
平成 24 年 7 月 31 日	第 1 回文化ファッション研究機構研究企画委員会 1. 若手教員研究奨励金について
平成 24 年 9 月 26 日	第 3 回文化ファッション研究機構小委員会 1. 新規共同研究員の承認 2. 文化祭の展示 3. 服飾文化特別講演会 4. シンポジウム
平成 25 年 1 月 28 日	平成 24 年度服飾文化特別講演会 「舞台衣裳を考案する魅力」 （講師 衣裳作家 桜井 久美氏）
平成 25 年 3 月 2 日	服飾文化共同研究拠点シンポジウム 「服飾文化研究の研究成果発表会及び総括シンポジウム」 ・研究成果発表会 発表テーマ 「能楽面袋に関する染織文化史的研究～分野横断的検証による」 「明治維新时期におけるフランスからの男子服意匠の導入の歴史～パリ AICP 校の資料のデータベースと解析～」 「制服としての看護服の変遷と現代における看護服のデザインの違いが看護師および患者に与える心理的影響」 「ファッション分野における政策的支援に関する研究～国内外の産業・文化政策を中心に～」 「ヴィクトリア朝の服飾表現にみる女性の自立と身体観に関する研究」 他 計 15 件 ・基調講演 丸山伸彦武蔵大学教授「『きもの』の 17 世紀—開花する江戸モード—」 ・プロジェクト研究の総括（「きもの」文化に関する研究、東アジア民族衣装に関する研究、現代ファッションの動態に関する研究） ・総括シンポジウム

附 属 研 究 所

本年度の課題 (平成 24 年度)	1. 「高機能アパレル開発に向けた動態学的基礎研究」について、平成23年度は時間の制約上実験の推進に軸足を置かざるを得ず、外部への発信法が文部科学省の評価としても指摘されている。平成24年度はこれらの成果を整理し、研究成果報告書を完成させるとともに、学術論文誌への掲載並びに英文による国際的発信を重要課題としたい。 2. 研究所の有効利用を目指して、更なる設備の充実と整備を図るとともに、人工気候室、人間工学実験室、研究所実験室がスムーズに使用できるよう、その整備、使用管理等、そのシステムをいかに構築するかが引き続き次年度の課題である。 3. 平成24年度は平成22・23年度の成果をまとめた研究所報第4号の発刊が課題である。前3号は紙質・画質ともに粗悪であったことから、これらの再検討を行い、質の高い所報の発刊を目指す。所報の審査員制度については継続審議とし、新規論文の収録を目指す。 4. 文部科学省から研究所活動に関する外部審査の設置が指摘された。その方法・組織等について検討し、平成24年度の実施を目指したい。 5. 設備装置の運用・管理及び研究所員の使用にかかわる事務管理について、専任技官の配置を平成24年度の引き続き重要課題と位置づける。 【共】
取組の結果と点検・評価	1. 平成21年度～平成23年度私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「高機能アパレル開発に向けた動態学的基礎研究」に関する公開シンポジウムを平成23年度末に実施するとともに、平成24年度はその研究成果報告書を刊行した。また成果の一部は学術誌に掲載された。 2. 前述の支援事業に伴う研究設備の充実により、研究所としての機能が向上し、外部からの委託研究・共同研究の申請も多数受託、または共同推進することができた。(カネボウ、花王サニタリー研究所、花王ハウスホールド、デサント、旭化成、蚕糸科学研究所、株式会社千趣会、京都電子工業等)。 3. 平成22・23年度の成果をまとめた研究所報第4号を発刊した。内容は、東日本大震災後の社会的ニーズへの対応も含み、約300ページに及ぶものとなった。所員の活発な外部への発信及び研究活動が反映された結果である。紙質・画質は費用との関係があるが、ともに前号より若干向上させることができた。 4. 所報の審査員制度については平成24年度も実施に至らなかった。この課題については、学園全体の取り組みとすべく、その方法・組織等についてさらに検討する必要がある。 5. 設備装置の運用・管理及び研究所員の使用にかかわる事務管理について、専任技官の配置を検討したが実現には至らなかった。 【共】
次年度への課題 (平成 25 年度)	1. 研究所設備・機器のさらなる充実を目指して、公的資金を中心とする支援事業への応募申請を行う予定である。 2. 引き続き外部からの委託・共同研究依頼申請に対応できるような体制を整え、研究成果を外部に向けて発信する。 3. 平成25年度は研究所の運営委員会を組織し、その定期的かつ活発な活動を通じて、研究所が学園全体の研究拠点となり、所員の研究レベルの向上に資するよう、方策を試行する。 4. 外部審査員制度の実施については、学園全体の取り組みとすべく、その方法・組織等について提案し実施を推進する。 5. 設備装置の運用・管理及び研究所員の使用にかかわる事務管理については、引き続き専任技官の配置を要請し実行を図る。 【共】

■検討組織名：文化・衣環境学研究所

開催年月日	会議等の開催記録
平成 24 年 4 月 6 日 平成 24 年 4 月 18 日 平成 24 年 4 月 23 日	カネボウ株式会社より人体の温冷覚測定装置を用いた敏感皮膚テスト共同研究の打ち合わせ 花王株式会社サニタリー研究所と平成 24 年度共同研究打ち合わせ 蚕糸科学研究所よりシルクワンピース着 花王株式会社ハウスホールド研究所と打ち合わせ
平成 24 年 5 月 14 日 平成 24 年 5 月 19 日 平成 24 年 5 月 30 日	花王サニタリー研究所と京都電子工業との合同打ち合わせ デサント株式会社スポーツウェアの追加実験 デサント株式会社実験結果報告会
平成 24 年 6 月 8 日 平成 24 年 6 月 11 日	株式会社千趣会より共同研究開発に関する打診 旭化成株式会社、共焦点レーザー顕微鏡による皮膚 3 次元形状計測に関する研究相談
平成 24 年 7 月 11 日 平成 24 年 7 月 18 日	京都電子工業（株）、共同開発の頭部発汗サーマルマネキン制度の実験的検討開始 ヘッドマネキンによる呼吸器マスクの実験
平成 24 年 8 月 8 日 平成 24 年 8 月 21 日 平成 24 年 8 月 27 日 平成 24 年 8 月 31 日	株式会社千趣会 OL 用クールビズスーツに関する布地・デザインの開発実験打合せ サーマルマネキン国際会議にて本研究所のサーマルマネキン及び新開発のソフト頭部マネキンについて所長講演 東京消防庁よりサーマルマネキンの見学 カネボウと敏感皮膚テスト研究の打ち合わせ、蚕糸科学研究所とシルク実験打ち合せ
平成 24 年 9 月 5 日 平成 24 年 9 月 10 日 平成 24 年 9 月 27 日	デサント株式会社スポーツウェアに関する研究報告 花王株式会社ハウスホールド研究所と受託研究中間報告会実施、旭化成より実験実施 株式会社千趣会と共同研究開発実施検討会
平成 24 年 10 月 2 日 平成 24 年 10 月 5 日 ～10 月 30 日	テレビ朝日、山ガールファッションに関するインタビュー収録 蚕糸科学研究所のシルクワンピース実験、旭化成の皮膚性状実験推進 カネボウ、帝人、花王サニタリー研究所、株式会社千趣会との打ち合わせ
平成 24 年 11 月 1 日 平成 24 年 11 月 28 日	花王株式会社サニタリー研究所との共同研究に関する打ち合わせ NHK「首都圏ニュース」ウォームビズに関する実験・収録協力
平成 24 年 12 月 7 日 平成 24 年 12 月 10 日	株式会社千趣会と共同研究開発実施検討会（学生との懇談会） 研究所所報第 4 号発刊に向けて所員に原稿提出要請
平成 25 年 1 月 18 日	蚕糸科学シルクワンピースに関する実験報告書検討会
平成 25 年 2 月 6 日 平成 25 年 2 月 19 日 平成 25 年 2 月 26 日	カネボウと敏感皮膚テスト研究結果に関する討議・打ち合わせ、 日経新聞主催、繊維 3 学会、繊維 8 社、日本化繊協会共催シンポジウム「先端繊維素材で未来を創る」で所長シンポジストとして発言 文部科学省実験室見学
平成 25 年 3 月 1 日 平成 25 年 3 月 7 日	カネボウ敏感皮膚テスト実験推進 研究所委員会開催、研究所報第 4 号最終チェック完了、 蚕糸科学研究所シルク結果討議、旭化成実験継続

本年度の課題 (平成 24 年度)	1. 共同研究の推進と公表【大】 2. 造形教育プログラムの開発と公表【大】 3. 研究所報「しつらい Vol. 5」の編集【共】 4. 私立大学戦略的研究基盤形成支援事業（平成 22～24 年度）のまとめと成果発表【大】
取組の結果と 点検・評価	1. 共同研究の推進と公表 平成 24 年度は、①長野県須坂市における古民家再生プロジェクトに関する研究、②古民家を活用した「ものづくりワークショップ」に関する研究、③戦前期の郊外居住地の形成と宝塚文化との関係について、④大規模マンションにおける自主集住活動の成熟過程に関する研究、⑤地域社会における芸術・デザインのあり方についての実践的研究の 5 件の共同研究を実施した。このうち「長野県須坂市における古民家再生プロジェクトに関する研究」については、長野県須坂市主催の「蔵の町並みキャンパス成果発表会」において研究成果を公表した（平成 25 年 2 月）。また、平成 23 年度の共同研究については、その成果を造形学部の学内研究発表会（平成 24 年 9 月）及び日本建築学会大会（平成 24 年 9 月）において発表した。【大】 2. 造形教育プログラムの開発と公表 平成 24 年度は、①打ち出し金具の教材モデル、②設計教材図書（くうねるすむところシリーズ 26～40）を整備した。また、今後の研究のあり方について運営会議で検討した結果、参画教員の拡大と 40 歳未満の若手教員による共同研究を活性化することを目的として、平成 25 年度からは「共同研究」と「教材開発」を一本化し、「共同研究（教材開発を含む）」「共同制作（教材開発を含む）」「若手による研究・制作」の 3 つのカテゴリーで研究募集を行うこととした。【大】 3. 研究所報「しつらい Vol. 5」の編集 研究所報「しつらい」の体裁や内容について運営会議で見直しをした。その結果、Vol. 5 については大きな変更をしないこととし、「歴史と環境」という特集テーマで企画・編集作業を行った。【共】 4. 文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業（平成 22～24 年度）のまとめと成果発表 3 年間の研究期間で実施してきた文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「高齢期の心身ストレス・生活自立をケアする環境デザイン（室内・道具・服装・生理・心理）」の最終年度のとりまとめを行った。平成 24 年 9 月に研究成果報告書（概要）を文部科学省に提出し、平成 25 年 3 月に最終成果報告会を実施した。文部科学省からの事後評価結果は B 評価であった。【大】
次年度への 課 題 (平成 25 年度)	1. 共同研究の推進【共】 2. 若手教員の研究・制作活動の支援【共】 3. 研究所報「しつらい Vol. 6」の発行・配布【共】

■検討組織名：文化・住環境学研究所

開催年月日	会議等の開催記録
平成 24 年 7 月 31 日	1. 平成 24 年度の予算執行について 2. 研究所報「しつらい Vol. 5」の編集方針について 3. 平成 25 年度の活動方針について
平成 24 年 9 月 27 日	1. 文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業の経過報告 2. 研究所報「しつらい Vol. 5」について 3. 平成 25 年度の研究テーマの募集方法について
平成 24 年 11 月 3 日	1. 研究所報「しつらい Vol. 5」について 2. 平成 25 年度の「共同研究」公募について
平成24年11月 27 日	1. 平成 25 年度の「共同研究」公募について 2. 平成 25 年度の事業計画について 3. 研究所報「しつらい Vol. 5」について

事 務 局

■検討組織名：全学SD委員会

報告者：遠藤 啓

提出日：平成25年4月1日

本年度の課題 (平成24年度)	1. 各課と教員が持つ情報を共有して、休学・退学事由を分析し、対策を講じる。 2. 入学してくる多様な学生に本学に誇りを持たせ、意欲を引き出す方策を検討し、可能なものから実施する。 3. 奨学金のための寄付金の募集に努めるなど、学生の支援体制の充実を図る。 【共】
取組の結果と 点検・評価	1. 入試対策委員会委員長の協力を得て、平成19年、平成20年入学者のGPA、卒業率を入試形態別・学科別に算定した結果、推薦入試による入学者がいずれの学科でもGPA、卒業率ともに勝っていること等が判明し、今後の入試に活用することとした。また、休退学理由の一つが進路変更であることに鑑み、転学科の取扱いを従来より柔軟にした。平成25年3月の全学SD研修会でもこの問題を取り上げ、事務局職員の問題意識の共有を図った。 2. 平成24年度は4月と9月の2回、教員・事務職員混成グループによる分科会を開催した。休退学のみならず、さまざまな事項について教員と事務職員双方が持つ情報の共有がはかられ、また新たな課題も抽出される結果となった。分科会報告書も作成され、課題となった事項のうち、事務局各部署で解決へ導けるものについて検討した。 3. 学校法人文化学園寄付金受入規程を整備し、平成24年8月から卒業生を中心に、在学生の海外留学支援や奨学金とすることを目的とする寄付金を募った。秋以降はペイパルによる受付も整備し、あわせて本学園在職者への寄付の呼びかけも行い、3月末には219件の寄付をいただいた。 【共】
次年度への 課 題 (平成25年度)	1. 本学における学生募集の重要性に関する認識を共有し、優れた学生の募集に努める。 2. 各課と教員が持つ情報を共有して、引き続き、休学・退学事由を分析し、対策を講じる。 3. 奨学金のための寄付金の募集に努めるなど、学生の支援体制の充実を図る。 【共】

開催年月日	会議等の開催記録
平成24年4月3日	全学FD・SD研修会の実施 午前中は全教職員を対象として、各学部の方針の確認を行った。 午後の分科会は、平成24年度は教員・事務職員混成グループとし、双方の情報の共有をはかった。教員のグループ構成は研究室単位の構成とした。
平成24年9月6日	全学FD・SD研修会 秋の分科会の実施 4月の分科会に引き続き教員・事務職員の混成グループにより、特に男子学生入学後半年を迎えて課題となっている事項を中心に討議した。なお、教員のグループは男子学生のいるクラスの担任・副担任、男子学生の履修者がいる科目の担当者等がどのグループにも存在し、男子学生に関する問題点、要検討事項等を全員で共有できるよう工夫した。
平成25年3月26日	全学SD研修会の実施 平成24年度に実施された学外団体主催研修会等に参加した職員は、予め事務局長あてに「学外団体主催研修会参加報告書」を提出した。内容は特に印象に残った事項や参考にしたい事項、本学で検討したい事項等。 その後、事務局長や管理職も含めてランダムに7グループに分かれて、休学・退学への対策、本学における今後の学生募集のあり方、共学化における諸問題、就職支援に関する事項等、検討・討議した。

学 園 本 部

■検討組織名：学園総務本部

報告者：佐藤 申

提出日：平成 25 年 4 月 1 日

本年度の課題 (平成 24 年度)	1. 学園のグローバル化にともなう職員の海外勤務について、規程の整備やマニュアル等を作成し海外赴任についての支援体制を構築する。 【共】
取組の結果と 点検・評価	1. 海外赴任の規程を作成し、平成 24 年 4 月に施行した。 この規程に基づき、平成 24 年 8 月より中国（大連）魯迅美術学院との合作校へ教員 2 人と一般職員 1 人の派遣（海外赴任）を行った。中国への赴任に関しては国際ファッション産学推進機構が中心となって現地校との交渉窓口となっている。その他の赴任に関する業務は人事厚生部と総務部がサポートしている。また、実際の赴任に際して発生した問題点や規程で明らかにすべき点等を整理し、海外赴任規定の改定案も作成した。 ※ 学校法人文化学園 海外赴任規程 平成 24 年 4 月 1 日付施行 【共】
次年度への 課題 (平成 25 年度)	1. 平成 24 年度では総合的な赴任マニュアルの作成ができなかったもので、平成 25 年度で赴任時の個別業務の資料をまとめ「文化学園海外赴任マニュアル」を作成する。また、中国での鳥インフルエンザの発生や政治的な不安定などを鑑み、赴任者の危機管理体制について再検討を行う。 ※ 学校法人文化学園海外赴任マニュアルの作成 【共】

開催年月日	会議等の開催記録
平成 24 年 4 月 24 日	海外赴任についての会議 出席部署：本部総務部、国際ファッション産学推進機構、文化外国語専門学校教務、文化服装学院教務、文化外国語専門学校赴任教員
平成 24 年 6 月 7 日	中国大連にて海外赴任についての会議 出席部署：魯迅美術学院、産学推進機構
平成 24 年 6 月 10 日	中国大連にて海外赴任についての会議 出席部署：魯迅美術学院、外語赴任者
平成 24 年 7 月 17 日	海外赴任についての会議 出席部署：本部、産学推進機構、学院教務
平成 24 年 9 月 6 日	海外赴任についての会議 出席部署：本部、産学推進機構、外語教務、学院教務
平成 24 年 10 月 4 日	海外赴任についての会議 出席部署：本部、産学推進機構、外語教務、学院教務
平成 25 年 1 月 24 日	海外赴任についての会議 出席部署：本部、産学推進機構、外語教務、学院教務、外語赴任教員
平成 25 年 2 月 13 日	海外赴任についての会議 出席部署：本部、産学推進機構、学院教務、事業局 外部より（みずほ銀行）
平成 25 年 2 月 25 日	海外赴任についての会議 出席部署：本部、産学推進機構、学院教務 外部より（みずほ銀行）

本年度の課題 (平成 24 年度)	1. 既存校舎の耐震整備計画に基づき、D館の耐震補強工事及び関連工事を行い、教育環境の整備と安全確保を継続的に実施する。 2. ふじ学生会館の耐震診断に基づく耐震補強工事と、クラブ室等の利用計画に基づいた改修工事を行い、教育環境の安全と環境を確保する。 3. 防災委員会の検討を踏まえた防災備品及び資材確保の充実と、災害に応じた初動マニュアルを作成して災害対策の向上を図る。 4. 職員及び学生に省エネルギー活動の参加を推奨し、夏場の電力削減を図る。 5. A・B・C館の消防法改正に伴う照明器具について改修工事を実施する。 6. 産業廃棄物（ゴミ・コピー用紙・什器備品等）の再資源化を継続的に推進する。【共】
取組の結果と 点検・評価	1. 既存校舎の耐震整備計画に基づき、D館の耐震補強工事及び関連工事を行い、教育環境の整備と安全確保を継続的に実施する。 (1) D館の耐震補強工事を完了し、教育環境施設の整備と安全を確保した。 (2) F館の耐震補強工事を完了し、教育環境施設の整備と安全を確保した。 (3) H館の耐震診断を行ない、耐震補強計画を策定した。 (4) 附属すみれ幼稚園のリニューアル工事を行い、教育環境整備を実施した。 2. ふじ学生会館の耐震診断に基づく耐震補強工事と、クラブ室等の利用計画に基づいた改修工事を行い、教育環境の安全と環境を確保する。 (1) ふじ学生会館の耐震工事とクラブ室及び各諸室の利用に合わせたリニューアル工事に着手し、平成 25 年 8 月完了予定とする。 (2) ふじ学生会館の学生の受け入れ準備を整え、管理体制を策定した。 3. 防災委員会の検討を踏まえ、防災備品及び資材確保の充実と災害に応じた初動マニュアルを作成して災害対策の向上を図る。 (1) 平成 23 年度より引き続き什器備品の転倒防止対策を強化した。 (2) 東京都帰宅困難者対策条例に対応し、非常食の確保について充実を図り、緊急災害対策の一環として、医療用消耗品の確保の強化を図った。 4. 職員及び学生に省エネルギー活動への参加を推奨し、夏場の電力削減を図る。 (1) 冷暖房設定温度を冷房（27℃）暖房（23℃）にして、熱源の節約を図った。 (2) A館角部屋の輻射熱対策として全熱交換器を導入し、熱効率を向上させた。 (3) A B C館の主要廊下照明器具について、LED 照明器具の更新を実施し節電を図った。 (4) 空調パッケージの高効率機器への更新を実施し、エネルギー消費量を削減した。 (5) 夏季一斉休暇を 3 日から 5 日へ増やして電力ピークカットとエネルギー消費量を削減した。 (6) 各校と連携を取り、輪番授業を行い電力ピークカットとエネルギー消費量を削減した。 5. A・B・C館の消防法改正に伴う照明器具について改修工事を実施する。 (1) A・B・C館のA・D階段非常照明及び非常口灯について消防法改正に対応し、人感センサー連動システムの導入と LED 照明器具の採用による電力削減を行った。 6. 産業廃棄物（ゴミ・コピー用紙・什器備品等）の再資源化を継続的に推進する。 (1) 職員及び学生に対し、ごみの分別推進を呼びかけ、再資源化、再利用化運動に努めた。【共】
次年度への 課 題 (平成 25 年度)	1. 平成 24 年度の耐震診断に基づいた耐震補強工事及び関連整備工事を行う。 2. ふじ学生会館のクラブ活動を主とした利用計画に基づいた改修工事を引き続き行い、学生生活の安全確保と生活環境の確保を充実する。 3. 各建物の利用計画に基づいた教育環境の整備を行う。 4. 新都心キャンパス及び小平キャンパスの緊急警報装置システムの計画を構築する。 5. 国際学生会館の統一管理標準と入寮募集活動の強化に努める。 6. 文化・ファッションテキスタイル研究所を整備し、教育環境を確保する。 7. 研修施設に接する道路拡幅工事（行政事業）と関連する整備計画を立案して予算化する。 8. 省エネルギー活動を計画的に推進する。 9. 産業廃棄物（ゴミ・コピー用紙・什器備品等）の再資源化を継続的に推進する。【共】

■検討組織名：学園経理本部

報告者：小池 雅己

提出日：平成 25 年 4 月 1 日

本年度の課題 (平成 24 年度)	1. 文化学園創立 90 周年事業への資金計画の策定。 2. 「文化学園創立 90 周年事業建設引当資産」、「退職給与引当資産」を積み立てる。 3. 引き続き、「文化学園財務・経理規程」及びそれに付随する細則等の見直しを行う。 【共】
取組の結果と 点検・評価	1. 文化学園創立 90 周年事業への資金計画の策定。 2. 「文化学園創立 90 周年事業建設引当資産」、「退職給与引当資産」を積み立てる。 (1、2 共通) 東日本大震災の影響等により、文化学園創立 90 周年事業を一部変更して新たに文化学園創立 100 周年に向けての事業計画としたことに伴い、「文化学園創立 90 周年事業建設引当資産」40 億円を取り崩し、「文化学園創立 100 周年事業建設引当資産」30 億円を積み立てた。また「退職給与引当資産」2 億円を積み立てた。 3. 引き続き、「文化学園財務・経理規程」及びそれに付随する細則等の見直しを行う。 「文化学園財務・経理規程」及びそれに付随する細則等について検討を重ねている。 【共】
次年度への 課 題 (平成 25 年度)	1. 文化学園創立 100 周年事業への資金計画を策定し、引当資産の積み立てを行う。 2. 財務部財務課を中心に外部資金導入の体制作りを進める。 3. 「文化学園財務・経理規程」及びそれに付随する細則等の見直しを継続的に行う。 【共】

■検討組織名：IT委員会(情報システム室)

報告者：淵上 和子

提出日：平成25年4月1日

本年度の課題 (平成24年度)	1. 学内ネットワークシステムの再構築実施 次期システムをサーバ仮想化による節電対策とスペースの確保を行い、平成24年度導入に向けて、最適な製品での構築を実施。 同時に老朽化が進むスイッチ・ネットワーク機器の入替えを検討する。 2. 附属機関のデータベースの充実化を図る。 既に稼動している、データベースの保守・整備。 ファッション研究機構／図書館リポジトリ／服飾博物館等のデータベース 3. 教室・パソコン教室の構築 平成25年度パソコン教室入替えの計画を検討する。 【共】
取組の結果と 点検・評価	1. 学内ネットワークシステムの再構築実施 サーバ入替えを実施、仮想化によりスペースの確保と運用管理の軽減、節電を図る。 引き続き老朽化の進んだネットワーク機器の入替え準備に入る。 2. 附属機関のデータベースの充実化を図る。 すでに稼動しているデータベースの運用の他に、服飾文化情報検索「フククルサーチ」の構築を行い、服飾に関する多彩な検索が出来るサイトの運用を開始した。 (http://fcclsearch.bunka.ac.jp/) 3. 教室・パソコン教室の整備 研究室隣の実習室へのパソコン増設により、学生サービスの充実を図る。 Windows用のパソコン教室からMac用のパソコン教室への入替えにより、グラフィックデザイン系の授業支援をした。 4. 証明書発行機の入替え 老朽化に伴う、証明書発行機の入替えを行いスムーズな学生サービスを図った。 【共】
次年度への 課題 (平成25年度)	1. ネットワーク機器の入替え 老朽化したネットワーク機器の入替えと同時に、無線LANのアクセスポイントの増設を計画する。 2. 事務システムのオープン化を検討 汎用機で行っている事務システムのオープン化を検討する。 3. 遠隔授業支援機器の入替え 遠隔授業によるTV会議システムの老朽化による入替えを検討する。 4. パソコン教室の構築 平成26年度パソコン教室入替えの計画を検討する。 【共】

開催年月日	会議等の開催記録
平成24年4月11日 平成24年5月14日 平成24年7月10日 平成24年8月7日 平成25年1月23日 平成25年3月5日	サーバ入替え打合せ
平成24年4月13日 平成24年10月5日	服飾文化情報検索「フククルサーチ」打合せ
平成24年4月25日 平成24年5月8日 平成24年5月21日 平成24年7月4日	証明書発行機入替え打合せ
平成24年6月12日 平成24年6月13日	新機種証明書発行機 デモ説明会(小平キャンパス) 新機種証明書発行機 デモ説明会(新都心キャンパス)
平成24年9月6日 平成25年2月4日	IT小委員会開催
平成24年12月7日	ポータルサイト代替案、デモ説明
平成24年10月4日 平成25年2月27日 平成25年3月25日	パソコン教室構築打合せ

附： 委員会委員一覧表
学部・学科・コース編成
入学定員・収容定員・在籍学生数
全学自己点検・評価委員会委員一覧

平成 24 年度 文化学園大学委員会委員一覧表

平成 24 年 5 月 1 日

[常置委員会]

◎委員長 ○副委員長 △書記 (敬称略・順不同)

		教 務	学生支援	研 究	入試対策	就 職
1	服装造形学 服装デザイン学 服飾工芸	田端 智香	小橋 宏美	◎塚本 和子	○高橋 良子	永富 彰子
2	短大部服装学科	鹿島 和枝	佐藤 綾	井口 彰子	△井上 昌恵	根本賀奈子
3	テキスタイル 機能デザイン学 生産工学、ファッション画	◎小柴 朋子	柚本 玲	八浪 美穂	角田 薫	斎藤 嘉代
4	服装社会学 服装史学	△田中 里尚	松平寿美枝	△大石さおり	福田 博美	◎松田 祐之
5	染織、金工 グラフィック・プロダクト 造形文化、絵画 基礎デザイン、色彩学	七里 真代	○佐藤百合子	加茂 幸子	北岡 竜行	庄司喜久美
6	建築デザイン 住居デザイン インテリアデザイン 短大部生活造形	渡邊 裕子	小田 敬子	岩塚 一恵	◎高橋 正樹	○丸茂みゆき
7	外国語・総合教養、日本語 情報科学、教育学・体育学、 調理学、博物館学	境 希里子	△森谷 直樹	勝山 祐子	富田 靖子	水原 寿里
8	国際文化 A、国際文化 B	○石田名都子	○久保田 文	○星 圭子	城 由紀子	三島 万里
9	国際ファッション 応用健康心理学	△安永 明智	柴田 早苗	杉田秀二郎	豊田かおり	古御堂 誠子
10	教務部 学生部 就職相談室	円谷 葉子 山口 嘉史	相川 孝 宮本 朱		相川 孝	△吉田 和代
学 長 指 名			◎スワット チャロン・ボ・ソリーニッチ	福田 善視 相川 孝		松本美保子 河本 和郎

[特別委員会]

全学自己点検・評価	全学 F D	研究倫理	研究公正	研究費不正使用防止	ハラスメント防止
◎佐藤眞知子 ○渡邊 秀俊 ○瀬島健二郎 △伊藤由美子 △梶田 貴子 永野 順子 渡部 旬子 押山 元子 磯崎 明美 沼尻 七子 北浦 肇 杉田秀二郎 遠藤 啓 福田 善視 相川 孝 円谷 葉子 山口 嘉史	◎星野 茂樹 ○スワット チャロン・ボ・ソリーニッチ △白井菜穂子 金川 孝義 長山 洋子 渡部 旬子 安永 明智 安居 典子 北岡 竜行 福田 善視 相川 孝 吉田 和代	◎濱田 勝宏 ○田村 照子 池田 和子 堀尾眞紀子 青柳 宏 荒牧 琢己 野口 京子 米山 雄二 渡邊 秀俊 永井 伸夫 佐藤真理子 遠藤 啓 △円谷 葉子	◎濱田 勝宏 遠藤 啓 池田 和子 堀尾眞紀子 青柳 宏 田村 照子 野口 京子 浅沼 由紀 近藤 尚子 永井 伸夫 福田 善視 原島 陽一	◎濱田 勝宏 ○森川 陽 池田 和子 堀尾眞紀子 青柳 宏 田村 照子 野口 京子 渡邊 秀俊 遠藤 啓 福田 善視 原 敏夫 小林 哲夫 小池 雅己 友利 光夫 △円谷 葉子	◎永野 順子 ○三島 万里 △千葉 悦子 安高 信一 鹿島 和枝 福田 善視 相川 孝 吉田 和代 相談員 平良木啓子 北浦 肇 七里 真代 星 圭子 柴田 早苗 小出 恵 宮本 朱 岡部佐代子

[学部専門委員会]

衣料管理士課程	建築・インテリア系資格	文化・語学研修	日本語教員養成課程	児童英語教員養成課程	紀要編集
◎大熊志津江 ○小柴 朋子 △由利 素子 香川 幸子 永井 伸夫 矢中 睦美 平良木啓子 大□ 寛子 鄭 永娥 小林 未佳	◎谷口久美子 ○浅沼 由紀 △久木 章江 渡邊 秀俊 横山 稔	◎高橋 哲夫 ○加藤 薫 △矢澤 郁美 石田名都子 C. ヒューベンスール 佐藤 浩信 山口 嘉史	◎齊藤真理子 ○加藤 薫 △星 圭子 白井菜穂子	◎久保田 文 ○坂本 政子 △石田名都子	<服装学・造形学研究> ◎糸林 誉史 ○高村 是州 △曾根 里子 根本 賀奈子 カボラリ 薫 佐藤真理子 藤井 玲子 <人文・社会科学研究> ◎中沢 志保 ○C.ヒューベンスール △杉田秀二郎 瀬島健二郎

[課程専門委員会]

教職課程	学芸員課程	司書課程
◎木村 典子 ○福井 路可 △森谷 直樹 永野 順子 藤井 玲子 カボラリ薫 川村めぐみ	◎佐藤 正明 △田中 直人 福田 博美 福井 路可 植木 淑子 岡島 奈音	◎宍戸 寛 △瀬島健二郎

図書館	留学制度検討	I T委員会大学小
◎近藤 尚子 ○安永 明智 沼尻 七子 北方 晴子 安野 彰	大沼 聡 ◎濱田 勝宏 池田 和子 堀尾真紀子 青柳 宏 佐藤真知子 坂本 政子 三國 純子 古屋 則子 本多 吉彦 遠藤 啓 福田 善視 相川 孝 柿島 由雄 △円谷 葉子 山口 嘉史	◎スワット チャロニボ・ソリーニツ ○渡邊 秀俊 濱田 勝宏 柳田 佳子 熊谷 伸子 野沢さおり 北浦 肇 村上 剛規 円谷 葉子 山口 嘉史 山川あづさ

入学定員・収容定員・在籍学生数（平成24年5月1日現在）

文化学園大学大学院

研究科名	専攻名	入学定員	収容定員	現員
生活環境学	被服環境学（博士後期）	2	6	13
	被服学（博士前期）	20	40	29
	生活環境学（修士）	6	12	10
国際文化	国際文化（修士）	6	12	8

文化学園大学

学部名	学科名	入学定員	収容定員	現員
服 装	服 装 造 形	360	1480	1319
	服 装 社 会	140	580	677
造 形	生 活 造 形	140	580	473
	建築・インテリア※1	120	380	255
	住 環 境※1	120	140	111
現代文化	国際文化・観光※2	30	30	23
	国 際 文 化 ※2	30	120	47
	国際ファッション文化	100	430	472
	応用健康心理※3	30	100	40
	健 康 心 理※3	30	40	2

※1 住環境学科は、平成22年4月より建築・インテリア学科に名称変更

※2 国際文化学科は、平成24年4月より国際文化・観光学科に名称変更

※3 健康心理学科は、平成22年4月より応用健康心理学科に名称変更

文化学園大学短期大学部

学科名	専攻名	入学定員	収容定員	現員
服 装	—	120	320	194
生活造形	—	40	100	51
専攻科	被 服	20	20	10

学部・学科・コース編成 (平成 24 年度)

文化学園大学大学院

生活環境学研究科	被服環境学専攻 (博士後期課程)	
	被服学専攻 (博士前期課程)	1 年次 アドバンストファッションデザイン専修 テキスタイルデザイン学専修 服装機能学専修 服装社会学専修 ファッションビジネス専修 ファッション文化専修 グローバルファッション専修
	生活環境学専攻 (修士課程)	1 年次 生活造形学専修 建築・インテリア学専修
国際文化研究科	国際文化専攻 (修士課程)	1 年次 国際文化専修 国際ファッション文化専修 健康心理学専修 2 年次 国際文化専修 健康心理学専修

文化学園大学

服装学部	服装造形学科	クリエイティブデザインコース 機能デザインコース アドバンストテクニックコース インダストリアルテクニックコース ブランド企画コース テキスタイル企画コース	
	服装社会学科	服装社会学コース ファッションビジネスコース 服飾文化コース	ファッション文化専攻 服飾史専攻
造形学部	生活造形学科	グラフィック・プロダクトデザインコース メディア編集デザインコース テキスタイルワークコース ジュエリー・メタルワークコース アートワークコース	
	建築・インテリア学科	建築デザインコース 住居デザインコース インテリアデザインコース インテリアファブリックコース	
	住環境学科	建築デザインコース 住居デザインコース インテリアデザインコース インテリアファブリックコース	
現代文化学部	国際文化・観光学科		
	国際文化学科	国際観光コース 国際文化コース	
	国際ファッション文化学科	スタイリスト・コーディネートコース プロデューサー・ジャーナリストコース 映画・舞台衣装デザイナーコース	
	応用健康心理学科		
	健康心理学科	健康心理コース 健康システムコース	

文化学園大学短期大学部

服装学科	ファッションクリエイティブコース ファッションビジネスコース
生活造形学科	
専攻科	被服専攻

全学自己点検・評価委員会 委員名簿

委 員 長	渡邊 秀俊
	佐藤 眞知子（平成 25 年 3 月まで）
副 委 員 長	瀬島 健二郎
副 委 員 長	伊藤 由美子
書 記	押山 元子
書 記	梶田 貴子
	永野 順子
	藤江 大輔（平成 25 年 4 月から）
	磯崎 明美
	沼尻 七子
	北浦 肇
	杉田 秀二郎
	遠藤 啓
	福田 善視
	相川 孝
	円谷 葉子
	山口 嘉史
	二茅 みゆき
	高野 博子
	藤澤 千晶

文 化 学 園 大 学
文化学園大学短期大学部
自己点検・評価報告書 -平成24年度-

平成 25 年 7 月 1 日発行

編集： 文化学園大学 文化学園大学短期大学部
全学自己点検・評価委員会

発行： 文化学園大学 文化学園大学短期大学部